第 18 回
全国高校生金融経済クイズ選手権
エコノミクス甲子園

大会実施報告書

認定NPO法人
金融知力普及協会
Association for the Promotion of Financial Literacy

CONTENTS

ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 2

概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・P. 3

エコノミクス甲子園はこんな大会です！・P. 4

各地方大会概要・全国大会参加者感想・・P. 6

全国大会・・・・・・・・・・・・・・・・・ P. 94

参加者アンケート・・・・・・・・・・・ P. 100

メディア掲載実績・・・・・・・・・・・ P. 101

事前学習教材・・・・・・・・・・・・・ P. 102

協賛社紹介・・・・・・・・・・・・・・ P. 103

Special Thanks ・・・・・・・・・・・ P. 104

スタッフ挨拶・・・・・・・・・・・・・ P. 106

エコノミクス甲子園の歩み・・・・・ P. 108

歴代全体写真・・・・・・・・・・・・・ P. 113

第 18 回エコノミクス甲子園を終えて

金融知力普及協会 理事長
エコノミクス甲子園 実行委員長
金子 昌資

2006 年度より実施しております「全国高校生金融経済クイズ選手権エコノミクス甲子園」もこの度第 18 回大会を無事終えることができました。高校生に楽しみながら金融知力を身につける機会を提供するという使命を持ち始まったこの大会も 18 歳となり、現在高校生の皆さんが生まれる前から続く大会となりました。長く続けることができておりますのも、延べ約 3 万人の参加者の皆様、各都道府県で行われる地方大会を主催いただいている金融機関の皆様、マニュライフ生命保険様ならびにウィーンの森様をはじめご支援ご協賛・ご協力をいただいております企業団体の皆様、後援をいただいた文部科学省、環境省、金融庁、消費者庁、金融広報中央委員会、国際金融公社の皆様、そして様々な形でこの大会に関わってくださった全ての皆様のおかげでございます。本当にありがとうございました。

近年は、成人年齢の変更やスマートフォンの普及などで、簡単に知らない人との連絡や支払い・送金が可能になり、若者がお金のトラブルや犯罪に巻き込まれやすくなっています。こうしたことから身を守るためにも知識が必要であると考えております。金融教育が必要と叫ばれて久しいですが、義務教育ではまだまだ実施されず、高校で家庭科にて扱われるようになりましたが、これもまだまだ不十分であると感じております。「金融知力」は、決して投資で儲ける「財テク」のようなものではなく、豊かな人生のために、お金という道具を使いこなせるようになるための万人に必要な知識です。エコノミクス甲子園の参加を通じて多くの高校生に、これからよりよい人生を築くための「金融知力」を身につけて欲しいと感じております。

また、第 10 回大会より、私と森正文氏で創設した「金子・森育英奨学基金」は、全国大会出場者のうち、経済的にゆとりある大学進学が困難な若者を対象に、返済不要の 200 万円の奨学金を給付しております。第 18 回大会までで、37 名の若者の大学進学を支援してまいりました。昨年、森正文氏が逝去されましたが、奨学金制度は継続し、引き続き有為の若者を支援してまいります。

コロナ禍は落ち着いたものの、円安や物価高が続く先行きのわからない社会では、将来のためにも金融経済の知識は不可欠です。第 19 回大会も全国から多くの高校生にご参加いただき、知識を身につけていただけるよう邁進いたします。引き続き皆様のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

概要 Summary

名　　称	第 18 回全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園
趣　　旨	社会にはばたく寸前の高校生が、世の中の金融経済の仕組みを理解しライフデザインやお金とのかかわり方を考える力＝「金融知力」を楽しく身につける為の教育イベントとして開催する。
期　　日	・募集開始　2023 年 8 月 15 日 ・地方大会　2023 年 11 月 12 日～ 12 月 17 日　全 44 大会（インターネット大会含む） ・全国大会　2024 年 2 月 23 日～ 25 日
主　　催	・地方大会主催　各地の金融機関有志 ・全国大会主催　認定 NPO 法人 金融知力普及協会

プラチナスポンサー

Manulife マニュライフ生命

ゴールドスポンサー

Wiennomori Corporation

ブロンズスポンサー

東京短資株式会社　Russell Investments　TAC　FIVE STAR　GB　休.com　EC.OBOG エコ甲学生ボランティア OBOG 会

後　　援

文部科学省　環境省　金融庁　消費者庁

金融広報中央委員会　IFC 国際金融公社 世界銀行グループ 市場を拓き、機会を創る

地方大会主催

北海道銀行　ブロクレアホールディングス 青森銀行　ブロクレアホールディングス みちのく銀行　77 BANK 七十七銀行　秋田銀行　山形銀行

すべてを地域のために 東邦銀行　筑波銀行　足利銀行　群馬銀行 私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます　埼玉りそな銀行　千葉興業銀行

千葉銀行　りそな銀行　横浜銀行　第四北越銀行　北陸銀行　北國銀行

ふれあい、さわやか 山梨中央銀行　八十二銀行　長野銀行　十六銀行　静岡銀行　愛知銀行

中京銀行　百五銀行 FRONTIER BANKING　関西みらい銀行　京都銀行　池田泉州銀行　南都銀行

紀陽銀行　ごうぎん　中国銀行　もみじ銀行　山口銀行　阿波銀行

百十四銀行　伊予銀行　北九州銀行　佐賀銀行　十八親和銀行　SBI損保

宮崎太陽銀行　宮崎銀行　沖縄銀行　NEOBANK 住信SBIネット銀行

協　　力

citi　JSDA 日本証券業協会 Japan Securities Dealers Association　財務省　ARES 一般社団法人 不動産証券化協会

公益財団法人 生命保険文化センター　一般社団法人 日本損害保険協会　SSI 一般社団法人 日本少額短期保険協会　投信協会 一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人日本資金決済業協会　ときわ総合サービス　ひとりひとりの夢をかたちに 日本FP協会　三井住友DSアセットマネジメント

一般社団法人 金融財政事情研究会　一般社団法人 日本クリプトエコノミー協会　NTAA 国際テクニカルアナリスト連盟（IFTA）加盟 日本テクニカルアナリスト協会® 特定非営利活動法人（NPO法人）

エコノミクス甲子園はこんな大会です！

1 出場を決意！

・公式 Web サイトから応募
・参加費は無料！

2 金融知力普及協会から送られてくる事前学習教材※オンライン教材含むで勉強

・18 歳までに学ぶ　契約の知恵 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：金融広報中央委員会
・これであなたもひとり立ち ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：金融広報中央委員会
・大学生のための人生とお金の知恵 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：金融広報中央委員会
・マナブとメグミのお金のキホン BOOK ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：全国銀行協会
・明るい未来へ TRY ！～リスクと備え～ ・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本損害保険協会
・株式会社制度と証券市場のしくみ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本証券業協会
・ほけんのキホン ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：生命保険文化センター
・もっと知りたい税のこと（令和５年７月）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：財務省
・これからの日本のために財政を考える ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：財務省
・今日から始められるかんたん不動産投資　初めての J リート ・・・・・・ 寄贈：不動産証券化協会
・基礎から学べる金融ガイド ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：金融庁
・わかりやすい投資信託ガイド　2023 年版 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：投資信託協会
・わかりやすいリートガイド　2023 年版 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：投資信託協会
・前払式支払手段　知っておきたい法律のはなし ・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本資金決済業協会
・進学にかかるお金と奨学金の話 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本 FP 協会
・10 代から学ぶパーソナルファイナンス ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本 FP 協会
・少額短期保険ガイドブック 2023 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：日本少額短期保険協会
・社会への扉 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：消費者庁
・持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：環境省
・飛び立て！未来 FP 技能士 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 寄贈：金融財政事情研究会
・暗号通貨やブロックチェーンの基礎を学べる漫画 ・・・・・・・・・ 寄贈：日本クリプトコイン協会
・はじめの一歩 テクニカル分析ハンドブック ・・・・・・・ 寄贈：日本テクニカルアナリスト協会
・今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 ・・・・・・・・・・・・・ 作成：金融知力普及協会

3 地方大会に参加

・地方大会は各地の金融機関が地域貢献として開催
・生活していく上で是非知っておいてほしい経済の基礎知識や地元経済などについて出題
・筆記問題（50 問）と早押しクイズ、そして決勝ラウンドで競う
・オンライン大会では 4 択クイズ（50 問）で正確さと早さを競う
・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場

エコノミクス甲子園はこんな大会です！

日本全国の高校生達に
金融経済を学ぶ機会を提供！
将来の日本をリードする人材の育成！

5 優勝チームはニューヨーク・ボストン研修旅行 または 国際経済オリンピック日本代表を選択！

・現地で活躍する様々な方へのインタビューや
　経済に関する様々な場所の見学を行う
　　または
・毎年７月末に行われる国際経済オリンピックに日本代表として出場

4 全国大会に参加

・各地方大会を勝ち抜いた高校生たちとともに、現実に即した企業の
　課題に対しチームで解決策を議論するビジネスケースや、より深い
　知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む

北海道大会　12月3日(日)開催

北海道銀行

優勝チーム　北海道札幌南高等学校
(3年ぶり7回目)
「カメラを温めるな」
今岡 音雄・猿渡 晄希

主催　北海道銀行

参加校一覧
北海道旭川東高等学校、北海道札幌南高等学校、
北海道札幌月寒高等学校、北海道札幌東商業高等学校、
北海道遠軽高等学校、旭川龍谷高等学校、
札幌日本大学高等学校、立命館慶祥高等学校

申込みチーム数　16チーム(8校)

運営スタッフ感想
北海道大会は第3回から開催し、本年度で16 回目となりました。スタッフや参加者、観覧者の協力があり、4年ぶりに集合形式で開催することができました。 参加を決意し、北海道大会を盛り上げてくれた参加者の皆様に感謝しておりま す。
決勝ラウンドでは、最後までどのチームが勝つかわからない展開となり、会場は大盛り上がりでした。 盛り上がっている高校生を見て、集合形式での開催を再開できたことを嬉しく思います。
本大会は8信用金庫および3信用組合との共催いただき、当日の運営にもご協力いただきました。
今後も北海道全域における金融リテラシー向上に貢献する取り組みとして、高校生に金融経済を楽しく学んでもらえる場を提供できるよう、本大会の開催に取り組んでまいります。

北海道大会代表　北海道札幌南高等学校　2年

今岡 音雄

地方大会。僕の通う高校には歴代参加者の心を動かしたポスターというものは掲示されていなかったが、所属するクイズ研究会で毎年参加していたので、相方をあみだくじで決め、慣例に則り参加。(この相方と組めたのは、じゃんけん勝率七割である自分の運の強さによるものだろう。)どちらも理系・世界史選択で経済には疎いものの、相方のクイズの知識で逆転。全国大会へと駒を進めた。
全国大会1日目。前日から天候が悪く不安だったが、5分の遅延で離陸。セサミストリートと笑点を楽しみ、色々あってオリセンに到着。ウキウキで荷物を整理していると、あることに気がついた。エコノミカ大会を目前に、エコノミカも自分も機体(期待)の中にあったのだ。絶望。大会では相方と勝ち数は同じだったものの得点差で自分は入賞できず、相方は5位、景品から共産党宣言を引き当てた。(彼は2日目の前夜祭でも北海道物産をゲット。羨ましすぎる。)1日目の交渉ゲーム(3位/8グループ)2日目の筆記(6位通過)、前夜祭については驚くべき経験をしたが、余白が狭すぎるので割愛。
2日目。この大会で最も印象深いビジネスケースについて述べたい。初対面、6人のメンバーで銀行の運営方針を決め、発表をする。社会の流れ、消費者の気持ち、商品の強み等々を考え議論。意見の相違がありながらも止揚し、上手くまとめる。このときの仲間、経験はバフェットほどの年齢になっても忘れないだろう。いい経験になった。(やる人は少数だろうが、気分が良く

なって一発芸をするのは危険。思い出にはなるが、帰りまでイジられる。後悔はしていない。）
最終日。ついに本番。事前資料を中心に対策をしたものの役に立てず、相方に頼り切っていた。時事対策や用語対策をもっとすればよかったと後悔。しかし、ルール自体が面白く、白熱した試合を経験、観戦できたので、心地よく大会を終えることができた。 勉強の成果を出せなかったことは悔しいが、２度とできないような経験を、この多感な時期に出来たことをとても嬉しく思う。運営していただいたスタッフの皆さん並びに参加者の皆さん。どうもありがとうございました。

北海道大会代表　北海道札幌南高等学校　２年

猿渡 晄希

１日目
朝は早かった。にもかかわらず、オリセンに着いたのは午後３時ごろで、地方勢はこういうところがディスアドバンテージだよなぁと思った。エコノミクス甲子園の事前番組を見ていた時、灘からなんか聞いたことのあるクイズ強い人たちが出てるぞと思っていたのだが、自分たちがまさか同じ部屋だとは思わず驚いた。どうせなら灘に一泡吹かせてやろうと思い、宿泊棟のベットの下に相方を忍ばせ、来た時にいきなり飛び出して驚かせようと待っていた。が、灘の人が来たのが午後５時ごろで、慣れない姿勢を長時間とっていたためかその時相方は既に満身創痍だった。しかも灘のウケもあんまりだった。結果として灘の人とは仲良くなれたので良しとしよう。
エコノミカ大会では６戦５勝で５位入賞を果たした。相方の方が大会当日までエコノミカに注いでいた情熱も時間も上だったので、ちょっと申し訳ないと思った。

２日目
朝からペーパークイズだった。僕は経済の単語とかはまあまあ対策していた方だったので、単純な知識問題が来ればいいなと思っていたが全く真逆の問題が出た。計算問題。苦手な分野だったがなんとか乗り切った。
ビジネスケースは正直仲間に助けられた面が大きかった。僕は進む話し合いの中でたまに茶々を入れたりするのがデフォルトであり、最終的には予算面の計算をひたすらするという仕事を任されていたが、発表本番はどのチームもビジネスケースの全体的な内容を質問されていたため、あまり予算の内訳は見られていないなぁと思った。
何はともあれビジネスケースも無事に終わり、気の置けない仲間もできたので楽しかった。

３日目
大会本番の日。僕らのチームは、経済の全体的な理解は相方が行い、枝葉末節の単語などは僕がひたすら対策するという形態をとっていたため、僕にとってはこの日が檜舞台だった。第１ラウンド、知識量に自信があった僕は、僕しかわからない問題が来るまで待つ予定だったが、運悪く知らない問題で強制回答が回ってきてしまった。その時はなんとか答えを捻り出し正解したが、それ以降のラウンドは自分の知識不足を実感させられる時間だった。第３ラウンドでは１問しか正解できないという失態を見せ、僕らはあえなく敗退となってしまった。
決勝の舞台は遠かった。憧れの先輩に並ぶことができなかったのが非常に悔しい。ただ、この３日間でかけがえのない仲間に出会えたのも事実だ。この経験を自分の人生に生かし、邁進していきたいと思う。

青森大会

12月17日(日)開催

プロクレアホールディングス

青森銀行

プロクレアホールディングス

みちのく銀行

優勝チーム　青森県立青森高等学校
(4年連続8回目)
「天佑神助」
大村 佳永・木村 琉人

主催　青森銀行・みちのく銀行

参加校一覧
青森県立八戸北高等学校、青森県立八戸高等学校、
青森県立弘前高等学校、青森県立青森東高等学校、
青森県立青森高等学校

申込みチーム数　7チーム(5校)

運営スタッフ感想
接戦で最後の一瞬まで目が離せない白熱したバトルでした。
この日のために学んだすべてが、今後の人生に大いに役立つことと思います。参加してくださった皆さんに拍手を送ります！

青森大会代表　青森県立青森高等学校　1年

大村 佳永

たいてい、この感想文というのはエコ甲出場のきっかけについてから始めようとするものだと思う。しかし、私はそのきっかけというのはこれと言って特になかったのだ。私も相方の木村君もクイズ研究会に所属している1年生だ。昨年の秋にクイ研の顧問からこんな大会があるとエコ甲参加募集の紙を貰った。私たちはエコ甲の存在を風の噂でしか知らなかったのである。締切が近づく中、なんとなく出てみようかなと思っていたところ、相方も同じように思っていて組むペアが居ないとの事だったため、なんとなく、本当になんとなくで参加しようと決めた。予想だにしなかった地方大会優勝から全国大会までの期間というのは大変ながらも沢山のことを学び楽しんだ。友人たちと一緒にエコノミカ対戦、学年末のテストを半ば捨てて深夜にマンキューを読み漁る日々、「嗚呼、短期的トレードオフというのはまさにこの通り」と嘆くばかりのテストと眠気とエコ甲対策の拮抗……。ここで忌々しいテストの話は水に流そう。うん。私たちはこの3日間で本当に様々なことを体感し学んだ。全国から集まってくる高校生たちとの交流という面でも本当に楽しい経験になった。事前ラウンドでは高校生のコミュニケーション力の高さに圧倒されてしまった。自分の未熟さや英語の大切さを痛感した。自分の意見を持ち、積極的に伝えていく姿勢を持ち自信を持てるように精進していきたいと感じた。本戦では壇上に立って戦うというのはやはり緊張が襲い、戸惑ってしまうこともあった。あの時もう少し攻めていれば、こう答えていれば…後悔の念は

数え切れない。しかし、今まで学んできたことは無駄にはならない。経済・金融の知識というのはこれから生きていく上で必要なものである。保険や家計のことなど絶対に避けては通れないものだ。ゆえに、今回出たからもう終わりではなく、これからも学びを深めていき、来年も出場出来るように日々の趣味として経済・金融を勉強していきたい。そして、エコ甲に出たという経験は有意義この上ない経験だ。出ようか迷っていたり興味があったりする人もいるだろう。エコ甲は新たな知識や刺激、交流を得られる最良の場だ。もしかしたら大学入試にも役立つかもしれない。「経済学部・経営学部志望じゃないから」「公共や政治・経済を履修してない、選択してないから」そんなことは全く関係無い。単なる興味だけでも構わない。是非、参加してみてほしい。最後に、私たちに素晴らしい経験をさせてくれた、エコ甲に関わる全ての方々、一緒に戦ってくれた相方の木村君、支えてくれた両親、対策に付き合ってくれたり応援してくれたりした友人たちに感謝の意を述べたい。本当にありがとうございました。

青森大会代表　青森県立青森高等学校　1年

木村 琉人

遠い昔、野球部で打率一厘だった私が、まさか「甲子園」と呼ばれる大会に出ることができるとは、想像もしていなかった。きっかけは家庭基礎の授業であった。エコノミクス甲子園第 16 回大会の活動報告書が、家庭科室に山積してあったのだ。表紙のエコノミクス甲子園のロゴに惹かれた私はすかさず手に取った。青森代表のページを開くと、そこにはクイズ研究会の三年生の先輩が載っており、驚いたのと同時に、自分もこの場に立ちたいという思いが強くなった。「青森の代表となる」という感覚がどのようなものか、知りたくなったのである。そしてその後、二年生の先輩も 17 回大会で全国大会に出場していたことを知り、より一層決意を固めた。

それから全国大会までの三か月は目まぐるしかった。大混戦の地方大会、友達とやったエコノミカ十番勝負、テストとエコ甲対策の短期的トレードオフ・・・。三か月間、自分に何ができるか考えながら、やれるだけのことをやった。迎えた全国大会。勿論後悔はたくさんある。会場に到着する前の明治神宮でもっと丹念に参拝できていたら、あの時資産インフレを使われる状況を招かなかったら、あの時日本銀行と回答できていたら・・・。しかしながら、自分にできることを考え実行した三か月、そして全国大会で挑んだ様々なラウンドでの経験は、これからの人生を歩んでいくうえで、大きな糧となった。全国の舞台に立つという大きな経験をしたことで、自分に足りないものが何なのか、そしてどうしたら全国で活躍する人間になることができるのか、明確になった。それは、「目標をつかみ取る渇望を忘れないこと」だろう。三か月、自分なりに考えて行動したとはいえ、全国優勝という目標への渇望が足りず、自分の能力を生かしきれなかったように思う。これは今後の人生の如何なるイベントにも共通することであり、必須なものであると思う。その為、来年は今回の反省点を踏まえ、優勝への「渇き」を大切にしてリベンジを果たしたいと思う。

今回の第 18 回大会の開催に関わって下さったすべての方々に感謝したい。

ありがとうございました。

宮城大会　12月16日(土)開催

77 BANK 七十七銀行

優勝チーム　宮城県仙台二華高等学校
(3年連続5回目)
「コル・カロリ」
室谷 あい・山尾 直大

主催　七十七銀行

参加校一覧
仙台市立仙台商業高等学校、
仙台市立仙台青陵中等教育学校、
仙台白百合学園高等学校、仙台育英学園高等学校、
宮城県仙台二華高等学校、宮城県仙台第三高等学校、
宮城県仙台第二高等学校、宮城県塩釜高等学校、
宮城県宮城第一高等学校、
聖ウルスラ学院英智高等学校

申込みチーム数　19チーム(10校)

運営スタッフ感想
４年ぶりの実開催、とても白熱した高校生の戦いが繰り広げられました。
我々もその戦いを間近で見ることができ、大変感動しました。また、チームで協力し、答えを導き出す姿も印象的でした。
ご参加いただいた高校生の皆さん、ありがとうございました！
エコノミクス甲子園に出場することで、金融知力がより皆さんにつくよう、今後も応援していきたいと思います。
改めて、ご参加いただき、ありがとうございました！

宮城大会代表　宮城県仙台二華高等学校　2年

室谷 あい

私にとって、エコノミクス甲子園全国大会1日目は5泊6日の旅の4日目で、カンボジアをフィールド(研究対象地)とする課題研究の発表を鹿児島で行った後、1人だけ明らかに大きなスーツケースを引き連れての参戦でした。正直、1日目は散々でした。まずは英語コース選択者は持ち込みを許可されていた英和辞典を何故か持っていなかったために現地調達しようとして新宿駅で迷子になった挙句結局買えなかったことに始まり、事前学習教材のせいで18kgもするスーツケースを冷たい雨の中取り回して17:30ギリギリにオリセンに辿り着き、エコノミカ大会とアクティビティは眠気と闘いながらどうにかやり過ごし、暖房の付け方が分からなかったために冷え切った部屋で疲労のためにルームメイトとほぼ話すことなく、狭いベッドで泥のように眠りました。やはり疲労により精神が参っていたのでしょう。食堂の味噌汁ディスペンサーにどこかディストピア的な雰囲気を感じ、産業革命以降の資本主義社会が人類にもたらしたものについて想いを馳せていました。

事態が好転したのは2日目です。テストと課題研究に追われて金融経済の勉強が疎かになっていたことに加え、1人だけ辞書を持っていないというハンディを抱えて臨んだ筆記ラウンドでしたが、どうにか乗り切ることができました。続いてのビジネスケースでは、部屋から見えた新宿の丹下健三建築に見惚れて元気を取り戻し、素晴らしいチームメイトにも恵まれて楽しいひとときを過ごしました。我々のチーム、“Yoyogi Consulting Co.Ltd.”は大変バランスの取れたチーム

で、各自の得意を生かして役割分担をし、私は金融経済の知識では劣ったものの、幼少期にアメリカに住んでいたことで培った英語力でチームに貢献することができたと思います。トップバッターで、質問に上手く答えられなかったという心残りもありましたが、全体２位という評価を頂くことができ、自信に繋がりました。
やはり、2日目のハイライトは前夜祭でしょう。英語コース選択者が中心のテーブルでお寿司を全テーブルの中で１番最初に平らげようチャレンジをしたり、他の参加者、企業・銀行の方、運営の方など色々な方とお話しすることができ、本当に夢のような楽しい時間でした。個人的には、課題研究の現地調査で 12 月にカンボジアに行った際に見かけたマニュライフ生命のシェムリアップ支店の写真を実際に社員さんにお見せすることができて良かったです。
実のことを言ってしまうと、最終日はいまいち記憶がありません。朝からずっとバタバタしていて、時間があっという間に過ぎて行ってしまった印象です。我々は結果として 2R 敗退となり、爪痕を残すことができず悔しい気持ちでいっぱいですが、不思議と後悔はありません。決勝では、自分と同部屋だった山口代表の方、ビジネスケースで一緒だった長崎代表の方が活躍されているのを見て、仲良くなった方々の躍進に本当に誇らしい気持ちでいっぱいでした。帰る時も時間的な余裕がなく、もっとオリセンにいたい！と１日目には思いもよらなかった気持ちを胸に、後ろ髪を引かれる思いでオリセンを後にしました。
３日間を通して思ったことは、アクティビティやゲーム、問題が本当によくできているなということです。どこか上から目線な言い方になってしまうかもしれませんが、「よく考えられた良問だなあ」と思うことが本当に多く、スタッフの方々の力量に脱帽です。
私は高校２年生なので、おそらく今回が最初で最後のエコノミクス甲子園全国大会でしたが、もしもう１回参加できるならぜひそうしたいと思える素晴らしい体験をたくさんすることができました。参加して本当によかったです。
最後に、この大会の運営に関わってくださった全ての皆様、全国から集った高校生の仲間たち、そして一緒に出場してくれた山尾君にこの場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。

宮城大会代表　宮城県仙台二華高等学校　１年

山尾 直大

今回、僕は先輩からのお誘いをいただけたことで、本大会に参加することができました。もともと、少し経済に興味はあり、ある程度は知っていると思っていました。しかし、今回の大会に出題されたことは、大会に向けて準備するまでは知らないことばかりで、自分の大会前の知識の無さと参加後の成長を実感できました。少し不安もありましたがそれはあっという間になくなっていました。
１日目はオリエンテーションとして行った交渉ゲームが印象に残っています。チームの人と協力して、本当の目的とは異なった戦略をとり実際にそれが上手くいきました。不利な状況を上手く打開できたと思っています。
２日目のビジネスケースでは、予算の中でどのような広告戦略をとるのかや、どのような潜在的な利益が得られるかといった、普段は考えないような視点も考える必要があり、実際の経営戦略の難しさを実感しました。
３日目はついに全国大会です。僕たちのチームは最初のラウンドでちょうど分からないタイミングで答える番がまわってきてしまい、それまでを考えるとチャンスを活かすことができませんでした。その後の第２ラウンドや敗者復活でもあと一歩のところで、敗れてしまい、少し悔しさも残る結果でした。
今回のエコノミクス甲子園に参加できたことは自分にとって、かけがえのない体験ができたと思います。それは、これからの時代に必要となる金融知識を身につけられた面でも、また志の高い人たちと２泊３日を過ごせた面でも。今回の大会に参加するきっかけをくれた先輩と、そしてこの大会をつくっていただいたすべての人に感謝したいです。

秋田大会　12月16日(土)開催

秋田銀行

優勝チーム　秋田県立秋田高等学校
(5年連続8回目)
「秋田高校ジャグリ」
金岡 拓途・畠山 礎瑛

主催　秋田銀行

参加校一覧
秋田令和高等学校、秋田市立秋田商業高等学校、
秋田県立由利高等学校、秋田県立秋田南高等学校、
秋田県立秋田高等学校、秋田県立能代松陽高等学校、
聖霊女子短期大学付属高等学校

申込みチーム数　26チーム(7校)

運営スタッフ感想
今大会は、7校23チームに参加いただきました。
参加者がチームで力をあわせて筆記クイズに真剣に取り組み、解答を見て一喜一憂する姿や早押しクイズの際に積極的に挑戦し、正解したときにガッツポーズをしながら喜ぶ姿がとても印象的でした。
決勝ラウンドでは難しい問題が多いなか、着実に正解し、所持金を積み上げた秋田高校「秋田高校ジャグリング同好会」チームが見事優勝を飾りました。
参加者からは、「楽しかったです！」「また来年も参加します！！」などの言葉をいただき、秋田大会は盛会裏に終了しました。
最後に、参加いただいた高校生の皆さん、大会にご協力いただいた関係各所の皆さまにお礼申しあげます。

秋田大会代表　秋田県立秋田高等学校　2年

金岡 拓途

1日目
初日ということで周りは知らない人ばかりで緊張も強かったが、エコノミカ大会を通してまずは気分を和ませることができた。またその後の交渉ゲームでは、初対面の仲間と、ぎこちないながらも協力して少しでも多くのポイントを取ろうと頑張ることができた。個人的にはフェーズをもう少し増やしてくれると最後の方までゲームができて良いのではないかと思った。部屋に戻ったあとは、同部屋になった鳥取代表の2人と話を少しして、部屋のパートナーとしての仲を少し深めることができた。

2日目
2日目はまずは筆記ラウンドから始まった。地方大会とは別次元の難易度で、夜に開かれた前夜祭のときに他の都道府県の代表に聞いてみても難易度は爆上がりだったようだった。実際、自分が確信を持って答えることができた問題は殆どなかった。筆記ラウンドのあとのビジネスケースでは最初はどのようにして進めれば良いのか分からず、暗闇の中を探る思いで資料を作っていった。本番のプレゼンでは、本番用の資料スライドが添付されていなかったというハプニングもあったが、なんとかグループ全員でやり切ることができた。

3日目
最終日の3日目は待ちに待ったエコノミクス甲子園本戦。第1ラウンドから難しい問題が多くて答えられるか心配だったが、なんとか一番易しいであろう問題を答えることができた。続く第2ラウンドでは、難しくて

少しも分からず、ここで敗退となってしまった。しかし、まさかの復活ラウンドがあることを知らされ、大きく湧いた。復活ラウンドでは、第一問から参加してなんとか第六問まで残ったが破れてしまった。
全体を通して、この大会に楽しく参加することができた。この経験を活かして、これからの人生をもっと豊かにしていくことができたら良いなと思った。

秋田大会代表　秋田県立秋田高等学校　2年

畠山 礎瑛

私は友人に誘われて地方大会に参加したのですが、それまでは経済に関してなんの興味も持っていませんでした。しかし、大会に参加し、経済に関する勉強を勧めていくことで、日常の中でも、経済に対して敏感になり、得られる知識がどんどん増えていきました。経済学は、数学や国語よりもより身近なもので、私達の暮らしの中に多く隠れ潜んでいます。経済学の勉強を通して、「経済学」がより身近なものであることを感じることができました。このような機会を得なければ、一生経済学を自発的に学ぼうとすることは無かったと思うので、友人には感謝しています。結果としては、勉強不足を痛感する悔しいものになってしまいましたが、今大会に参加して得た知識は腐ることがないので、今後の糧としていきたいです。このエコノミクス甲子園では、全国各地から集まった様々な高校生と交流をもつことができ、非常に楽しく有意義なものとなりました。全国にお友達を作れるのも、この大会の魅力だと思います。学年関係なく友好関係を築けたので、良い経験となりました。クイズ本戦以外にもたくさんのイベントが有りましたが、私が個人的に一番楽しかったのはエコノミカです。地方大会優勝時にエコノミカを頂いた時には鼻で笑っていたのですが、行きの新幹線の中で初めてやったときに、このカードゲームの面白さに気づきました。エコノミカ大会では全勝できましたが、考えるのに時間を使いすぎた結果、できた試合数が少なく、入賞はできませんでした。今後もたまに相方と遊びたいと思います。金融知力普及協会の方、秋田銀行の方、そして、過去のエコノミクス大会参加者であるボランティアスタッフの方々のお力でこの第 18 回エコノミクス甲子園に出場することができました。本当にありがとうございました。

山形大会　12月17日(日)開催

山形銀行

優勝チーム　山形県立山形東高等学校
(2年連続5回目)
「EASTBOYS」
武田 佳起・髙橋 幸太郎

主催　山形銀行

参加校一覧
山形県立寒河江高等学校、山形県立山形南高等学校、
山形県立山形東高等学校、山形県立山形西高等学校、
山形県立新庄北高等学校、山形県立東桜学館高等学校、
山形県立米沢興譲館高等学校、
山形県立鶴岡中央高等学校、日本大学山形高等学校

申込みチーム数　41チーム(9校)

運営スタッフ感想
当行では、本大会を人財育成の機会と位置づけ、新入行員4人が「実行委員」を務め、大会情宣や参加者募集活動に加え、サステナビリティ方針に則った当行のCSR活動や金融経済教育への関わりを広くPRする役割を担いました。また、新入行員全員を「サポーター」として任命し、募集活動を中心に全員で企画運営をサポートしました。
今年は、過去最多となる県内9高校から計41チームの参加を募ることができました。オンライン大会のため、雪国の本県においても、移動の負担なく大会に参加できることを広くPRし、県内全域からの参加を目指して募集活動を行いました。
これからも、地域金融機関の責務として、山形県の未来を担う高校生の金融知力向上に貢献していきます。

山形大会代表　山形県立山形東高等学校　2年

武田 佳起

エコノミクス甲子園に参加しようと思ったのはもともと経済や金融の分野に興味があったこととたまたま学校に貼ってあったポスターを目にしたことです。送られてきた教材をもとに一生懸命勉強して地方大会で優勝し、全国大会に出場することができました。
１日目は各都道府県からの代表が集まり、エコノミカ大会や交渉ゲームを行いました。初めて顔を合わせる仲間と上手くコミュニケーションを取れるか心配でしたが全員とても優しく、また話があい、楽しくレクリエーションをすることができました。
２日目は筆記試験のあとビジネスケースの制作から発表までを行い、最後に前夜祭がありました。筆記試験

は思うように答えられず自分の実力不足を痛感しました。ビジネスケースは内容が難しかったもののグループで知恵を絞りながらなんとか発表までこぎつけました。前夜祭では全国の仲間と交流を深められました。

３日目は本番でした。大ホールで大勢の人に見られながらクイズをするというのは初めての経験でとても緊張しましたが第１ラウンドはなんとか正解することができました。ただ第２ラウンドは相方との連携がうまく行かず、惜しくも予選ラウンド敗退となってしまったのが心残りとなりました。

３日間を通して、多くの貴重なことを経験させていただき、支えてくださった関係者の皆様には心から感謝申し上げます。そして、全国から来た仲間たち。最後まで本当にありがとう。みんなとまたどこかで会えることを楽しみにしています。

この経験を次のステージへと活かしていきたいです。本当にありがとうございました。

山形大会代表　山形県立山形東高等学校　２年

髙橋 幸太郎

元々は理系で経済学とは縁のなかった私ですが、相方からの誘いを受け地方大会に出場し、なんとか一位となり本戦の出場権を得ました。予選の勉強からたくさんの資料をいただいていましたが、本戦出場決定後は大学レベルの参考書まで無料で提供いただきそれを活用して経済学の勉強を行ってきました。

期待と緊張を抱きながらの本戦一日目は２つのレクリエーションを通して他校の生徒さんとはすぐに打ち解けることができ、程よく緊張が解け前向きに二日目に向かうことができました。二日目のビジネスケースは、非常に大変な活動でしたが、初対面の仲間と協力し合いプレゼンを完成させることでコミュニケーション能力などを磨けたと思います。三日目の本戦本番では満足のいく結果こそ得られませんでしたが、持てる知識を出し切り楽しんでクイズに向き合うことができました。

エコノミクス甲子園全体の活動を通して金融知識や他校の生徒さんと仲を深められたことは大きな収穫であったと感じています。その上、彼らの本戦本番での圧倒的な知識を目の当たりにした事で、自身の努力不足を痛感したと共にこれまで以上に努力しなければならないと強く思う事ができました。このような刺激的な経験ができたのは全国選りすぐりの生徒さんが全力でクイズに向き合う本大会に参加できたからに他なりません。

今後は今回得た経験を糧とし金融知識も他の知識もさらに深めて知性を育てていきたいと思います。エコノミクス甲子園、非常に楽しかったです。

福島大会

12月3日(日)開催

すべてを地域のために
東邦銀行

優勝チーム　福島県立福島高等学校
(2年連続10回目)
「コントラバス」
鳥海 那月・八木沼 愛莉

主催　東邦銀行

参加校一覧
ふたば未来学園高等学校、福島県立白河高等学校、福島県立磐城高等学校、福島県立福島高等学校

申込みチーム数　6チーム(4校)

運営スタッフ感想
4大会ぶりの集合開催となり、スタッフ一同不慣れな点が多々ありましたが、選手の皆様が真剣にクイズに挑戦し、また、チームメイトと協力し合って問題に取り組んでいる姿を見て、開催して良かったと嬉しく思いました。スタッフでも難しいと感じる問題も多く出題され、その中で選手の皆様が正解にたどり着いており、大会開催までの間たくさん勉強をして来られたのだと感じました。優勝されたチームも、残念ながら優勝できなかったチームも、この大会での経験、得られた金融知識を今後の人生に少しでも役立てていただきたいと思います。
優勝を決めた「コントラバス」チームのお二人には、2月の全国大会で、福島県代表としての自信と誇りを持って頑張っていただきたいと思います。当行は今後も、地域の未来を担う高校生たちの金融知識向上に取り組んで参ります。

福島大会代表　福島県立福島高等学校　1年

鳥海 那月

エコノミクス甲子園に参加することを決めたきっかけは、担任の先生の勧めでした。「将来調査書に書けるかもしれない。」という言葉に惹かれ、エコノミクス甲子園福島大会への参加を決めました。正直に言うと、経済への興味はそんなに無かったのが事実です。しかし、教材が届き、経済の勉強を進めるにつれ、「経済の勉強ってなんて面白いんだろう！」と思うようになりました。学校で習う、数学や英語の勉強も、楽しいと思うことはありましたが、それよりも経済の勉強は、もっと魅力的で楽しいものでした。新たな自分を発見したようでした。
地方大会では優勝のトロフィーだけではなく、たくさんの人から温かい激励をいただき、満を持して全国大会に臨みました。
地方大会から全国大会までの流れは順調であったと自負していましたが、大会2日目に行われた筆記試験が、今回の大会最大の反省点であり、失敗だと思っています。YouTubeのアーカイブで、去年の本戦の流れはある程度知っていましたが、筆記試験の詳細や傾向は全く分からなかったので、どう対策していけばいいかわからず、語句の意味を答える、所謂一問一答的な学習になってしまっていました。筆記試験では、一問一答的な問題よりも、計算など、実践的な問題が多く出題されていたように思います。そのため、思うように得点できず、相方の足を引っ張る結果となってしまい、本当に反省しています。クイズのための勉強ではなく、普段の生活に活かせるような勉強が大事なのだと実感

しました。その後のプレゼンラウンドでは、他大会代表の人達の知識の深さと思考力にただただ圧倒されたのを覚えています。しかし、私自身も意見を出せるところは出し、お互いに足りない部分を補いながら、良いプレゼンを作れたと思っています。上位入賞とはなりませんでしたが、とても印象的な時間でした。
3日目の本戦では、今までの勉強の全てをぶつける気持ちで臨みました。結果は、第2R突破、第3R敗退、という歯がゆいものでしたが、やれることはやり切った、と思えるような大会でした。しかし、まだまだ知識面で他チームに劣っていた部分もあったと思うので、それは反省点として、来年に繋げていきたいと思います。
3日間を通して、私が強く感じたことは、「夢に向かって努力していくことの大切さ」です。この全国大会に参加している人は、みな、それぞれの夢を持って、それに向かって今から努力を重ねていました。私はその姿に感化され、私が今まで決めていた進路を見直すきっかけにもなりました。自分はどんなことが好きで、将来何がしたいのか。今、改めて見つめ直しています。
そして、この大会で出会った経済が大好きな仲間たち、ボランティアの方々、運営の方々に大きな感謝の気持ちを送りたいです。この出会いに感謝し、また来年も、この大会に戻ってこれるよう、そしていつか、ボランティアとしてこの大会に参加できるよう、日々努力していきたいと思います。

福島大会代表　福島県立福島高等学校　1年

八木沼 愛莉

今回のエコノミクス甲子園への参加は私にとって人生最大の挑戦となりました。印象的だった場面を切り取ってお話しします。
はじめにビジネスケースラウンドです。「全国のメンバーとのレベル差」を強く感じました。持ち合わせている金融の知識、スライドの技術、質疑応答の対応など、メンバーのレベルの高さに圧倒され、自分の無力さも実感しました。サポートしてもらうばかりであまり力になれず、申し訳なかったです。それでも、長時間にわたる話し合いやカギとなるアイデアが生まれた時など、みんなで楽しめたのも事実です。あの6人のメンバーで良かったと思いますし、最高に楽しかったです。メンバーのみなさんには本当に感謝しています。
そして本戦。大逆転を果たした2ndラウンドの最終問題は最初のヒントで2択まで絞り、半分感覚で決めたところ、まさかの単独正解。終了後、他のチームの方々に「おめでとう！頑張って！」と言っていただけて嬉しかったです。応援してくれる方たちの分まで頑張ろうと決心していました。
3rdラウンドはランキング次第で決勝進出も夢ではなかったのですが、運が悪かった（という名の実力不足）かもしれません。
本戦の様子は学校の友人たちが配信を見てくれていました。グループLINEで感想をシェアしながら見てくれたようで、本当に嬉しかったです。私もみんなの応援のおかげで頑張れました。本当にありがとう！
また、出場者のみなさんと3日間でお別れなのが惜しくて仕方がありません。みんないい人でした。エコノミカや交渉ゲームを一緒にやった方々、ビジネスケースラウンドのメンバー、一緒にご飯を食べたみんな、前夜祭で声をかけてくれた方々、本戦でステージに上がる直前までお互い頑張ろうと声をかけ合った方々、本当に数え切れません。みなさんとのやりとりもかけがえのないものとなりました。「経済」という分野をきっかけに共に高め合える楽しい時間を過ごせたこと、これは皆さんがライバルを超えた特別な仲間だったからだと思います。みなさんありがとうございました！
そして、勉強不足をとことん実感しました。もっと知識があれば筆記ラウンドも、ビジネスケースラウンドも、3rdラウンドも、もっと満足できるものになったはずです。来年も出場したいのでそれまでの課題だと思います。経済は勉強してもしきれません。それでも突き詰めていくのが面白いのだと思います。
終わりに、エコノミクス甲子園に携わった全ての皆様には感謝しかありません。最高の経験をありがとうございました。

茨城大会　12月17日(日)開催

筑波銀行

Tsukuba Bank

優勝チーム　茨城県立並木中等教育学校
(4年連続6回目)
「オレンジの中」
小林 柚太郎・大関 倖平

主催　筑波銀行

参加校一覧
常磐大学高等学校、常総学院高等学校、
江戸川学園取手高等学校、茨城県立並木中等教育学校、
茨城県立土浦第二高等学校、
茨城県立日立第一高等学校、茨城県立竹園高等学校、
茨城県立ＩＴ未来高等学校、Ｓ高等学校

申込みチーム数　28チーム(9校)

運営スタッフ感想
今回もオンライン開催となりましたが、各学校での表彰式において、入賞した高校生たちの満足気な笑顔に触れられて、元気をもらいました。

茨城大会代表　茨城県立並木中等教育学校　2年

小林 柚太郎

一日目は、オリンピックセンターという慣れない場所、周りが強そうで知らない人ばかりで、とても緊張していました。エコノミカ大会はカードゲームが得意な友達に戦略を考えてもらっていたのですが、もっと本気で取り組んでいる人が多く負けてしまいました。このエコノミカや、運営の人が考えてくださった交易のゲームで、他の人とも打ち解けることができました。
二日目の最初は筆記クイズで、聞いていたのとは違う傾向の問題が出たのですが、私は事前に配られていた、マンキュー経済学という教材をよく読んでいたので、何とか解き進めることができました。その後のビジネスケースでは、チームの人と上手く連携し、難しい課題に取り組むことができました。
いよいよ三日目の本番ですが、最初のクイズでは、狙い通り安定した得点を取ることができ、先に進めました。しかし、ラウンド3ではかなり高難易度の問題に歯が立たず負けてしまいました。
エコ甲をここまで頑張れたのは、お互いにアドバイスしたり問題を出し合ったりした相方のおかげだと思っています。本番は私が足を引っ張ってしまうこともありましたが、励ましてくれました。運営や金融機関の方々、一緒にエコノミクスを勉強した仲間に感謝します。

全国大会感想 *Final tournament report*

茨城大会代表　茨城県立並木中等教育学校　２年

大関 倖平

私はクイズが好きだ。クイズ部に所属しているとか、そういうことではないのだが、去年は時間を捻出してはスマホのオンラインクイズアプリをやっていたぐらいに好きだ。この大会に参加したのも、もともとはクイズを楽しみたいと思ったからだ。全国大会のクイズはとても楽しかった。どのクイズも知識だけでなく状況判断や戦略、運など、いろんな要素が必要で、凝ったものが多かった。しかし、クイズだけでなくそれ以上のたくさんの経験ができたように感じる。都道府県代表制で周り全員が知らない土地から来た人だったので、最初は少し緊張していた。しかし、レクリエーションやカードゲームを通して他の人と徐々に話せるようになった。SNS などで同じ趣味の人たちと集まるのとは違って、自分とは全く違う世界に住んでいる人と話すのはとても刺激的だった。些細なことでも、住んでいる地域が異なるが故の違いなどもあって、とても面白かった。また、能力の高い人との交流という面でもとてもいい機会だった。全国大会にいる人は全員が地方大会を勝ち抜いてきた猛者なので、やはり能力が高い。そのような人たちと関わることによって、よい影響を受けたのではないかと思う。特に、ビジネスケースでは、同じグループの人たちから議論の組み立て方やプレゼンの作り方などを学ぶことができた。いままでの自分が経験したどのグループワークよりも素晴らしかったと思う。プレゼンで１位を取れた時は感動した。自分を引っ張ってくれた仲間に感謝！大会を通して全日程を楽しむことができた。来年は受験のために出られないのが残念だが、この経験を今後の人生の糧にしたい。もう一回出たいなあ！

栃木大会　12月10日(日)開催

足利銀行

優勝チーム　白鷗大学足利高等学校
（初出場）
「白鴎足利」
松本 脩佑・阿部 庄汰

主催　足利銀行

参加校一覧
作新学院高等学校、宇都宮短期大学附属高等学校、
栃木県立佐野高等学校、栃木県立大田原高等学校、
栃木県立宇都宮女子高等学校、
栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立栃木女子高等学校、
栃木県立栃木高等学校、栃木県立石橋高等学校、
白鷗大学足利高等学校

申込みチーム数　27チーム(10校)

運営スタッフ感想
栃木大会は今回で11回目を迎えました。新型コロナの影響でオンライン開催になった年もありましたが、例年、多くの高校生に参加いただいており、今回も42名の高校生に参加いただき、一緒に大会を楽しむことができたことを大変嬉しく思います。
また、大会当日は開会直前までテキストを読み込む姿も見られ、今回大会への熱意を感じました。
引き続き、金融教育の一助となれるよう、楽しい大会を目指していきます。

栃木大会代表　白鷗大学足利高等学校　1年

松本 脩佑

私がエコノミクス甲子園の存在を知ったのはは昨年の7月でした。所属する囲碁将棋部の顧問の先生から「出てみませんか」と誘っていただいたのがきっかけでした。
私はもともと経済分野に興味があったわけではありませんでしたが、出場してみようと思いました。理由は単純で「早押しクイズがあったから」です。小学校高学年のころからクイズ番組を観るようになり、本格的な対面でのクイズをやってみたいと思っていましたが、高校にはクイズ研究会がなく、対面でクイズをする機会はなかなかありませんでした。エコ甲の相方・阿部さんやクラスメイトとクイズを楽しむうちに、実際に早押しクイズをやってみたいという想いが強くなってきていました。そんなときに出会ったエコ甲には早押しクイズがあり、これは出ようと思いました。
地方大会は早押しで正解できたのですでに満足していましたが、気楽に構えていたおかげか勢いのまま優勝できました。
私は地方大会は出題順の運で優勝できたと感じていた

ので、全国大会では知識面でしっかり戦えるように毎日勉強を積み重ねていきました。教材以外にも時事や雑学など対策をしましたが空振りしてしまったところが多く、正答できた問題もありましたが、何度かあった決勝ステージのチャンスは逃してしまいました。しかし、とても貴重な体験ができ、嬉しかったです。
この大会は私にとって非常に有意義なものでした。このような場を提供してくださった関係者の皆様に感謝申し上げます。

栃木大会代表　白鷗大学足利高等学校　１年

阿部 庄汰

「早押しボタンを押してみたいなぁ。」そんな軽い気持ちから参加したエコノミクス甲子園。地方大会を運良く勝ち上がり、ついに全国大会を迎えました。
初めて参加した全国大会は、何もかもが新鮮で楽しかったです。
１日目は、エコノミカ大会と交渉ゲームをして、少し緊張がほぐれました。
２日目、いきなり筆記クイズから始まりました。地方大会では難なく解けていたけれども、全国大会では難易度がとても上がり、やや手こずってしまいました。その後のビジネスラウンドでは制約のある時間の中で、プレゼンテーションの準備をしなければなりませんでした。僕は、同じグループになった人たちに助けられ、なんとか時間内に準備を終わらせることができました。この日は、全国大会の楽しさとともに、他の人たちの能力の高さを実感しました。

　さて、クイズ本戦があった３日目、僕はとても充実した１日を送ることができました。僕たちは第２ラウンドで敗退してしまい、敗者復活ラウンドでも、決勝進出まであと少しのところで敗退するという結果に終わってしまいました。大会終了後、「悔しい」という強い気持ちが込み上げてきました。僕たちには次の大会出場のチャンスがあるため、帰りの新幹線ですでにそこに向けた対策について話していました。時間はまだあります。そのため、感じた悔しさをバネにして対策を万全にして良い成績を残したいです。

　僕は、エコノミクス甲子園を知るまで、経済についてさっぱり分かりませんでした。教材を読んでみて、世界規模のものだけではなく、僕たちの身近で役立つことについても学ぶことができ、その重要性を知ることができました。
最後に地方大会主催の足利銀行の皆様、全国大会関係者の皆様、このような素晴らしい体験をさせてくださり、ありがとうございました。

群馬大会　12月17日(日)開催

群馬銀行

私たちは「つなぐ」力で地域の未来をつむぎます

優勝チーム　群馬県立高崎高等学校
（初出場）
「勝率９割６分２厘」
高橋 凌駕・小池 崚輔

主催　群馬銀行

参加校一覧
伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校、
群馬県立中央中等教育学校、
群馬県立前橋女子高等学校、群馬県立前橋高等学校、
群馬県立桐生高等学校、群馬県立高崎女子高等学校、
群馬県立高崎高等学校

申込みチーム数　21チーム(7校)

運営スタッフ感想
今年もオンラインでの開催となりましたが、各チームが優勝を目指した真剣な戦いが繰り広げられました。
群馬大会を制したのは、群馬県立高崎高等学校のチーム「勝率９割６分２厘」です。このチーム名についてメンバーに質問したとき、『チーム名は、江戸時代に相撲で活躍した「雷電」の勝率にあやかって付けたもの。雷電の生涯戦績は、未だ誰にも破られていない「254勝10負２分」で、勝率は「９割６分２厘」。全国大会優勝を目指して頑張ります』と、嬉しそうに意気込みを語ってくれたのがとても印象的でした。
ご参加いただいた、高校生の皆さん、ありがとうございました。

群馬大会代表　群馬県立高崎高等学校　１年

高橋 凌駕

普段は競技クイズをやっています。
今回、先輩の勧めで参加したエコノミクス甲子園ですが、正直参加前の私は全くと言っていいほど経済についての見識がなく、なんとなくお金のことを扱うんだろうと思っている程度でした。しかし、勉強をしていくうちに経済理論の奥深さ、面白さに触れ、今まで曖昧な輪郭しか見えていなかった経済が段々と形をもっていくように理解することができました。地方大会では事前教材で学んだことや競技クイズでの知識、戦略を活かして２人で協力し、優勝することができました。まさか全国大会に行けるとは思っていなかったので、とても嬉しかったです。
全国大会前の２日間では、エコノミカ大会や経済と絡めたレクリエーション、ビジネスケース等を通して全国の高校生との交流もでき、良い刺激になりました。
そして迎えた全国大会当日、不安と期待が入り混じった感情で迎えた本戦でしたが、競技クイズでの壇上経験もあってか、あまり緊張せず自然体で自分の力を発揮できたと思います。3rd Roundで１点差で負けてしまったことはとても悔しかったですが、幸い私達はまだ１年生なので、来年はこの悔しさをバネにより勉強して優勝を狙いたいと思います。主催の金融知力普及協会の皆様並びに地方大会主催の銀行様・スポンサーの方々、貴重な体験をありがとうございました！

全国大会感想 Final tournament report

群馬大会代表　群馬県立高崎高等学校　１年

小池 崚輔

私がエコノミクス甲子園に参加したきっかけは、兄の影響でした。前回大会、兄はエコノミクス甲子園に参加し、群馬県大会３位で惜しくも全国大会出場を逃しました。私は、兄のリベンジをしたいという気持ちと高崎高校を全国に名をはせさせたいという気持ちから、相方を誘いエコノミクス甲子園への参加を決めました。群馬県予選では、対策した単語が出たり、クイズ研究会で身につけた知識が活きたりなどで優勝することができました。そして全国大会本番、私はあまり緊張せずに望むことができました。事前に行った筆記ラウンドとビジネスケースはあまり自信がなかったのですが、25 位と悪くはない結果だったので安心しました。第一ラウンドでは第１組ということもあり、どういう展開になるのかあまり想像できなかったので 90 点で妥協する代わりに早めに抜けるという戦略をとりました。このラウンドでの最悪の場合は、わからない問題を CAO でこたえて０点になることだったので、結果的に作戦勝ちだったのかなと思います。第二ラウンドは相方と話し合った結果、とりあえず第一ヒントで選択して得点をとれたら第二や第三ヒントでいくという作戦をとりました。その結果第一問を第一ヒントで正解する事ができ、リードすることができました。そして第三問、私は第一ヒントでなんとなく知っているなと思いましたが、あまり確信を持つことができず、結局第三ヒントで正解しました。そこで踏み込めなかったというのが自分の弱さであり、反省点だと思います。結局第四問で正解することができ、抜けることができたのですが、個人的には反省すべきラウンドとなりました。第三ラウンドは企業の選択をするとき、相方が有名ではないが強いところを知っていたので、被らずに強いところをとることができると思っていたのですが、県千葉と被ってしまい、せっかくの正解を無駄にしてしまいました。そしてその時、答えをボードの裏に書いてしまったことをこの場を持ってお詫び申し上げます。その後、２問正解することができ、どちらとも企業を獲得することができたのですが、３つ目の正解で、獲得する企業を Intel にするか IBM にするかの二択になったとき、私はあまり深く考えずに Intel を選んだのですが、その選択が私達の運命を大きく変えることになりました。結果は県千葉に１点差で負けて決勝ラウンドには進むことができませんでした。あのとき、Intel ではなく IBM を選んでいたら決勝ラウンドに進むことができたので、悔しいという感情しかありませんでした。しかし私たちはここまで運にも恵まれ勝ち進むことができたので、ここで負ける運命だったのかなと思います。最後に、このような楽しい大会を運営してくださった運営の方々、声をかけてくれた参加者の人たち、第三ラウンドで「がんばれ !!」と励ましてくれた灘高校、そしてなにより、一緒に大会に出て、自分をここまで引っ張ってくれた髙橋凌駕君、ありがとうございました。自分たちは来年もあるため、来年の大会では優勝したいと思います。

埼玉大会　11月26日(日)開催

埼玉りそな銀行
RESONA

優勝チーム　栄東高等学校
(5年連続9回目)
「くわどりらてらる」
齊藤 隆太・中村 心葉

主催　埼玉りそな銀行

参加校一覧
さいたま市立大宮国際中等教育学校、
埼玉県立川越高等学校、
埼玉県立浦和第一女子高等学校、本庄東高等学校、
栄東高等学校

申込みチーム数　9チーム(5校)

運営スタッフ感想
4年ぶりのリアル開催となり、スタッフ側としては不安もありましたが、当日は大変盛り上がりました。
特に決勝ラウンドでは、分配金の戦略が当たったり外れたり、惜しい回答が多かったり、問が進むにつれ、より白熱した戦いとなりました。
また、高校生の皆さんに楽しんでご参加いただけたのが何よりでした。
クイズ研究会に所属されている参加者から「今までで一番楽しい大会でした」とのコメントをいただき、スタッフ一同とても喜んでいます。

埼玉大会代表　栄東高等学校　2年

齊藤 隆太

今回は、エコノミクス甲子園に埼玉県代表として出場できて、とても貴重な体験だったなと振り返って思います。3日間にも渡って経済に深く触れられる機会を得ることが出来て、私の人生の糧となったと感じます。
全国大会1日目、会場に到着した時、他のルームメイトと3日間仲良くなれるかドキドキしていましたが、全員本当に良い人たちで、盛り上がれましたし、経済の話をしてみたりと仲良くできて嬉しかったです。なかなか他県で話のあう友人を見つけるということはなかなか機会であると思うので、その点においても貴重な体験でした。夜に行われたアイスブレイクのエコノミカ大会も、かなり盛り上がることができて、楽しいスタートを切る事ができました。
2日目では、私は英語コースを選択したため、英語で主にプレゼンを行いました。プレゼンのテーマも生命保険会社の商品の運用を行うというもので、経済に密接した、リアリティのある、かつかなり難しい内容でした。仲間と一緒にテーマを考え抜き、プレゼンを構築して

いく過程は、普段の生活には無い体験となりましたし、経済についてより深く触れていくきっかけになりました。プレゼン以外でも、外部の講師のお話を聞くことができ、非常に濃い１日となりました。

３日目は、本格的なクイズが行われた山場の日です。さまざまな独創性があるルールでクイズが行われ、戦略を考えるのがかなり楽しいクイズでした。埼玉県大会主催の埼玉りそな銀行の方に応援していただいて、背中を押していただき、実力を発揮することが出来ました。結果的には途中で敗退してしまい、敗者復活戦においてもギリギリのところで敗退してしまいました。非常に悔しい結果ですが、これが実力と受け止めて、さらなる経済の知識の吸収にこれを機に努めたいと思います。

全体を通して、３日間これほど濃い日々を過ごせたことはありません。プレゼンや筆記クイズだけでなく、２日目夜の前夜祭の立食パーティーなどで他参加者との交流を深めることも出来ましたし、新たな貴重な出会いもさせていただきました。参加費も特になく、経済に興味を持てる貴重な経験を多くさせていただき、エコノミクス甲子園には感謝しかありません。来年は受験などあり、参加出来ないことが本当に悔やまれますが、重ねて、この度はまた二度とない経験をありがとうございました。

埼玉大会代表　栄東高等学校　２年

中村 心葉

私にとってエコノミクス甲子園は、生きていく上で欠かせない経済・金融について初めて真剣に向き合わせてくれた大会です。大会に向け、勉強しているうちに経済の知識を持つことは、生活を豊かにしてくれることだと気づきました。全国優勝という目標に向かって真剣に取り組んだ日々は良い経験になりました。

３日間の宿泊を伴う全国大会で得た経験は、高校生活の中で忘れられない思い出となりました。大会では、全国から集まった出場者たちと交流することにより、彼らの考えや知識に刺激され共感し、様々な学びを得ることができました。皆ライバルであり、良き理解者であり、仲間でした。私のチームは良い成績を残すことができませんでしたが、同じように敗退したチームは、他のチームを応援していて、皆が優勝に向かって心を１つにしていました。

出場者の高校生だけでなく、エコノミクス甲子園全国大会は多くの人たちによって支えられている大会です。全国の金融機関、企業の協賛によって成り立っていますが、運営スタッフ、大学生ボランティアの存在が大きく関わっています。大学生ボランティアは、過去の全国大会出場者です。経験者だからわかる気遣いで運営スタッフと共に、私たちを支えて下さいました。このように心あたたかい大会に参加できたことを光栄に思います。高校を卒業したら、私も大会ボランティアの一員として、未来のエコノミストのお手伝いをしたいです。

千葉大会　12月10日(日)開催

千葉興業銀行

千葉銀行

優勝チーム　千葉県立千葉高等学校
(3年ぶり3回目)
「リーベスト西千葉」
桝谷 隆太・山本 拓真

主催　千葉興業銀行・千葉銀行

参加校一覧
千葉県立千葉高等学校、市川高等学校、
日本体育大学柏高等学校、昭和学院秀英高等学校、
木更津工業高等専門学校、渋谷教育学園幕張高等学校

申込みチーム数　10チーム(6校)

運営スタッフ感想
千葉大会は今年で１５回目を迎え、６校８チーム１６名の高校生に出場していただきました。各チーム優勝を目指して真剣な戦いが繰り広げられ、最後までどのチームが優勝するのか分からない接戦でした。また相手のチームの健闘を称えながら大会に臨む姿にも感動いたしました。高校生からは、「来年もぜひ参加したいです。」「リベンジします！」という声をいただきスタッフ一同大変嬉しく感じております。今後も、より良い大会となるよう、千葉興業銀行と千葉銀行の２行で協力し合い、千葉大会を更に盛り上げてまいります。次回の参加もお待ちしています！

千葉大会代表　千葉県立千葉高等学校　２年

桝谷 隆太

どうも、千葉代表として参加しました県立千葉の桝谷です。この感想文を期限までに提出しないと何か災難が起こるそうなので早めに書き終えたいと思います。
私は金融・経済に特段興味があるわけではなく、過去に先輩が全国で優勝したことのある大会だからという理由でこのエコ甲にエントリーしました。昨年の17回大会では勉強不足のため地方大会予選落ち、という悔しい結果に終わったため今年は地方大会にエントリーした日から数週間おきに目標を定めて経済の勉強し、無事全国へ進出することができました。
全国大会での私の目標は一つ、優勝、それだけでした。ネットでエコ甲について調べると過去に二度全国大会で優勝しているのはラ・サール、東大寺、県千葉の３校だけだと知り、自分たちの結果次第では初の三度目優勝の可能性もあったからです。結果はご存じの通り三度目の優勝は叶いませんでした。決勝では自分たちのチームの正解数が一番多かったらしく（結局はルール上負けなのですが)、涙を飲むこととなりました。でも当時の自分はそれが100%の力を出した結果なので、受け止めるのにそれほど時間はかからなかったと思います。
さて同校の人間がこの文章を読んでいるかどうか分かりませんが、将来県千葉がエコ甲の全国大会に出場する機会があれば是非、優勝を目指してもらいたいと思います。これは半分私からのお願いでもあります。
最後に、この大会の運営に携わってくださった大学生スタッフ、協会の方々、そして当日は応援にまで駆け

つけてくださった千葉興銀、千葉銀の方々、本当にお世話になりました。

千葉大会代表　千葉県立千葉高等学校　2年

山本 拓真

悔しい、終わった時に残った感情はこれだけだった。ただ時間が経つにつれ達成感や充足感が遅れてやってきたように思う。今振り返ってみればとても長いようで短い3日間であった。

エコノミカから始まった1日目は共創ゲームなど他校の生徒と広く触れ合うことができるプログラムが多く1日目だけでも多くの参加者と関わることができた。筆記テストに加え、プレゼンといよいよ本戦に関わるプログラムが始まった2日目。地方大会では筆記もそれなりに取れたこともありかなり取れるだろうと望んだが、傾向が異なっていたことなどもありあまり奮わず厳しい立ち上がりとなった。プレゼンではその場で会った参加者達と保険会社の経営戦略について考えるというものであった。当然のことながら保険会社の知識などあるわけもなく、ゼロから調べ、班員と協力しながらなんとか発表を行うことができた。そして、いよいよ本戦が始まる3日目。県千葉にとって3度目そして最多優勝がかかった大会であった。1Rはしぶとく取り切れる問題も最後まで待ち2Rへ。2Rでは速めに攻めるという作戦が刺さり、また相方の知識力もあり1位抜けを果たすことができた。

10校の中から2校しか抜けれないという厳しいルールであった3R。序盤は正解はできるが希望するものが被ってしまうという厳しい戦いだったが、最後の1問をなんとか取り切り1点差という非常にギリギリの戦いを制し決勝へ。

決勝での戦いの上で地方大会の時からサポートをし続けてくれていた千葉銀行、千葉興業銀行の方々の応援、そして1日目から同部屋として関わってきて3Rまで一緒に戦ってきた富岡東の応援というものが非常に力になった。

そしていよいよ決勝へ正解を積むだけでは勝つことができないという非常に難しいルールの中相方のクイズ力に助けられながら上位3校まで残ることができたのだが、問題数が足りず判定負けで2位という結果に終わった。

今大会では勝って壇上でプレーするだけではなく普段なら関わることもないであろう高校と交流することができ、非常に有意義な3日間であったと思う。

最後にこの場を借りて、最後まで応援してくれた富岡東の2人、千葉から駆けつけてくれた銀行員の方々、日頃から応援してくれている部活の仲間、大会を開いてくれたすべてのスタッフ、そして地方大会から始まり決勝まで共に戦い抜いてくれた相方、桝谷に心から感謝を送りたいと思う。

東京大会　11月12日(日)開催

りそな銀行
RESONA

優勝チーム　筑波大学附属駒場高等学校
(2年連続2回目)
「トンカチ」
早川 惺・朱 俊熹

主催　りそな銀行

参加校一覧
かえつ有明高等学校、千代田区立九段中等教育学校、
吉祥女子高等学校、広尾学園高等学校、
慶應義塾女子高等学校、
早稲田大学系属早稲田実業学校高等部、
早稲田大学高等学院、東京農業大学第一高等学校、
東京都立両国高等学校、東京都立国際高等学校、
東京都立西高等学校、筑波大学附属駒場高等学校、
郁文館グローバル高等学校、開成高等学校

申込みチーム数　17チーム(14校)

運営スタッフ感想
集合形式での地方大会実施は数年ぶりでしたが、当日は参加の高校生たちの本気で戦う姿を見ることができ、運営側も元気をもらうことができました。東京大会優勝チームにはぜひ全国大会優勝を目指して頑張ってほしいと思います。

東京大会代表　筑波大学附属駒場高等学校　1年

早川 惺

まず、御礼をさせてください。この大会を作り上げてくれた運営スタッフの皆様、第一線でご活躍される金融機関の皆様、懸命に競い合った他校の友人たち。様々な素晴らしい出会いに恵まれたかけがえのない三日間でした。本当にありがとうございました。自分と全く出自の異なる人々と交わり、議論し、戦い抜いた経験は、自分の狭い視野を押し広げてくれたのです。
また、取り組んでコンテンツはどれも心から面白いといえるようなクオリティの高いものに仕上がっており、それが三日間の価値をさらに高めてくれました。
なかんずく、二日目の「ビジネスケースラウンド」はとても印象深いものでした。会ったことも話したこともない人達と協力して、プレゼンテーションを一つの成果として作り上げるのは困難を極め、少し進んではまた戻る、の終わりのないサイクルに焦らされたものです。
東京で見知った仲間たちとグループ課題を進めるのと

は一味も二味も違いました。ただ、シビアな時間制限の中で「暗黙の了解」のない集団を統率する、という実社会の基本構造を踏まえれば、「ビジネスケースラウンド」の方が現実にはるかに近いのが事実です。自分がいかに「社会で生き抜く力」を欠いているのかを思い知らされるとともに、自分に今後必要なスキル、求められるものを明確にしてくれた、価値ある経験でした。
予選で調子が良かっただけに、優勝を達成できなかったのは残念ですが、それ以上のものを得られた三日間だった、と自信を持って言えます。
重ね重ねになりますが、こんな素晴らしい大会を開催していただき、お金に換えられない経験を下さったスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。
来年は必ず、ぶっちぎりで優勝します。

東京大会代表　筑波大学附属駒場高等学校　１年

朱 俊熹

自分の学校では中学３年生の時に公民の授業があり、その時の担当教師がエコノミクス甲子園について話していた事が、私が本大会を認知したきっかけでした。私が中学生であった時、私は個人的に金融経済について学んでおり、金融経済についての知識はある程度持っていました。
そして高校一年生の９月。相方がエコ甲に出てみない？と、声を掛けてきたので、そこから勉強が始まりました。最初、何を学ぶのかと考えた時にやはり最初は地方大会に向けて、郵送されてきた事前学習教材を読み込みました。教材には投資や税金、保険など幅広い分野の知識が載っていました。そこで、確かに経済分野に関してはほとんど知っていましたが、税や保険に関してはほぼ全く知らなかったのです。そこで私は、あ、こりゃちゃんとやらないとダメだ、と感じました。油断するべからず。そのおかげか、地方大会で優勝することができました。
本戦までも、なんやかんや頑張って知識を覚え、あっという間に当日です。当日の直前に一応公式 youtube、Twitter を見ていたのですが、相当問題ないオーラを感じ、なんとかなるだろうという気持ちで本番に臨みました。クイズ大会が開始される前に、エコノミカ大会やプレゼンラウンドで他校の方々交流する (具体的には学校ではどうか？何か特徴的な文化などはないか？などの他愛のない世間話) をすることができ、非常に満足でした。そしてクイズ大会本番。結果から言うと、事前に感じたオーラは気のせいだったようです。第一ラウンドまでは良かったものの、第三ラウンドの問題だけ、なぜかわからなかったのです。後で調べましたが、ちょうどその分野だけ勉強していなかったのです。
これからもわかるように、大会において勉強し足りるということはなく、いくら勉強しても足りないものであることがわかります。非常に悔しく、残念でした。しかし、他校と交流することができた上、エコノミクス甲子園を楽しみ尽くせたと思います。大会を支えてくださったスタッフの方々、運営の方々、スポンサーの方々など、大会に関わった皆様には幸甚の至りです。本当にありがとうございました。

神奈川大会 12月17日(日)開催

横浜銀行
Bank of Yokohama

優勝チーム　横浜市立サイエンスフロンティア高等学校(初出場)
「びぶんぶん」
岡本 理那・小川 琳太郎

主催　横浜銀行

参加校一覧
公文国際学園高等部、慶應義塾高等学校、
栄光学園高等学校、桐光学園高等学校、
横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、
横浜高等学校、洗足学園高等学校、
浅野高等学校、神奈川県立光陵高等学校、
神奈川県立厚木高等学校、神奈川県立川和高等学校、
神奈川県立横須賀高等学校、神奈川県立湘南高等学校、
藤沢翔陵高等学校、逗子開成高等学校、
鎌倉学園高等学校

申込みチーム数　32チーム(16校)

運営スタッフ感想
神奈川大会はオンライン合同形式で開催しましたが、多くの高校生チームにご参加いただきました。参加者が今大会までに準備した経済に関する知識や理解力を駆使しながら競い合う様子をリアルタイムで 拝聴させていただき、非常に 高いレベルで盛況に行うことができた地方大会になったと思っております 。
経済知識は社会で役立つだけでなく、将来のキャリア形成においても重要な要素になることと思います。エコノミクス甲子園の参加者が、この大会で得た経験を通じてより一層経済知識の向上に 取り組んでいただくとともに、将来経済分野で活躍する人材へ成長していただくことを期待します。

神奈川大会代表　横浜市立サイエンスフロンティア高等学校　1年

岡本 理那

まずは大会主催の皆様、スタッフの皆様、相方を含め関わってくれた全ての方々本当にありがとうございました。甲子園での3日間は本当に刺激的で楽しくて、ここに書き切るには足りないくらいの思いがありますが、絞って3つ書こうと思います。

1つ目は、エコノミクス甲子園はとんでもなく素晴らしい大会なのでもし迷っている人がいれば参加してほしいということです。レクや大会中のルールが工夫されているだけでなく、全国から集まった経済・クイズ好きの高校生たちと過ごす3日間は本当にかけがえのないものになりました。

2つ目に、進路に関わらず経済は学ぶ価値があると感じました。実を言えば理系である私自身、経済の勉強に意味があるのかと考えてしまったことがあります。しかし経済は事象をモデルに置き換えて考察する点で科学的な側面があり、文理の違いで敬遠するにはもったいない学問だと今では考えています。さらに、特に金融については将来の保険や投資などの選択に関わってくるため、誰しもが知る必要のある重要な知識であると再認識させられました。

最後に、これは自分への戒めでもありますが、運が重要に思えるルールでも結局知識量が物を言うということです。実際大会ではクイズに正解したのに他のチームとバッティングしてしまい得点を獲得出来ないなど本当に悔しい思いをしました。しかし強いチームを見るとやはり勝ち抜けるには運が悪くても実力でたくさ

ん正解していく、そんな姿勢が大事だと感じました。来年はさらに知識を付けて優勝を目指したいです。

神奈川大会代表　横浜市立サイエンスフロンティア高等学校　1年

小川 琳太郎

今回のエコノミクス甲子園に参加できて、本当に良かったと感じています。もともと金融経済に興味があり、相方と大会の存在を知った時から出場しようと話していました。そして迎えた地方大会当日、突破した手ごたえは正直ありませんでしたが、だからこそ優勝校としてサイエンスフロンティアの名前が呼ばれたときうれしかったと記憶しています。

そして迎えた全国大会、筆記ラウンドの手ごたえはあり、ビジネスラウンドでも優秀なチームメイトに助けられ、充実したプレゼンを行うことができました。その勢いで臨んだ最終日、第一ラウンドが始まる前にほかの参加者の方や地方銀行の方と廊下で待機していた際に、私は緊張がピークを迎え、頭が真っ白になってしまいました。そんな状態で臨んだ第一ラウンドで100点をとることができ、緊張がほどけ、心拍数が急に落ち着いたことを覚えています。そこでリラックスしすぎたのか、第3ラウンドでは企業を1つも獲得できず、敗者復活戦でも知識不足と戦略ミスから抜けることができず、とても悔しい思いをしました。

さて、今回の大会を通して、全国の経済に関心を持つ様々な高校生と交流することができ、自分にとっても大きな刺激となりました。自分が通っている学校は理数科ということもあり、経済学をやっている人が少ないため、経済学のトピックについて議論できた経験はとても大きな財産となりました。自分も来年こそ優勝し、新たな歴史を刻むために努力していきたいと思います。

最後に、優勝した佐世保北高校のみなさん、本当におめでとうございます。そして、このような素晴らしい機会を提供してくださったスタッフの皆さん、地方銀行や協賛企業・官公庁・団体の皆さん本当にありがとうございました。

新潟大会

12月10日(日)開催

第四北越銀行

優勝チーム　新潟県立新潟高等学校
(6年連続8回目)
「numberX」
渡辺 寛太郎・白川 みゆき

主催　第四北越銀行

参加校一覧
帝京長岡高等学校、敬和学園高等学校、
新潟市立明鏡高等学校、新潟県立新潟高等学校、
新潟県立新発田高等学校、
新潟県立柏崎翔洋中等教育学校、
新潟県立燕中等教育学校、新潟青陵高等学校

申込みチーム数　10チーム(8校)

運営スタッフ感想
新潟大会にご参加いただいた高校生のみなさん、お疲れ様でした！
新潟大会では10チーム20名の白熱した戦いが繰り広げられました。
結果は、新潟高校のチーム「numberX」が初出場で見事優勝を飾りました。おめでとうございます。
大会全体を通して、高校生の皆さんが楽しみながらクイズに参加していた姿がとても印象的でした。この大会が、生涯役に立つ「金融知力」を身に付けるきっかけとなってくれたら幸いです。
来年もよりよい大会となるよう、スタッフ一同取り組んでまいります。

新潟大会代表　新潟県立新潟高等学校　2年

渡辺 寛太郎

私がエコノミクス甲子園に出場しようと決断したきっかけは先生の一言でした。私はクイズ同好会に所属しているのですが、顧問の先生から新潟大会に出てみない？と聞かれ、その時点では、学校行事や部活動が忙しく、全く出るつもりはなかったのですが、先生の一言によってもともとあった経済への興味が再び湧いてきて、同じ部活の友達を誘って出場することにしました。エントリーしてからは、やはり学校行事や部活の大会がたくさん重なりとても忙しく、経済や金融についての勉強時間はあまり取れず、不安なままの新潟大会でしたが、運良く優勝することができました。全国大会に進出することが決まり、他県の人たちと仲良くできるかかなり不安でしたが、実際に行ってみると、話しやすい人ばかりで、たくさんの友達ができて嬉しかったです。2日目のプレゼンラウンドでは、みんなで協力して相談する形がとても楽しくて、終わった後の達成感がとても貴重なものだなと感じました。全国大会本番では、知識も運も足りず早々に負けてしまいましたが、エコノミクス甲子園に向けて勉強したことで経済や金融に対する知識が今までより増えて、今後の人生に活かしていきたいなと思いました。最後になりますが、エコノミクス甲子園を開催、運営してくださったみなさま、エコノミクス甲子園に関わってくださった全てのみなさまありがとうございました。忘れられない思い出になりました。

全国大会感想 *Final tournament report*

新潟大会代表　新潟県立新潟高等学校　２年

白川 みゆき

経済に今まで興味をもったこともなく、知識も全然ない私でしたが、相方に誘われて初めてエコノミクス甲子園に出場しました。地方大会に挑んだ結果、見事優勝することができ、全国大会へ駒を進めることができました。自分なりに対策をして向かえた全国大会ですが、他の出場者の賢さと知識量に驚きました。２日目のビジネスケースですが、他のメンバーが話し合ってる中、今まで経済に馴染みがなかった私はなかなか話についていけず、チームのメンバーに大きく頼ってしまう形となって申し訳なかったと感じます。今度似たような機会に出会ったときは私ももっと意見を出せるよう、経済や金融の勉強をしたいと思いました。３日目の大会本番ですが、私たちのチームはすぐに負けてしまいました。他のチームが多く正解しているのを見て感動すると同時に私ももっと勉強するべきだったと思いました。ここまで反省点ばかり綴ってきましたが、楽しかったこともちろん多くありました。同じ宿泊部屋の他県の人と交流してすることができたり、エコノミカ大会や交渉ゲームで色々な人と盛り上がったりすることができてとても良い思い出になりました。エコノミクス甲子園が終わった後も、LINE などを通じて話すほどの友達も何人かできました。エコノミクス甲子園に出て良かったと心から感じています。たくさんのことを学べたので、それを今後に活かせていけたらなと思います。

富山大会　12月10日(日)開催

北陸銀行

優勝チーム　富山県立富山中部高等学校
(5年ぶり2回目)
「臥薪嘗胆」
藤木 冬磨・土地 爽太

主催　北陸銀行

参加校一覧
富山県立呉羽高等学校、富山県立富山中部高等学校、富山県立富山北部高等学校、富山県立富山高等学校、富山県立高岡商業高等学校、新川高等学校、片山学園高等学校

申込みチーム数　16チーム(7校)

運営スタッフ感想
ご参加いただいた高校生の皆さん、大変お疲れさまでした。富山大会は15チーム29名の高校生に出場いただきました。
4年ぶりに集合形式で開催し、オンラインでは味わえない臨場感のあるゲーム内容にドキドキしながら観戦しておりました。大会を通じて高校生のみなさんが楽しみながら金融・経済について学ぶきっかけとなっていたら幸いです。
見事優勝された「臥薪嘗胆」のお二人、本当におめでとうございます！
エコノミクス甲子園を通して、未来を担う皆さんを今後も支援してまいります。

富山大会代表　富山県立富山中部高等学校　2年

藤木 冬磨

昨年の富山大会での敗北が今回の全国大会挑戦のきっかけでした。昨年は富山大会で惜しくも2位でした。この雪辱を晴らすべく本気になり「臥薪嘗胆」というチーム名で北陸銀行が開催されるエコノミクス甲子園富山大会で優勝することで会稽の恥をはらしたというわけです。
エコノミクス甲子園全国大会への参加は僕にとって非常に刺激的でたいへん有意義な体験でした。1日目は初挑戦の不安感、なれない土地のアウェー感、定期考査中の疲労感があり、全力で楽しめ無くてもったいなかったな、と少し後悔しています。2日目では筆記ラウンド、ビジネスケースで総合力を発揮して2位になれました。ビジネスケースではチームでコンサルティング業務を体験して、仕事の解像度別が上がり興味をもつことができました。3日目では知識と駆け引きによるクイズ大会でした。緊張や運により一度敗退するも、敗者復活し、五位という結果に終わりました。故郷に錦を飾ることができず本当に悔しい思いです。

たった３日間にたくさんの方思い出があります。大浴場で他県代表と交流したこと、立食パーティで銀行員の方とお話したことなど、勝敗に関わらず貴重な思い出と友人を得られたことがなによりも嬉しかったです。最後に、運営を行ってくださったスタッフの先輩方、そして各金融機関の皆様に感謝申し上げたいです。
本当にありがとうございました。

富山大会代表　富山県立富山中部高等学校　２年

土地 爽太

今回の僕のエコノミクス甲子園を一言で表すなら『悔しいし、楽しかったし、ためになったし、充実していたし、面白かった』です。すみません、一言では表せません。去年は地方大会で準優勝してからの今年のリベンジ、まさか全国大会決勝にまで残れるとは思ってもいませんでしたが、やはり決勝に進出したからには優勝したかったという悔しさで一杯です。各ラウンドを通して僕の知識の少なさを痛感しました。僕の金融知力にはまだまだ伸びしろがあります。
さて、エコノミクス甲子園の魅力というのは本選以外にもあると思います。会場に到着して早々に行われたエコノミカ大会と交渉ゲーム、２日目に行われたビジネスラウンド前夜祭、どのイベントを振り返ってみても充実した経験が思い出されます。エコノミカ大会は何といっても他県の人と打ち解ける大きなきっかけになりましたし、ゲーム自体も奥が深いので戦略を練ることで相方と盛り上がることができました。相方はゴールド（ちゃん？）が好きだそうです。僕は預金ちゃん推しです。預金ちゃん QUO カードが貰えなくてとても残念です。
また、ビジネスラウンドで初対面の５人の仲間と協力しながらプレゼンを作り上げるというのも大きな経験でした。生命保険という日常生活と関わりのない商品を題材にして考えるところからかなり頭を使いましたし、プレゼンのスライドを短時間で完成させるところでも苦しみました。しかしそういった難問を団結して乗り越えたからこそ、今感じている充実感があるのだと思います。
もはや、本選は言わずもがなだと思います。工夫が散らされた各ラウンドのルールを理解する難しさ、運も大きく絡んだ試合に勝った時の喜び、舞台上でクイズに答える時の緊張感、そして敗退が決定した瞬間の無念さ、そのすべてが大切な経験となってこれからの人生の様々なところで役に立つのは間違いありません。その機会を与えてくださった金融機関や大会運営スタッフの方々には大感謝しています。ありがとうございました。最後に、僕の足りていない知識を補いながらここまで引っ張ってきてくれた相方、藤木にも改めて感謝を伝えたいと思います。ありがとう。

石川大会　12月10日(日)開催

北國銀行

優勝チーム　金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校(10年連続16回目)
「早起きできない組」
竹内 莉生・稲荷 青

主催　北國銀行

参加校一覧
石川県立小松高等学校、石川県立金沢商業高等学校、
石川県立金沢泉丘高等学校、
石川県立金沢錦丘高等学校、
金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、
金沢学院大学附属高等学校

申込みチーム数　15チーム(6校)

運営スタッフ感想
石川大会にご参加いただいた高校生の皆さん、ありがとうございました。
4年ぶりに集合形式での開催ができたこと、大変嬉しく思っております。
見事2年連続優勝を果たした金沢大学附属高等学校「早起きできない組」のお二人、おめでとうございます。
大会を通じて、高校生の皆さんが、勉強してきたことを発揮している姿が印象的で、楽しみながらも真剣に参加してくださったこと誇りに思います。
この大会が「金融知力」を身につけるきっかけとなり、今後もさらに学んでいかれることを願っております。

石川大会代表　金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校　2年

竹内 莉生

去年、一問も答えられずに悔しさだけが残った。今年こそはと意気込んで臨んだ最後のチャンス。しかし、結果は昨年よりも大きく下がった。ただ、今回の大会は悔しさでなく楽しさが残った。ビジネスケースでは今まで経験したことのない難問が待ち受けていた。学校のプレゼンとは全く比べ物にならないほどのもので、正直自分たちの班のプレゼンはいまいちであった。時間配分や役割分担、情報共有とやれることはもしかするとまだまだあったのかもしれない。しかし、そんな難問に対して全く考えつかないアイデアを出す班もいた。頭の良さってこういうことなのかと感じたのと同時に、全国はやはりすごいと驚愕した。勉強ができるだけじゃない、発想力や独創性を持った人間が全国に

はまだまだ沢山存在し、こういった人材が将来の日本、はたまた世界を作っていくのだろう。そんな話はさておき日曜日の本戦について。今年こそは一問こたえたいと思いながらも、去年舞台上で頭を真っ白にしてとぼとぼ退散した自分を思い出した。だからこそ楽しむ、いつも通りの自分を装いボタンに手をかけた。早押しがうまくできず最終問題まで残ってしまったが、なんとか運よく一問正解することができた。第２ラウンドでも一問答えることが出来たが、もう少し冷静でいれば準決勝進出もあったかもしれない。タラレバで悔やんでも仕方がないが、やはり少しばかり後悔の念は残る。けれど、経済に触れるよい機会だったと思う。より経済への学習意欲が高まった。

石川大会代表　金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校　２年

稲荷 青

今回は 2 年連続の参加ということで昨年よりも緊張することなく全体として落ち着いて大会に臨むことができました。
昨年は運良く前日の段階ではいいところまで行った時もありましたが大会当日色々ミスしたことがあり今年は片方だけが勉強するのではなくメンバー二人ともちゃんと勉強しようという方針で頑張ってきました。
とは言ってもマンキュー入門経済学は分厚くて二人とも満足に読みきれたとは言えず 2 日目の筆記問題ではあまりうまくいきませんでした。その後のビジネスケースラウンドでは初対面の高校の人と一緒にプレゼンを作るということでプレゼン自体が最終的にどうだったかは別として違う高校の人と仲良くなれたし楽しく作業でき、すごく楽しませてもらいました。
また何年かぶりの前夜祭は美味しいご飯を食べて少しリラックスすることができました。
そして 3 日目は大会当日でしたが不思議とあまり緊張することはなく普段通りの自分でやりきれたのではないかと思います。
さてこの大会に 2 年連続して参加して私がいいなと思ったのは先ほども述べた通り他校の方との関わりを持てることです。普段の学校生活では出会うことができないようなすごい人がいることもそうですし、金融・経済という分野が好きな人との交流を深めることができるのはとても貴重な体験になりました。今後もエコ甲の勉強を通して培った力を使って日々の生活を過ごしていきたいです。

福井大会　12月17日(日)開催

北陸銀行

優勝チーム　福井県立藤島高等学校
(3年連続8回目)
「するめ」
酒井 一臣・稲尾 拓也

主催　北陸銀行

参加校一覧
仁愛女子高等学校、北陸高等学校、
敦賀気比高等学校、福井工業大学附属福井高等学校、
福井県立勝山高等学校、福井県立奥越明成高等学校、
福井県立敦賀高等学校、福井県立武生高等学校、
福井県立若狭高等学校、福井県立藤島高等学校、
福井県立足羽高等学校、福井県立高志高等学校

申込みチーム数　22チーム(12校)

運営スタッフ感想
ご参加いただいた高校生の皆さん、大変お疲れさまでした。福井大会は20チーム39名の高校生に出場いただきました。
4年ぶりに集合形式で開催し、会場の熱気に圧倒されました！決勝戦では最終問題で逆転優勝という熱い展開も盛り上がりましたね。大会を通じて高校生のみなさんが楽しみながら金融・経済について学ぶきっかけとなっていたら幸いです。
見事優勝された「するめ」のお二人、本当におめでとうございます！
エコノミクス甲子園を通して、未来を担う皆さんを今後も支援してまいります。

福井大会代表　福井県立藤島高等学校　2年

酒井 一臣

私がエコノミクス甲子園を知るきっかけになったのは、1年生の時、教室の後ろに貼ってあったチラシでした。昔からテレビや新聞でニュースを見ることが好きだったので、経済に関するクイズ大会、ということに興味を持って、同じ部活動仲間の相方を誘って挑戦することにしたのです。1回目は地方大会で敗れましたが、2回目である今回は嬉しいことに全国大会に挑戦することができました。そして、その全国大会では、圧倒的な知識を持つ方々が全国から集結しており、思うような結果を出すことができませんでした。しかし、この2回の大会を通して、ベタですが貴重な「経験」を手に入れることができました。
まず言及したいのが、経済を主体的に学ぶことができた、という経験です。私の個人的な実感ですが、そもそも高校生が学校で、社会に出たら必須な経済に触れるのは、公共や政治・経済の限られた時間だけで、非常に少ないと思います。しかし、エコノミクス甲子園のことを知り、教材をもらえたおかげで、大会に挑戦するために経済を主体的に勉強するモチベーションができて、その内容を自分の知識にすることができたと思います。それだけではなく、筆記試験やクイズで勉強から漏れた用語を知ることができたことも良かったと思っています。
2つ目は、全国各地から集まった高校生たちと交流できた、という経験です。エコノミカやビジネスケースなどで経済という共通の話題を通して、普段と異なる色々な会話をすることができました。このような体験はし

たくてもできるものではないと思うので、この経験はエコノミクス甲子園に参加する上での大きなメリットの１つだったなと思います。
これらは、大人になっても生活に活かせる、一生ものの経験になるだろうなと思います。最後になりますが、私たちをサポートしていただいたスタッフの方々をはじめ、今大会に携わってくださった皆様、そして２年連続で一緒に大会に出てくれた稲尾くん、本当にありがとうございました。

福井大会代表　福井県立藤島高等学校　２年

稲尾 拓也

エコノミクス甲子園は今回が２度目の挑戦で、今年は晴れて全国大会への切符を手にすることができた。出場できるとは思っていなかったので、地方大会終了時には驚きが喜びよりも勝っていたような気がする。
さて、全国大会であるが初日は少し東京の街を散策しながら会場へと向かっていった。会場入りして、いくつかの行事を行ったが、やはり、同室となった佐世保北高校の二人と過ごした時間は大変有意義なものであったし、多くの刺激を与えてくれた。しかし、慣れない環境で一日を過ごしたので疲れがどっと溜まった。
２日目はプレゼンテーションを割り当てられたグループになって作成・発表したが、私にはこれが本当に楽しくって仕方がなかった。ホワイトボードを使いながらメンバー間で活発に意見を言い合い、与えられた一つの難しい議題を様々な方向に拡張させていく。そんな環境がよかった。
３日目はいよいよ本大会である。今までは映像で間接的に見ていた場所に今私はいる。そう考えただけで、もちろん緊張はしていたものの、全力で楽しもうと思えた。そうこうしているうちに、第一ラウンドが始まった。早押しというものは何とも難しいと感じたし、答えが分からない問題もあり力なさを感じた。相方が救ってくれた場面も多かった。その後も大会が続いたが、結果は振るわず、正直なところしばらくは落胆していた。だから、悔いがないかと言えばもちろんあるのだが、この大会に参加することができたことで、この３日間非常に有意義な経験をさせてもらえた。それだけで十分ではないか。そう思えた。私はこのような素晴らしい経験をさせてもらえたことと佐世保北高校の二人をはじめとする多くの高校生に出会えたことに心から感謝したい。

山梨大会

12月10日(日)開催

ふれあい、さわやか
山梨中央銀行

優勝チーム　駿台甲府高等学校
(4年連続4回目)
「預金ちゃんの会」
湊 叶多・保坂 雄斗

主催　山梨中央銀行

参加校一覧
北杜市立甲陵高等学校、山梨県立吉田高等学校、
山梨県立甲府南高等学校、山梨県立甲府昭和高等学校、
駿台甲府高等学校

申込みチーム数　18チーム(5校)

運営スタッフ感想
山梨大会は今回で13回目の開催となり、5校・15チームに参加いただきました。
実力が伯仲するなか、白熱した戦いが繰り広げられ、予選第1位で決勝ラウンドに進出した山梨県立甲府南高等学校の3年生チーム「かどまる」が優勝。前回大会準優勝だった「かどまる」はリベンジに燃えており、見事優勝を勝ち取りました。
今大会は4年振りの実開催となりましたが、特に筆記クイズの答え合わせで一喜一憂する姿は、かつてない程の盛り上がりでした。また、参加者からは「もっと勉強が必要だと思った」「来年も参加したい」などの感想をいただきました。
ご参加いただきました高校生の皆さま、開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さま、ありがとうございました。皆さまのご協力で笑顔と充実感に満ちた素晴らしい大会になりました。今後も、高校生の皆さまが金融経済について興味を持っていただくきっかけ作りの場として、山梨大会を開催していきたいと思います。

山梨大会代表　駿台甲府高等学校　1年

湊 叶多

まず、私がエコノミクス甲子園の全国大会というステージに立つことができたのは、幸運であったとしか言うことができません。私達のチームは山梨大会では準優勝だったのですが、優勝したチームが残念ながら都合により全国大会へ出場することができないということで、繰り上がりで私達が全国大会への出場権を手に入れたのです。
全国大会へ出場できるとわかったとき、私はとても嬉しかったのを覚えています。そして、私は優勝チームをはじめ、山梨県のすべてのチームの思いを背負って全力で本番に挑み、精一杯その思いに応えようと決意しました。
全国大会1日目、私達は午後に甲府を出発し、3時頃オリンピックセンターに着きました。周りに高層ビルが見えるような都会に広々とした土地を持つことに驚きました。
夕食を食べたあとのエコノミカ大会では、事前に少し練習した甲斐もあり、4戦して4勝することができましたが、惜しくも上位入賞とはなりませんでした。1位だった方は6戦6勝だったようで、その強さに驚きました。このエコノミカは経済について楽しく学ぶことができるいいゲームだと思います。
その後に行われた交渉ゲームは、簡単に言うとチームごと交渉を進めながら勝利を目指すというものでした。これはルールがかなり複雑であり、だいぶ苦戦をしたのですが、他大会代表との交流を多く取ることができました。

翌日、2日目の朝食後、筆記クイズが行われました。こちらは問題がとても難しく、空白の欄が多くできてしまい、知識不足を痛感させられました。
この日のメインは筆記クイズのあとから行われたビジネスケースでした。内容は「保険会社の事業拡大戦略をプレゼンする」というものでした。事前に渡された資料にもわからない言葉があり、第一印象は難しそうだなというものでした。
実際に始めるとやはり難しく、四苦八苦しながらなんとか制限時間内に完成させることができました。
発表もまた難しく、練習をする時間が十分になかったために時間内に終わらせることができませんでした。質疑応答も適切にできたかどうかわからないところです。
ビジネスケースで、ほぼ初対面の人たちとコミュニケーションを取りながらプレゼンテーションを作っていくことで遠く離れた所から来た人とも仲良くなることができました。とても厳しかったですが、いい経験になったと思います。
2日目夜の前夜祭では抽選会が行われ、チームの相方が京都銀行の方からお菓子を頂いていました。私も今井先生の本をいただきました。
3日目の大会本番、2晩過ごした部屋に別れを告げ、会場に向かいました。ゼッケンを付けたとき、改めて山梨代表の名を背負って挑むということを意識しました。
結果は惜しくも敗退。第1ラウンドはルールに泣かされ敗退となり、第2ラウンドでは3位と惜しい結果になりました。
決勝戦では、意外な結末に驚かされました。優勝された佐世保北高校の方には敬意を表したいと思います。
私はこのエコノミクス甲子園を通じ、経済についての知識が身についただけでなく、全国の高校生と交流ができ、とてもいい経験になったと思います。私はまた来年も出場することができます。今回の結果、悔しさを糧にして、絶対に次回も全国大会に出場し、より良い成績を取りたいと思います。
最後に、この素晴らしい大会を開いてくれた金融知力普及協会、山梨大会を主催してくれた山梨中央銀行、スポンサーのマニュライフ生命、それから大会運営に関わってくださったボランティアの方、大会に関わってくださったすべての方々に大きな感謝を伝えたいと思います。ありがとうございました。

山梨大会代表　駿台甲府高等学校　1年

保坂 雄斗

まず1日目はレクリエーションとして「エコノミカ」を使って対戦しました。相方と少し練習していたので良い結果を残せました。また、宿泊部屋の人たちともすることができ、エコノミカは人と人を繋ぐとても良いカードゲームだと感じました。また、交渉ゲームを行いました。このゲームは一度にすることが多くとても難しかったですが、話し合いや交渉によって全国の人たちとコミュニケーションの輪を広げられました。
次に2日目は筆記テストがありました。地方大会と違い全国大会はやはり難しかったです。点数がどれくらい取れてるか分かりませんが、事前順位が33位だったのでやはり自分の知識不足が否めなかったです。また、ビジネスケースというプレゼンの発表がありました。課題が相当難しかったので理解するのにとても時間を使ってしまい、プレゼン発表のスライド作りと発表準備の時間が全然取れなかったです。その結果、発表はあまりうまくいきませんでした。ビジネスケースはプレゼンのわかりやすさが勝負の点だと気付かされました。
最後に3日目は様々なルールのクイズがありました。第1ラウンドは知識量も必要だけど、運要素が強いと感じました。CAOが全く得をしていないと考えます。第2ラウンドは知識量が求められるのでとても良いと感じました。自分らは第2ラウンドが惜しくも3位で敗退となってしまい、とても悔しいです。第3ラウンドは国や企業の実態の理解度が重要だと感じました。知らないことも多く勉強になりました。敗者復活は日々の生活から出されていたので分かるところもありました。決勝は単純に知識量が勝敗を分けたと思います。
この3日間を通して、スタッフの皆さんに助けられていたと感じています。スタッフの皆さんの誘導がなければ何もできていなかったと思います。また他県の高校生とたくさん話ができて、自分にとってとても良い経験になりました。また来年も出たいと考えています。3日間ありがとうございました。

長野大会

12月3日(日)開催

八十二銀行
長野銀行

優勝チーム　長野県松本深志高等学校
(3年連続7回目)
「経済の申し子」
藤森 実莉・西村 結人

主催　八十二銀行・長野銀行

参加校一覧
松本秀峰中等教育学校、長野県上田高等学校、
長野県屋代高等学校、長野県松本深志高等学校、
長野県野沢北高等学校、長野県長野西高等学校、
長野県長野高等学校

申込みチーム数　12チーム(7校)

運営スタッフ感想
長野大会は今年で11回目を迎え、7校12チーム24名の高校生に出場していただきました。
昨年に引き続き集合形式で開催し、オンラインでは味わえない臨場感あるゲーム内容にハラハラドキドキしながら観覧していました。決勝ラウンドでは前回大会優勝チームと昨年3位と悔しい思いをしたチームが白熱した戦いを繰り広げ、最後には前回大会優勝チームが見事連覇を果たし、会場からも大きな歓声が沸くほどの盛り上がりでした。
参加された高校生からは「すごく楽しかったです」、「来年もぜひ出たいです」という声をいただき、スタッフ一同大変嬉しく感じます。今後もエコノミクス甲子園を通して、長野県の未来を担う高校生を支援して参ります。参加いただいた高校生の皆さま、ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

長野大会代表　長野県松本深志高等学校　2年

藤森 実莉

地方大会には昨年に引き続き今年も挑戦してみたいと思い参加しました。今年も接戦でドキドキしましたが、全国大会に出場することができました。
全国大会1日目では、交渉ゲームを通じて同じ班の人や交易に来た方々とコミュニケーションをとり、沢山の人と仲良くなる事ができたので良かったです。2日目のビジネスケースでは、課題がとても難しかったのですが、みんなで意見を出し合ってソル生命の投資プランをまとめることができてとても達成感を感じました。3日目の本戦1Rでは落ち着いてクイズに臨むことが出来たのですが、2Rでは制限時間までに相方と話し終わりきれずに次のヒントにいってしまったり、上げる札を間違えるなどをしてとてももったいないことをしたなと感じました。敗者復活戦では、3人が常に一緒にいなくてもいいというルールを上手く活用できずに脱落してしまったので悔しかったです。

全国大会感想 Final tournament report

今年がラストイヤーで対策もしっかりしたつもりでしたが、昨年のように思うようなプレイができず、終始苦しみながらの戦いでした。でも、3日間とても楽しかったです。また、エコノミクス甲子園をきっかけに、時事に敏感になったり、金融や経済についての知識を2年間を通して身につけることができたりしました。
関係者の皆様、このような機会を作っていただきありがとうございました。

長野大会代表　長野県松本深志高等学校　2年

西村 結人

昨年に引き続き2度目の参加でしたが、そのアドバンテージを活かせた点、活かせなかった点、また、かえって悪い影響を及ぼしてしまった点がありました。3日を通してとても楽しかったのですが、至る所で勉強不足を痛感しました。昨年と多少傾向が変わっていたことを加味しても、もっと勉強しておけば、また違う結果があったと思います。
たらればの話ばかりしていても仕方がないので、できるだけ楽しかったことを軸に、3日間を雑に振り返ろうと思います。

1日目

・エコノミカ大会……去年もやったので、電車の中でざっとルールを確認しただけで、試合に挑むことができた。初戦でカードゲーマーっぽい手つきの人に軽く捻られたが、彼の戦い方をパクったらその後の試合で全勝できて嬉しかった。

2日目

・ビジネスケース……去年は英語でディスカッションさせられたので、アンケートに「英語のレベルは、挨拶もままならないレベル」と書いておいたら無事回避できた。それにしても、日本語でもかなり難しいお題だった。何を考えたらいいかを考えて唸っていたら、午前が終わっていた。午後に追い上げて何とか形にしたが、入賞ならず。チーム名「デラウェア・コンサルティング」は、山形東の人がくれたブドウのグミに因む。
・立食パーティー……クリームが入った小さい餅みたいなやつが美味しかった。抽選会では自分も相方も景品が当たらず、「明日のために運が温存されている……！？」とか言っていた。

3日目

・全国大会……第一ラウンドの遅押しクイズでは、焦らず待って「シナジー」を答えて100点もらった。ただ、問題がかなり簡単だったのに加えてルールも遅押しだったので、「ちゃんと差がつくのか？」と不安になっていた。第二ラウンドの3ヒント4択クイズでは、最後の問題で選択肢の札を差し間違えるという凡ミスを犯し敗退。3つのヒントが全て出揃ったところで間違いに気づき、横転した。敗者復活でも自分の判断ミスで早々に敗退したので、相方には殴られても文句は言えない。それはそうと、決勝戦はとても見応えがあった。心理戦や運の要素が強く、本当に経済の知識があるチームが優勝できるとは限らないところが、エコ甲の特徴的な点だと思う。
少し長くなりましたが、おおよそこんな感じです。
本当に楽しかったので来年も出たいところですが、受験が控えているので優秀な後輩たちに託します。素晴らしい大会をありがとうございました。

岐阜大会　12月10日(日)開催

十六銀行
16FG

優勝チーム　岐阜県立岐阜高等学校
(3年ぶり11回目)
「モルワイデ五平餅」
小林 篤季・森島 啓貴

主催　十六銀行

参加校一覧
岐阜県立大垣南高等学校、岐阜県立岐阜北高等学校、岐阜県立岐阜商業高等学校、岐阜県立岐阜高等学校、岐阜県立恵那高等学校、岐阜県立海津明誠高等学校、鷺谷高等学校

申込みチーム数　18チーム(7校)

運営スタッフ感想
岐阜大会は今年で１４回目を迎え、７校１８チーム３６名の高校生にご参加いただきました。本年も集合形式で開催し、本物の早押機を押す瞬間や、MCにインタビューされるタイミングなど、参加者の皆さんにはドキドキ・ワクワク感を会場で思う存分に味わっていただきました。
参加者からは「もっと早押しクイズをやりたかった」「決勝ラウンドのルールは難しかったが、戦略を練るのがおもしろかった」「もっと知識を蓄えて来年リベンジします。」等のお声をいただき、スタッフ一同嬉しく感じております。
最後になりますが、岐阜大会開催にあたりご支援賜りました金融知力普及協会の皆さま、ご支援賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。

岐阜大会代表　岐阜県立岐阜高等学校　１年

小林 篤季

今回、私は高校１年生になり、初めてエコノミクス甲子園に出場しました。私はこの大会で、主に３つのことが心に残っています。
１つ目は、エコノミクス甲子園本戦についてです。３日目に行われたエコノミクス甲子園本戦では、地方大会にエントリーしてから今まで勉強してきたことを、ペアとともに出し切ることができました。決勝に進むことはできませんでしたが、自分たちの最善を尽くすことができたと思います。さらに、それだけではなく、大会で初めて聞いた言葉も多くあり、新たに知識をつけることもできました。

2つ目は、2日目に行われたビジネスケースについてです。ビジネスケースでは、同じ高校のペアとも分かれて、他の高校の初めて出会った人たちとともに、プレゼンテーションをつくり、発表しました。今までの地方大会や、3日目の本戦も、知識を競うものが多くありましたが、ここでは、今までの知識を応用して考えることの大切さを学ぶことができました。

3つ目は、全国の人たちが集まってともに3日間過ごしたことです。1日目のエコノミカ大会や、交渉ゲーム、2日目の前夜祭、またその他の時間に、他の高校生と話したり、前夜祭の大抽選会を通して、自分の県以外のことを知ることができました。また、同じ部屋の人や、さまざまなイベントで同じグループになった人達など、他の高校生とも仲を深めることができたと思います。

最後に、事務局の皆さんや、学生スタッフの皆さんなど、今回のエコノミクス甲子園に関わったすべての皆様にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございました。

岐阜大会代表　岐阜県立岐阜高等学校　1年

森島 啓貴

同じ部活の仲間と共に出場した今回のエコノミクス甲子園。「参加するからには全国大会に出場できるように頑張ろう！」という気持ちで学習を進めました。経済に特化した勉強をしたのは今回が初めてだったということもあり事前教材の多さには少し驚きましたが、公民の分野はもともと好きだったので楽しみながら学ぶことができました。

岐阜大会の後はそれほど優勝したという実感が無かったのですが、全国から集まってきた高校生に会うにつれて、岐阜県の代表として参加しているのだという実感が湧き、身が引き締まる思いでした。2日目のビジネスケースでは非常に複雑で難しい実践的な課題に対し、グループの仲間とそれぞれの意見を活発に交流することでプレゼンを完成させることができました。そして迎えた3日目、今までの努力が予選9位という形で表れたことを嬉しく思いました。3rdラウンドでは知っている言葉が出題されたにも関わらず誤答してしまい、決勝に進むことはできませんでした。悔しい結果にはなりましたが、地方大会から全国大会まで、ペアと支え合い協力することによって乗り越えることができた場面も多くあったのでいい戦いができたのではないかと思います。

そしてなにより経済を通して全国の高校生と関われたことが強く印象に残っています。大会の中ではエコノミクス甲子園をはじめ様々なことに挑戦している多くの高校生と出会い、自分にも高校生のうちからできることがあるのではないかと考える機会にもなりました。経済の学習を通して多くの刺激を受け、貴重な経験をすることができました。経済についての理解をさらに深め、これからの人生に生かしていきたいと思います。

静岡大会　12月10日(日)開催

静岡銀行
SHIZUOKA BANK

優勝チーム　浜松学芸高等学校
(2年ぶり4回目)
「やまびこパンダ」
鈴木 唯芽・渡邊 晴香

主催　静岡銀行

参加校一覧
東海大学付属静岡翔洋高等学校、浜松学芸高等学校、知徳高等学校、静岡サレジオ高等学校、静岡北高等学校、静岡市立清水桜が丘高等学校、静岡県富士見高等学校、静岡県立沼津東高等学校、静岡県立浜名高等学校、静岡県立浜松商業高等学校、静岡県立裾野高等学校、静岡県立静岡高等学校、静岡雙葉高等学校

申込みチーム数　23チーム(13校)

運営スタッフ感想
20チーム40名の学生に参加いただきました。
久しぶりの集合形式での開催で、午前中の筆記テストでは緊張している様子も見られましたが、予選の早押しクイズからは非常に白熱した様子が伺えました。
今回の決勝ラウンドの積立金クイズでは、問題の正誤はもちろんですが、分配希望額をいくらに設定するかが鍵となり、賭けをしたり、それぞれのチームでの戦略が光る戦いになりました。最終問題で逆転勝利をおさめるという大接戦となり、非常に盛り上がったのではないかと思います。優勝した「やまびこパンダ」チームの皆さん、おめでとうございます。
普段接することの多くない分野の問題で、銀行員にとっても難しい問題もある中、皆さんしっかり勉強して臨んでいただいたことがわかりました。学生のうちからお金や社会のことを学ぶ良いきっかけだと感じています。
全国大会でのご健闘をお祈りするとともに、来年以降も良い大会にできるようスタッフ一同取り組んでまいります。

静岡大会代表　浜松学芸高等学校　1年

鈴木 唯芽

無料の教材が欲しいなーっていう軽い気持ちで参加しましたが、勉強していくと面白く思えてきました。そしてなんと静岡大会優勝しちゃいました。ただ、私たちが優勝したのは私たちだけではなく、同じ空間で戦った学芸のみんなとの優勝だと思います。全国が決まった時、沼東の子たちにもエールもらっていたけど申し訳ない…
1日目のエコノミカと交渉ゲームは難しかったけど楽しみつつできました。ルームメイトとも仲良くできました。
2日目のペーパーは個人戦とか聞いてなかったです…しくじりました。プレゼンは全然できなくて…でも次回や将来に生かしたいです。
前夜祭でクイズ大会で活躍されてて憧れの方とお話したり写真まで撮らせてもらったり…スタッフさんや水谷さん、静岡県出身のお偉いさん方などなど…たくさんの人と御挨拶できました。いい機会でした。
3日目ではいい結果が残せなかったけど、相方といい思い出になったし、とても楽しかったです。今回の結果でまた強くなれる気がします。
最後に今回エコ甲18th開催改めてありがとうございました。とてもいい経験になった3日間で、ほんとは3日以上いるのではないかと思ってます。主催してくださった方はもちろん、応援してくださった方や、静岡大会で戦った子たち、学芸高校のメンバーには感謝しかないです。いい経験をありがとうございました。

全国大会感想 *Final tournament report*

静岡大会代表　浜松学芸高等学校　２年

渡邊 晴香

私にとって、エコノミクス甲子園の３日間はとても濃密なものだった。

３日間のうちで私が最も楽しかったのは、１日目の取引ゲームだ。学校でも似たようなルールでやったことがあるような気がするゲームだが、それよりもよりルールが厳密で、複雑で、かなり頭を使った。ゲームの前に飲み物がなくなり、始まる前に買いに行くことを許されず、結局ゲームが終わるまで一滴も飲み物を口にしなかったのだが、そんなことを忘れてしまうくらいに熱中していた。勝利条件が複数あり、それぞれが複雑で、少しピースが違えば全く違う結末があったように感じた。チームメンバーのレベルも高く、皆本気で取り組んでいたため、学校で行われるものとは違う緊張感があって、それも含めて楽しかった。また、そのときに同じグループになった方の１人と２日目のプレゼンラウンドのチームが同じだったことから、チームメンバーに対する不安は軽減された。

しかし、そんなプレゼンラウンドは、私にとって３日間の中で思い出したくない時間だった。結論から言うと、自分は「知識」を身につけただけで応用ができないのだと痛感した。プレゼンラウンドが始まり、午前中は何一つとして話し合いが進まなかった。何をすれば良いのか、どう考えれば良いのか、誰も分からず空を掴むような議論をしていると、あっという間に２時間が経過していた。発表の時間、他のチームのプレゼンを聞いて、ようやく求められていることを理解できたような気がする。

３日目の大会は、プレゼンラウンドがダメで自信を失っていたからなのか、連日頭を使い、疲労がたまっていたからなのか、うまく行かなかった。しかし、３日目が本番であると思っていたが、実際エコノミクス甲子園に参加して、３日目よりも他２日の方が自分にとっては有益な時間であったと感じている。

相方と共に勉強し、先輩にアドバイスをもらい、県大会を共に戦った仲間にも助けてもらって走り抜けた約半年間。私の人生において大きな分岐点となった。私は理系なのだが、今回の経験で得た学びを踏まえて、自分が経営・商学の分野に興味があると気づいた。金子さんがおっしゃっていた「日本には未来がある」という言葉を胸に、これからも頑張りたいと思う。

愛知大会　12月10日(日)開催

あい、ふれあい、きずきあい
愛知銀行
中京銀行

優勝チーム　愛知県立岡崎高等学校
(2年連続2回目)
「不満足な豚」
清水 忠勝・緒方 健太

主催　愛知銀行・中京銀行

参加校一覧
愛知啓成高等学校、愛知県立刈谷高等学校、
愛知県立岡崎高等学校、
愛知県立愛知総合工科高等学校、
愛知県立旭丘高等学校、
清林館高等学校

申込みチーム数　14チーム(6校)

運営スタッフ感想
愛知大会にご参加いただいた高校生の皆さん、ありがとうございました！
４年ぶりのリアル開催となった今大会では、熱戦の末、愛知県立岡崎高校　不満足な豚チームのお二人が優勝を決めました！前回の愛知大会優勝者が新たなチームのバディとともに再挑戦し２連覇を果たしました！皆さんの熱く真剣な熱戦ぶりを直接見ることができ、とても感動しました。
残念ながら敗れてしまったチームの皆さんも、友人との絆をより一層深めることができたのではないでしょうか。このエコノミクス甲子園に参加したことが皆さんの高校生活の思い出のひとつになれば大変嬉しく思います。
次回もより多くの高校生の皆さんに参加いただき、金融や経済を学んでいただくきっかけとなるよう愛知銀行・中京銀行のスタッフ一同取り組んでまいります。

愛知大会代表　愛知県立岡崎高等学校　２年

清水 忠勝

はじめに、このように盛大な大会を開催していただいた金融知力普及協会の皆様方、スポンサーの方々、そしてさまざまな楽しい企画を考えてくださった大学生スタッフの方々に深く感謝したいです。
今回、前回に引き続き２度目の参加をしたのですが、前回はなかったプログラムも数多くありました。中でも２日目のビジネスケース発表が心に残っています。互いに初対面の５人が班を組み、マーケティング戦略のコンサルタントとしてある中堅生命保険会社に総合的な中長期の戦略提案を行うというものでした。用意されたものは会社の基本情報と依頼内容が書かれたA4の紙１枚と生命保険に関する統計データがのったあつい冊子のみ。まずなにから手をつけていけばいいかもわからない状況下で仲間と議論しあい、どう提案するのか見通しを立てて、役割分担をしました。私企業の第一の目的は利益の最大化であるわけですが、数字だけではなく企業の社会的存在意義も考慮に入れ長期的視野を持った戦略提案ができたとおもいます。

そして３日目の本戦は非常にエキサイティングでした。ルールが直前に配布され、勝つための方法を考えないといけないのですが、通常のクイズのように早く押した方が有利とか最後まで待った方がいいといったいわゆる必勝法はなく、リターンを得るにはリスクを取らなければならず、また自分にはどうすることもできない運要素も強いまさに「投資」そのものであると感じました。
このような素晴らしい大会に参加させていただき本当にありがとうございました。

愛知大会代表　愛知県立岡崎高等学校　２年

緒方 健太

僕がこの大会に参加することになったのは、相方である忠勝くんに誘われたことがきっかけでした。当初は甲子園ということで、野球をするのかと勘違いして勝手に焦っていましたが、後でクイズの大会だと分かってとても安心したのを覚えています。
エコ甲に出て良かったことは、自分の知らない分野に興味を持てたことです。エコ甲の問題は出題範囲が幅広く、自分には分からない問題もたくさんありましたが、そういった難しい問題も楽々解いていくライバルや相方の姿を見ることができたことは、とても刺激的な体験でした。分からない問題に出会ったときは、悔しい気持ちもありましたが、それ以上に自分の知らない世界に触れるなかで、自分がレベルアップしているような感覚がありとても面白かったです。この経験を通して、社会のありとあらゆる出来事が経済と密接に関わっていることを実感することができました。結果的には４位ということで、優勝できなかったことは悔しいですが、振り返ってみると順位以上に多くのことを得られたと思います。この経験を今後の人生でいかしていきたいと思います。
最後になりますが、地方大会からお世話になった愛知銀行の方々、大会の運営に携わってくださったスタッフのみなさんに感謝を申し上げたいです。このような経験が出来たことも全て皆さんのおかげだと思っています。本当にありがとうございました。
そして、相方の忠勝くんにも感謝を伝えたいです。大会３日間を通じて、緊張感の漂う場面も多かった中、ずっと楽しかったのは、間違いなく忠勝くんのおかげです。ノリが良くて、面白くて、いつも仲良くしてくれる忠勝くんと一緒に参加できて、僕はとても楽しかったです。また、一緒に遊ぼうね！！

三重大会　12月17日(日)開催

百五銀行
FRONTIER BANKING

優勝チーム　暁高等学校
(3年ぶり3回目)
「いとおかし」
城 久徳・吉田 有輝

主催　百五銀行

参加校一覧
三重県立伊勢高等学校、三重県立四日市商業高等学校、
三重県立四日市高等学校、三重県立川越高等学校、
三重県立津高等学校、暁高等学校、
桜丘高等学校、鈴鹿高等学校

申込みチーム数　16チーム(8校)

運営スタッフ感想
三重大会も13回目となりました。
本年は4年ぶりに、集合形式開催でしたが、オンラインでは味わうことのできない、熱気に包まれた大会となりました。
当日は筆記クイズから高校生の皆さんの真剣な表情が見受けられ、早押しクイズ、決勝クイズともに白熱した戦いが繰り広げられました。
大会開催に当たり、三重県教育委員会さまをはじめ、学校関係者の皆様などに、多大なるご協力をいただき、大変感謝しております。
参加された高校生の皆さんはチームの絆を深め、大切な高校生活の思い出を作っていただけたと思います。
今後も楽しい大会の運営に努めていきたいと思います。

三重大会代表　暁高等学校　2年

城 久徳

この大会は、私の人生にとって大きな意味を持つものであったと思う。私はこの大会で生涯の友人とも言える存在とも出会え、多くの同年代の知己を得られたし、自らの技量、知識を最大限発揮せしむ良い機会を得られたことは本当に喜ばしいことである。
私にとって最も印象に残ったのは2日目のプレゼンと講演であった。私は講演を聞いて、問題と問題点についての考え方は、現場監督をしている親戚のいつも言っていることとほぼ同じであった。世の中人を使う仕事を営む人は考えることが同じなのだなぁ、これでは職に貴賤なしという格言にも納得である。
プレゼンも、真面目なる学生の技能を最大限発揮せしめ、自由闊達なる議論が広げられた。これを通じ全国の学生と繋がることができた。これもまた大変充実した時間であったと思う。
3日目の本戦では、決勝ラウンド一歩手前までいけたが、全く歯がたたなかった、思えば第三ラウンドで問題の傾向がガラリと変わったようにも思える。ある意味途中の順位は関係なしに、運も実力もあるものが上にいくのである。これがエコノミクス甲子園を難しくも面白くさせる所以であると個人的には思う。
本大会に参加して私が得たものは、普段の勉学では決して得られ難きものが多かったと思う。色々な人を観察して、自分の立ち位置、得意不得意を再確認できた。それに生涯の友人知人を得られたことは、他の何よりも得難く、大きな体験である。
最後に、このような機会を作ってくださった金融知力普及協会の方々をはじめとする関係者の皆様に感謝したい。

全国大会感想 Final tournament report

三重大会代表　暁高等学校　２年

吉田 有輝

私は教室の黒板に要項が掲示されて初めて大会の名前を知りました。理系では「化学の甲子園」や「数学オリンピック」というような大会があるのは知っていましたが、文系にはそのような全国がある大会がないので是非参加しようと思いました。

三重県大会は参加チームが県内有数の進学校も出場しており勝てるかどうか不安でしたが引率の先生に謙虚に落ち着いて頑張りなさいと言われたのでその通りにやったら優勝しました。優勝した時は嬉しさで満ち溢れていました。

全国大会に向けては公共の資料集を読み、貰ったテキストを使って地方大会で出た問題を元にどのような問題が出るかを相方と相談しながら放課後に沢山勉強しました。多くの先生や友達に「がんばれ！」「君たちなら優勝できるよ！」という激励のメッセージを貰って２月 23 日、東京に到着しました。

１日目。部屋は４人部屋で、愛媛大会から来た方たちと同じでした。愛媛は訪れたことがかなりあるので話がとても弾みました。愛媛県民は道後温泉に行かないだの東京まで行くのは橋を渡らないといけないから大変だの天気予報は中国・四国地方として出るから詳細な情報がないというようになかなか面白い地元ネタがあって面白かったです。三重県ネタは伊勢神宮は近すぎて逆に行かないというのが１番うけました。

そんなこんなでエコノミカ大会や先輩方が考えて下さった交渉ゲームでさらに他の学校の人とも仲良くなったりしました。

２日目。筆記ラウンドでは地方大会と違って相談できないというルールなので、ペアに迷惑がかけられないと思い本気でやりました。問題はちょうど予想したところが出たり学校の定期テストででた問題がでたりと私たちのチームにとってはありがたい問題が出ました。

次にビジネスケースです。簡単なお題が出るのかと思いきや、なかなか高レベルなお題でした。ですが札幌南・宮崎第一・富山中部・岡崎高校のメンバーと共に課題解決に向けて論理的思考に元づいて沢山の熱い議論を交わしました。スライドも綺麗に作れて、発表も５分という短い時間でしたが自分たちが言いたい事をすべて言えて審査委員の方々からもお褒めの言葉を頂きました。そして２日目の夜を締めくくるのは ' 前夜祭 ' でした。美味しい料理を食べて沢山の学校の人や銀行の方とお話ししてとても有意義な時間が過ごせました。前夜祭中に抽選会があって私は静岡県のお土産を GET しました。

３日目。いよいよ迎えた最終日でありクイズ本戦日。Round1 は早押しクイズでした。早押し経験がない私たちは最後まで残ってしまいましたがしっかりと答えることが出来ました。回答内容は今でも覚えています。「囚人のジレンマ」でした。この言葉は一生忘れることはないでしょう。次に Round2 でしたが、我々暁高等学校は２日目の筆記クイズとビジネスケースの順位が 6/44 でしたので勝ち抜けとなりました。多分呼ばれることはないだろうと思って Round2 の準備をしていましたがまさか、呼ばれました。驚きました。ということで非常にリラックスして Round2 を観戦していました。続きまして Round3。ルールはとても面白かったですが、問題の難易度が 180 度変わって一気に難しくなりました。我々が答えられたのは１問だけでした。悔しかったですが同時に自分たちの力を 100％出せた気がしてとてもスッキリした気分になりました。

エコノミクス甲子園では全国にたくさんの仲間をつくることができました。そして全国の人と仲良くなれる点でもエコノミクス甲子園はすばらしい大会だと思っております。後輩にも薦めたいです。最終日、名古屋駅で新幹線から降りるとき、乗っていた仲間たちとハイタッチをしました。そして一言「また日本のどこかで会おう‼」今でも鮮明に覚えています。ほんの一瞬でしたが、お互いに気持ちは通じていたはずです。

最後になりましたが、このようなすばらしい場を提供してくださった金融知力普及協会のみなさん、また学生スタッフの皆さんや三重県大会からお世話になった百五銀行の方々を始めとするすべての関係者の皆さんにこの場を借りてお礼を申し上げます。大学に合格できたら是非スタッフとして参加したいです。

そして本当に最後に完璧で究極な自慢の仲間の城君。君がいたおかげでここまで進められたよ。本当に本当にありがとう。

滋賀大会

12月3日(日)開催

関西みらい銀行
KANSAI

優勝チーム　滋賀県立守山高等学校
(2年連続4回目)
「北の民」
山脇 和将・平林 知樹

主催　関西みらい銀行

参加校一覧
滋賀県立大津商業高等学校、滋賀県立守山高等学校、滋賀県立膳所高等学校、近江高等学校

申込みチーム数　6チーム(4校)

運営スタッフ感想
４年ぶりのリアル開催となりました滋賀大会に、ご参加いただきました高校生の皆さま、本当にありがとうございました！
熱戦の末、滋賀県立守山高等学校の「北の民」チームのお二人が優勝を決めました。おめでとうございます。皆さまと一緒に会場でハラハラ・ドキドキ、笑顔あふれる楽しい時間となりました。運営ボランティアで参加してくれた社員からも「元気をもらった」等嬉しい声がたくさん届いています。参加者の皆さんからも「また来たい」と言っていただけ、運営冥利に尽きました。今後も、金融経済を楽しみながら学んでもらうこと、そして、実生活に生かせる金融経済知識を基礎から学んでもらう機会として、大会運営に取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いします。

滋賀大会代表　滋賀県立守山高等学校　1年

山脇 和将

今回が初めてのエコノミクス甲子園への参加だったので、とても緊張していましたが、他の地方の選手だけでなくスタッフさんもみんな明るくて、とても楽しく有意義な3日間を送ることができました。
1日目はお昼前に東京に到着して、渋谷周辺を観光した後、オリンピックセンターに向かい、みんなに合流しました。
まず、せっかくの東京へ行く機会だったので観光したいという思いに応えていただきありがとうございました。おかげで、8年ぶり(?)くらいの東京を楽しむことができました。
ルームメイトが同学年だったのも、変に気を使うことなく話しやすくてとても助かりました。
エコノミカや貿易ゲームでは、自己紹介などを交えながらプレーすることで、参加者同士が友達となるための良いきっかけになったと思います。このときにもうSNSを交換することもありました。

2日目は筆記試験とビジネスケースをした後、前夜祭がありました。
筆記試験は地方大会のときとはレベルが全く違っていたり、個人で問題を解いたりしたのが印象的でした。
ビジネスケースでは、初めて出会った人たちとグループになって、保険会社のコンサルタントとしての提案を発表しましたが、保険というものがあまり身近ではなく、顧客のニーズなどがほとんど何もわからない状態でした。色々インターネットなどで調べていくうちに、保険についてたくさんの知識がついたと思います。
前夜祭では豪華なビュッフェを楽しみながら、各地方銀行さんからの特産物ビンゴもあり、とても充実したものになりました。
3日目は一日中本戦をしていました。
本戦で出題される問題は良問が多く、敗者復活戦もあったので、全体的にみてとても良かったと思います。
3日間を通してとても楽しかったです。また来年も参加しようと思います。

滋賀大会代表　滋賀県立守山高等学校　1年

平林 知樹

私は、もともと金融に関して興味を持っていたわけではなかったのですが、教室に貼ってあったポスターと友達からの誘いをきっかけに参加することに決めました。
このエコノミクス甲子園の大きな特徴は事前教材があることだと思います。事前教材は、経済学や金融に関して初心者向けにわかりやすく説明されていて、一から経済について学びたい私にとってありがたいものでした。そうした教材での学習や3日間の活動を通してこれからの人生で必ず役に立つような、実践的な金融の知識を得ることができたと思います。また、全国から集まる人たちと関わることができたというのも自分自身にとって貴重な経験でした。特にクイズ本選のレベルの高さや、ビジネスケースでの議論の内容には圧倒されることもあり、普段の生活では感じられない新たな世界を知ったような、自分の視野を広げることになった3日間だったと思います。
今回金融について学んで、私は特にこの分野は生活に密接に関わっているということを感じました。知らなくても生きてはいけるけれど、知っていれば得をするようなことが多いのだと思います。もし、エコノミクス甲子園に参加していなかったら、大人になるまで、今回学んだようなことは知らないままでいたのかもしれません。今のうちから学べたというのは、意味のあることだったと思います。
このような金融に関して興味を持つ機会、素晴らしい3日間を用意していただき、本当にありがとうございました。このことをきっかけに、より経済について知っていきたいと思います。

京都大会　12月17日(日)開催

京都銀行

優勝チーム　洛南高等学校
(2年ぶり3回目)
「メロンパン」
戸田 匠音・栗林 龍太郎

主催　京都銀行

参加校一覧
京都市立堀川高等学校、京都市立西京高等学校、
京都府立洛北高等学校、京都府立福知山高等学校、
京都教育大学附属高等学校、洛南高等学校

申込みチーム数　13チーム(6校)

京都大会代表　洛南高等学校　2年

戸田 匠音

エコノミクス甲子園を通じて、私は自分の未熟さを痛感すると同時に、この上ない向上心が生まれた。
私は幼い頃から、地理や歴史、公民といった社会科目への知的好奇心が強くその中でも経済学には特に興味があり、自分の中でそれらに対する素養は誇れるものだった。今までは。
しかし、このエコノミクス甲子園は自分より圧倒的な知識を持つ人やより周りを俯瞰して物事を分析できる人が多く見受けられた。
それもそのはず、この大会は各都道府県で最も優れているペアが集っているからだ。
私は「井の中の蛙大海を知らず」とはこのことかと痛感した。
結果も準決勝(第3ラウンド)で惜しくも3位で敗退し、我々の力不足が露呈し、悔しさが生まれた。

しかし、そう感じる一方で彼ら彼女らの優れている点を吸収し「自分力」向上に繋げようと前向きな気持ちも同時に生まれた。
今の自分に足りていない部分を考え自分を高める契機にしたいと思えた。
やはり、自己の評価は相対的に考えることが多いから、環境は自己形成に極めて重要であると思った。
そういった意味で、この大会に参加できたことは今後の人生の糧になるだろう。
この機会がなかったら、驕って甘えが出ていたかもしれない。
経済、金融に興味がある猛者たちに囲まれる経験を高校生のうちに積めることは他にないと思う。
そしてその経験は必ず一生涯忘れない経験になるだろう。
この経験を活かし、将来社会貢献に繋げていきたい。

京都大会代表　洛南高等学校　2年

栗林 龍太郎

高校生になってからなぜかわからないですが、気づいたら、経済に興味を持っていて、2年生の秋に教室に掲示されていた エコノミクス甲子園のポスターを見つけました。相方を誘ってみたらなんかいい感じの反応 だったので 申し込んでみました。
地方大会の京都大会ではインターネットでありましたが、その当日までどこで参加するのか決まっていませんでした。結局、博物館の外の休憩スペースみたいなところでやりました。そこが思っていたより極寒で、参加者の中で一番過酷な環境でやっていたと思っています。全然勉強していなかったので 自信はなかったのですが、放送で優勝者が発表された時は 聞き間違いかと思って2回聞き直しました。優勝が分かった時はめちゃくちゃ嬉しかったです。
1日目、全国大会当日の朝8時に集合して東京に向かいました。2回目の修学旅行みたいで楽しかったです。なんやかんやあって、その日は15キロ 歩きました。一番楽しかったのは 交渉 ゲームです。初対面の人たちと話し合うのが面白かったです。
2日目はテストとプレゼンでしたが、プレゼンがレベチで難しかったです。答えがないので全部てさぐりって感じでした。楽しかったです。
3日目、ぼーっとしてたらもうライブが始まってました。びっくりした。周りの人たちと比べたら全然勉強してきてないけど、全力を出し切れました！難しい問題があったり、運もからんだりして色々ありました。
決勝にはすすめなかったのは悔しいですが、たくさん友達も作れて最高でした！
今回エコノミクス甲子園に出場して学んだことは、「楽しんでたら、なんとかなる。」です!!

大阪大会　12月10日(日)開催

りそな銀行 RESONA

関西みらい銀行 KANSAI

優勝チーム　大阪府立大手前高等学校
(初出場)
「78番目のアヒル」
山口 宰幹・井川 純

主催　りそな銀行・関西みらい銀行

参加校一覧
四天王寺高等学校、大阪府立大手前高等学校、
大阪教育大学附属高等学校、大阪星光学院高等学校、
桃山学院高等学校、清風高等学校、
関西学院千里国際高等部

申込みチーム数　14チーム(7校)

運営スタッフ感想
当日は参加の高校生たちの本気で戦う姿を見ることができ、運営側も元気をもらうことができました。決勝戦では接戦の場面もあり、盛り上がる大会となったと思います。大阪大会優勝チームにはぜひ全国大会優勝を目指して、他の仲間の分まで頑張ってほしいと思います。

大阪大会代表　大阪府立大手前高等学校　1年

山口 宰幹

友達や家族の期待を背負い、知らない景色の中を走る新幹線に心を躍らせて東京に到着しました。明治神宮で願掛けをし、雨の中を歩いてオリセンにたどり着いた時には、「楽しみ」という気持ちよりもこれから起こる出来事に対する緊張が勝っていました。
知らない人ばかりに囲まれ、緊張が絶頂に達して始まったエコノミカ大会。初めは相手とあまり言葉を交わせませんでしたが、私が大阪出身であることに気づいてたくさん話し掛けてくれた他校の子のおかげで、緊張がほぐれていきました。その後も、交渉ゲームでは別の子が肩を組んで協力するほど仲良くしてくれたり、部屋に戻った際はルームメイトの子と互いのことを話したりし、徐々に大会の雰囲気に馴染むことが出来ました。
とはいえ、2日目はペーパークイズから始まります。どれほどのレベルなのかもわからず、また選手たちの中には緊張感が漂っていました。それが終わってからは、チームに別れてビジネスケースに取り組みましたが、違う学校の初めて話す人たちということで、午前中はとても辿々しい会話が続きました。昼食をグループのみんなで集まって食べたことで、その関係は一変しました。それぞれの所属する部活、趣味などを共有したことで、その後の会議はスムーズに進みました。そして無事に発表も終わり、ビジネスケースで仲良くなった子と一緒に前夜祭を楽しみ尽くしました。
ついにやってきた大会当日の3日目。その時が近づくにつれ、緊張感は高まっていきました。渡された、事

前順位７位を示す札には驚きと喜びが溢れました。しかしながら 1R では、自分たちの未熟さを自覚させられました。幸い、わかる問題で高得点を取れたため 2R には参加せず 3R 出場を決めることが出来ましたが、答えの分からない問題が多く、ここまで来れたことが奇跡と言ってもいい程でした。その後、あと少しというところで決勝進出を逃してしまい、これが実力なのだと悟りました。

決勝ラウンドには、２日目に仲良くなった子が出場していたため、必死に応援しましたが、惜しくも優勝を逃してしまい、こちらまで悔しい気持ちでいっぱいになりました。その後、飛行機の都合で早く帰らなければならない彼に「バイバイ」と言って手を振ると、「またな」と返してくれたことが、とても美しい思い出として残っています。彼は今年２年生なので、来年全国大会で会うことは叶わないと思いますが、またどこかで会いたい、という気持ちになれる相手に出逢えたことが、今回の大会で最も印象に残ったことです。

自分たちの努力の成果を競い合うだけでなく、思い出を作ったり友情を築いたり。そんなことが出来る大会がこの世界にあったのかと驚かされたとともに、「また絶対に来たい」という強い思いが芽生えました。来年こそは、「優勝」という大きな土産を学校のみんなに持って帰ろう、そう思わされた３日間でした。

大阪大会代表　大阪府立大手前高等学校　１年

井川 純

全国大会の三日間を振り返ろうと思います。

１日目は私が一番準備していたエコノミカ大会がありました。そのために相方とともに毎日のように練習していました。結果は残念なものに終わってしまいましたが、エコノミカを通して、楽しく交流することができました。その後に行われた、交渉ゲームでも、たくさんの人と話すことができて面白かったです。

２日目はペーパーテストとビジネスケースを行いました。ペーパーテストは地方大会と違い相方と協力することができず勉強するところを分散させていたので、僕たちはだいぶ困りました。また、思考力を問う問題が多く時間もギリギリで全国のレベルの高さを感じました。ビジネスケースでは仲間と協力して、課題に取り組みました。問題について話し合うときに時々、その地方の方言を聞くことができて面白かったです。発表は仲間の協力もあり、良い形で仕上げることができたと感じています。このビジネスケースはこの大会の中で一番難しく、充実した内容でした。

最終日の大会では、肩の番号で自分たちの２日目の順位を知ることになりました。結果は７位。想像よりも良かったので驚きました。第一ラウンドの CAO のクイズでは、ほかの高校が自分たちの知らない問題を答えていく中で、CAO が回ってきました。その時、出てきた問題が、２日目の夜に勉強していた内容だったのでほんとに運がよかったです。第一ラウンドを７位で通過したことは奇跡のようなことだと思います。第３ラウンドでは、実力が及ばず負けてしまいましたが、自分たちの実力はすべて出し切れたと思います。普段できないようなほかの地方の高校生と交流することができて本当に楽しい３日間でした。主催の金融知力普及協会をはじめ、スポンサーのみなさん、各地方銀行のみなさん、スタッフのみなさん、他関係者の みなさん、このような素晴らしい舞台を用意して下さり本当にありがとうございました。

兵庫大会　12月17日(日)開催

池田泉州銀行
SIHD

優勝チーム　灘高等学校
(3年連続10回目)
「うはら豆腐の森」
田中 律輝・王 佳祥

主催　池田泉州銀行

参加校一覧
淳心学院高等学校、灘高等学校、
神戸海星女子学院高等学校、関西学院高等部

申込みチーム数　9チーム(4校)

兵庫大会代表　灘高等学校　2年

田中 律輝

「エコノミクス甲子園でない？」
『いいよ』
「何かでると教材もらえるらしいし」
『貰うだけ貰うか』
↓
『勉強やった？』
「ぜんぜんしてへん」
『4択だし運でどうにでも』
↓
「なんか勝った…」
『これで成績いい方らしい』
↓
『今見たら○○(出たかったイベント)と決勝の予定被ってる！どっち行こうかな』
『なんかメール来てた…』
『写真送り忘れてました！』
↓
『エコノミカむずい』
「時間的に間に合わんからゆっくり行く」
『ペーパーあるらしいで』
「英語コース選んだけど辞書忘れた」
『刑務所ってこういうイメージ』
「風呂に入ったほうが臭くなりそうな匂い」
「空いてる風呂見つけた」
『意外と寝れた』
『プレゼン楽しかった 日本語だし』
「今日だけご飯が豪華すぎる」

『遅押しルール破綻してるやん』
『90 で押したけど反応しなくて 100 になった』
「低すぎたんだ…予選！」
「難易度的にクズネッツしか答えならんやろ」
『エジプトとナイジェリアでは勝負にならない！！』
『決勝のルール楽しそ～』
「お弁当もう一個いいですか？」
↓
覚えてるのはこんなかんじです。総合すると、楽しかった部分が楽しくなかった部分よりも多かったので参加してよかったなと思います。
最後に、大会を運営してくださった皆様、大会で関わってくださった皆様、本当にありがとうございました。

兵庫大会代表　灘高等学校　2年

王 佳祥

友人に、この感想文は全員分が集められ文集として配布される、と聞くまでは何かを書こうという気は全くなかった。つまり、ここから下に連ねる文字列は全くの見栄であり、内容を伴わないことに注意されたい。「注意されたい」って文章を書くときに「翻って」と並んで使いたい言葉だよね。
勝負とは、実力が正しく発揮できる場において、己の生きてきた人生の価値を賭けて殺しあうことだ。勝負で勝つことで私は自分を認めてきたし、負ければそれは成長の原動力となる。たとえ自己肯定の不可能性を突きつけられ、どれほど苦しい精神状態に追いやられたとしても。
だから、勝負に関わらず生きていけるのだとしたら、それはとても幸せなことだと思う。あまりに解放的な近代以降の社会で勝負の波に呑み込まれないことは不可能に近い。それでも、一握りを除いた人間が、勝利を熱望して光に手を伸ばし、しかしながら届かず降ろしたその腕にじれったさを抱えながら自分を納得させようとする、そんなことより遥かに幸せだと思う。
3 日目の本戦では、2 日目の筆記試験の成績が加味され、知識がなければ問題に正解できない、と各チームの実力は確かに勝敗に大きく影響した。しかし、おひらき間際の某のスピーチにあるように、実力のみを比べれば確実に勝っていたであろうチームが事実として敗北している。実力と同等に心理戦や運の要素も強かった。これは他の国際科学オリンピックの日本選抜と大きく異なる点であって、エコ甲優勝者が IEO 進出を選択できるようになったのが最近であることから当然ともいえる。
私はこの仕組みに反対しない。子供たちに勝負以外で豊かに生きる道があると教えるのも、また大人としての大きな役割の一つであろう。しかしこの大会形式では、配布された教材を読破し、自らの全てをかけるほどの気概を持って精進し、結果確かな経済の知識を得るような参加者は少ないことが明白であろう。報われないのだから。
私は努力しなかった。だからエコ甲の大会制度に苦言を呈すような資格はない。個人的に楽しめたからそのつもりもない。それでも、努力が報われなかった人の声を聞いてしまった。
全国 (各都道府県！) から社交的な同年代の人間が集まる機会というのはそうないものである。総じて楽しかった。エコノミクス甲子園に深く感謝したい。
物産くじ引きが当たらなかったことを根に持っていると捨て台詞を吐いて、見栄っ張りで堅苦しいこの長文を締めることとしよう。また逢う日まで、どうか爽やかな青春をお過ごししておられますよう。

奈良大会　12月17日(日)開催

NANTO 南都銀行

優勝チーム　西大和学園高等学校
(2年連続2回目)
「西の大和」
戸谷 泰陽・田中 恵太郎

主催　南都銀行

参加校一覧
帝塚山高等学校、西大和学園高等学校

申込みチーム数　5チーム(2校)

運営スタッフ感想
奈良大会に参加いただいた皆さま、ありがとうございました！

奈良大会代表　西大和学園高等学校　1年

戸谷 泰陽

結果以上の3日間
僕はクイズ研究部に入っていて、軽い気持ちで普段のクイズ大会に参加する気分でエントリーをしました。
地方予選にはあまり準備せず、地方予選での優勝は自分にとってあまりにも望外な結果だったように思います。
全国大会が近づく中、日に日に緊張も高まってきました。東京行きの新幹線では、自分が「奈良県の代表」であるという自覚を改めて持ち、さらに気が引き締まりました。
初日はエコノミカ大会やアクティビティで全国のたくさんの学校の子たちと話して仲良くなることができました。
2日目はビジネスケース。参加前はこのビジネスケースが憂鬱で仕方なかったですが、僕はこのビジネスケースがこのエコノミクス甲子園で一番楽しかったです。将来経済を学ぶ気が少しもなかったこの時、6人のメンバーと試行錯誤しながら実際にプランを立てて発表した後、その過程を自分の将来に重ね合わせることが多かったです。
3日目の本戦は自分の思うようにいかなくて悔しい思いをしました。
ですが、僕はこの大会は結果以上の価値があると思います。本音を言うと、対策や勉強をしたからといって勝てる大会ではなく、運の要素があまりにも強い大会だと思います。本番までの過程が自分の価値観を大きく変えた3日間。結果以上の3日間でした。

全国大会感想 *Final tournament report*

奈良大会代表　西大和学園高等学校　２年

田中 恵太郎

「思っていたの雰囲気とぜんぜん違う！」
僕がエコノミクス甲子園の３日間で常に感じていたことです。
基本知らない人と争う大会なのだから大会は基本殺伐とした、そうでなくとも気詰まりしたものだと思い、行きの新幹線の中で覚悟していました。
しかし、１日目のオリエンテーションや特に２日目のビジネスケースはそういった雰囲気を打ち壊すかのようにとても和気あいあいとしたものでした。
特にビジネスケースではともに作業することで連帯感が生まれ、また互いに意見交換することは自己開示につながり、ただのグループメンバーからちょっとした知り合いへと認識が変わり孤独感から開放された気がしました。
こうした雰囲気づくりのおかげで３日目のクイズ本戦でも必要以上に気張ることなくクイズができました。正直結果はふるいませんでしたが、３回戦や決勝のクイズはボードクイズでありながら試合内容に引き込まれるような工夫されたルールで、全く退屈しない見ている側まで熱くなるようなゲームでした。
総括してエコノミクス甲子園は決して知力を試すだけの大会ではなく、新たな人間関係を築き、高校生活に新たな刺激を与えてくれるとても楽しくためになるものだったと思います。

和歌山大会 12月17日(日)開催

紀陽銀行

優勝チーム　智辯学園和歌山高等学校
(2年連続4回目)
「のぼ×たな」
田中 裕太・昇 幸汰

主催　紀陽銀行

参加校一覧
和歌山信愛高等学校、智辯学園和歌山高等学校、
近畿大学附属和歌山高等学校、開智高等学校

申込みチーム数　9チーム(4校)

和歌山大会代表　智辯学園和歌山高等学校　1年

田中 裕太

私は智辯学園和歌山高校のクイズ研究部に所属し、いろいろなクイズ大会等に参加していますが、コロナ禍でオンラインの大会が続き、今回が高校入学後、初めての対面での全国大会で、東京に行くのをワクワクドキドキしながら楽しみにしていました。
初日には経済に関するカードゲームで全国の参加者との親睦を深め、緊張感が少しほぐれました。2日目には、保険会社のコンサルタントとしてのプレゼンを全国からの高校生とチームを組んで考えました。特に同じチームになった岐阜高校とは、クイズ研究部の同じ部長、副部長ペアだったので、親近感も湧き、いろいろと情報交換もしました。その後の前夜祭では、参加者同士の親睦もさらに深めることができ、銀行員や金融関係の社会人の皆さんからいろいろと話しを伺うこともできて幅広い学びができました。

そして最終日、大会本番を迎えます。本格的な会場の設営を見て、さすが全国大会だと感激し、それと同時に急に緊張感も出てきました。第１ラウンドは早押しクイズ。早押しというものの、タイムが経つにつれてポイントが上がるルールで、今までに経験したことがなく戸惑いましたが、答えることができ一安心できました。第２ラウンドは途中までリードを保っていましたが、最後の１問で逆転されて、次のラウンドに進むことができませんでした。

閉会式では金子・森育英奨学基金の給付生に選んで頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。大学に進学し、世の中のために尽力していく決意がより一層強くなりました。

今回のエコノミクス甲子園に出場することで、今まで身近に感じることが少なかった金融関係の知識がぐっと増え、経済の動きも分かるようになってきてさらに興味が深まりました。いろいろと調べていくと、欧米では小中学校の段階から、「投資信託」や「株」などについて授業で扱っていることもわかり、日本では欧米に比べてまだまだ金融教育が普及していないのが実状のようです。

私は医学部志望ですが、金融に関する実践的な知識もこれからは必要不可欠な時代です。さらに勉強を続け、来年もまたこの全国大会の舞台に立ち、優勝を目指したいと思っています。

和歌山大会代表　智辯学園和歌山高等学校　１年

昇 幸汰

僕はクイズ研究部に所属していて、今回も同じクイズ研究部の友人に誘われて参加しました。しかしオンライン予選を勝ち抜き、気合いを入れて臨んだ全国大会は、これまで培ってきた「速くクイズに回答する」ということだけではまるで通用しない大会でした。色々な条件やタイミングを満たしてようやく得点できるというシステムに右往左往しました。ライバルたちと共に容赦なく振り落とされていく時間は、社会とは甘いものではなく、時勢を見て、運も味方につけなければいけないのだと、これから生きていく訓練を受けている気持ちになりました。それらの中でも、オリエンテーションで行った『交渉ゲーム』は特に心に残っています。８チームそれぞれが、協力すれば良いと理解していても、まず自分たちのチームの利益を最優先していました。かく言う自分も思いっきりそう立ち回っていたと思います。世界中で、国連をはじめとした国際的な組織があるにも関わらず、国々が一枚岩になって何かを為すことがとても難しい理由を身をもって分かった気がしました。

また、大会への往復路で、親なしで２人で東京を行動するという貴重な経験もできました。広すぎる空港、IC 専用の乗換改札、昼の２時なのに満席のレストラン…挙げればキリがありません。

最後になりましたが、４日間お世話になり、また遠方の自分たちのために、延泊もさせていただきありがとうございました。

鳥取大会　12月2日(土)開催

ごうぎん

優勝チーム　鳥取県立鳥取西高等学校
(4年ぶり4回目)
「鬱鬱葱葱」
吉田 泰希・桐林 新

主催　山陰合同銀行

参加校一覧
湯梨浜学園高等学校、青翔開智高等学校、
鳥取城北高等学校、鳥取県立倉吉総合産業高等学校、
鳥取県立鳥取西高等学校

申込みチーム数　10チーム(5校)

運営スタッフ感想
鳥取大会に参加していただいた高校生の皆さま、大会を盛り上げていただきありがとうございました。
そして、「鳥取県立鳥取西高等学校・鬱鬱葱葱」チームのお二人、優勝おめでとうございます。
予選ラウンドでは圧倒的な力を見せた「鬱鬱怱怱」ですが、決勝ラウンドでは、他のチームも徐々に実力を発揮し、一時逆転される場面もありました。しかしながら、お二人の知識力とチームワークは抜群で、見事優勝をつかみ取られました。
「鬱鬱怱怱」の知識力とチームワークがあれば、全国大会での上位入賞のチャンスも十分にあると思います。
全国大会での活躍を祈念しております。

鳥取大会代表　鳥取県立鳥取西高等学校　2年

吉田 泰希

僕は初めてエコノミクス甲子園の存在を学校に掲示してあったポスターで知った。もともと金融・経済に興味があったため、参加を決意した。地方大会ではケアレスミスもあったが、なんとか優勝し、全国大会への切符を手にすることが出来た。そして、迎えた全国大会。後輩等の為にも、簡単ではあるが3日間のプログラムやその感想を書き記しておこうと思う。
1日目はレクリエーションやオリエンテーションがあった。特に、交渉ゲームという、基本的には交渉で他のチームが所有する特産品を入手し、特産品を集めて生産品を製造し、その生産品をポイントに換算しポイント数で競うというルールのレクリエーションは、素直に楽しめたし、全国各地から来た高校生と親睦を深める良い機会となった。
2日目は筆記ラウンドからスタートした。筆記ラウンド終了直後の感想としては、特に後半の問題が難しく、分からない問題も少なからずあり、手応えは微妙だと感じた。そして暫くして、ビジネスケースが始まった。当日発表されたテーマに沿ってスライドを作成し、夕方にはプレゼンするという日程だったためスライドの作成時間が不足気味で大変だった。案の定、締切を少し過ぎてしまったが、なんとかスライドを完成させることができ、結果は芳しく無かったが無事にプレゼン出来て良かった。
そして迎えた3日目、大会本番。疲労や緊張も影響してか、第1ラウンドではルールを勘違いし、間違えてボタンを早く押してしまうという致命的なミスをしてしまった。事前順位があまり高くなかったことも影響し第1ラウンド終了時点では第3ラウンドへの切符を手にすることは出来なかったため、出場することになった第2ラウンドでは、選択式のクイズが出題された。しかし、単純に実力不足で、第3ラウンド出場を果た

すことができなかった。今思えば、ルールブックは隅々まで読んでおき、相方とは入念に打ち合わせをしておくべきだったと、そしてもっと勉強しておけば良かったと後悔せずにはいられない。そして第３ラウンド。前述の通り出場は果たせなかったため観戦のみであったが、想像以上に難しい問題が多く出題されており、全国大会のレベルの高さを実感させられた。全国大会の対策として日経キーワードを書店で購入し熟読するなど、様々な金融・経済用語等を勉強したつもりでいたが、全く勉強量は不足していること、そして全国には上には上がいることを第３ラウンドでも痛感させられた。第３ラウンドにて４ペアが決勝ラウンドに進出することが決定し、残るは決勝ラウンドのみかと思っていたが、突如として敗者復活戦があることを直前になって知らされた。決勝進出を賭け、出場した敗者復活戦。二択の○×クイズだったが、出場して即、間違えてしまった。勿論僕の実力不足が原因なのだが、全国大会に向けての対策が、ただただ用語を暗記することに固執し過ぎていたことを少し後悔した。決勝進出を果たすことが出来ず、悔しい思いでホールの座席に戻った。が、暫くして、突如、スタッフに僕を含めて数名が招集をかけられた。他の数名は奨学金関連で招集をかけられたようだが、奨学金など申請もしていない僕はなぜ招集をかけられたのか見当もつかなかった。エコノミクス甲子園は秘密主義が少し過ぎるのではないか…と感じた。そのまま舞台裏で待機させられていたところ、スタッフに筆記ラウンドの点数が第１位だったことを伝えられた。正直驚いたし、素直に嬉しかった。前述の通り、手応えはあまり良くなかったからだ。だが、筆記ラウンドの問題はマンキュー入門経済学から少なからず出題されており、大会前に軽く目を通していたのが良かったのだろう。その後、表彰式・閉会式があり、全国大会は幕を閉じた。３日間の全てのプログラムを終えた今、率直な感想としては、素直に楽しかったし、とても貴重な経験になったと感じる。不満点を挙げるならば、勿論、大会本番の結果が芳しくなかったのは僕の単純な実力不足が大きいが、それでもやはり全国大会は運に左右される部分が大き過ぎるのではないかと感じた。裏を返せば、勿論実力も重要だが、人生は運に左右される部分が大きいというスタッフからのメッセージなのかもしれないが。…と少し不満も述べさせてもらいましたが、本当にエコノミクス甲子園の運営に携わっていただいたスタッフ、そしてスポンサーをはじめとした、全ての本大会の関係者等に御礼申し上げます。

鳥取大会代表　鳥取県立鳥取西高等学校　２年

桐林 新

今回、第 18 回エコノミクス甲子園全国大会に参加できた事は、私を成長させてくれる良い機会となりました。そもそも、私は経済にはこれまで関心はあったものの、それほど深く知ろうとはしていなかった様に思います。ですが、友人の吉田君にこの大会に誘ってもらった事で、それまで知ることのなかった経済の世界を驚きを持って体験することができました。

全国大会の１日目、２つの競技は経済に触れるのには、素人にとって丁度良いものでした。１つ目の競技はエコノミカ大会でした。このエコノミカは経済に関係する様々な要因や用語を楽しく学び、その関係性を理解する上で、大変助けになりました。結果は残念ながら全敗でしたが、他の大会参加者と関わる楽しい機会となりました。２つ目の競技である交渉ゲームでは、ゲームを通して原始的な相場制を体感できました。自分の置かれた環境と、相手の置かれた環境によって、物品の価値が変動する様はとてもリアリティがあり、興味深いものでした。

２日目は終日ビジネスケースを行いました。与えられた情報や条件が難しいもので、大変苦戦しましたが、保険会社が日々行なっているビジネス活動の一旦を体験できたことは、将来の職業選択にとってとても参考になる体験でした。

この日の夜に行われた前夜祭はこの大会全体でとても印象に残っています。マニュライフ生命様からマスコットキャラクターのぬいぐるみを頂いたこともそうですが、何より、今の日本の経済活動の最前線で活躍する各企業の方々のお話を伺うことができたことが嬉しく、また貴重な経験ができたと思います。

３日目は大会本番、クイズ本戦がありました。結果は惜しくも敗退してしまいましたが、敗退したからこそ、経済の奥深さに触れることができたと思います。印象深いのは優勝決定戦です。少ない情報を少しづつ相手から引き出し、正解を導いていく動きは、少ない情報を活用して先々の予測をしていく投資関連の活動に似ており、その難しさとおもしろさを感じることができました。

最後に、大会全体を通して、自分の持つ経済への関心度を上げ、経済に対する知見を深めることができました。この世界に誘ってくれた吉田君には本当に感謝しています。ありがとう。

島根大会

12月3日(日)開催

ごうぎん

優勝チーム　島根県立松江北高等学校
(11年ぶり2回目)
「しじみーず」
小久江 竜駕・森脇 想太

主催　山陰合同銀行

参加校一覧
島根県立松江北高等学校、島根県立矢上高等学校、
松江工業高等専門学校、開星高等学校

申込みチーム数　10チーム(4校)

運営スタッフ感想
島根大会に参加していただいた高校生の皆さま、大会を盛り上げていただきありがとうございました。
そして、「島根県立松江北高等学校・しじみーず」チームのお二人、優勝おめでとうございます。予選ラウンドから拮抗した戦いとなった島根大会、結果的に予選4位で決勝ラウンドに進んだ「しじみーず」が優勝をつかみ取りました。
決勝ラウンドでは、最終的な正解数が4チーム並ぶ中、大きな金額を積み上げ優勝をつかみ取ったのが「しじみーず」でした。優勝が決まった瞬間のお二人のガッツポーズは、今大会にかける熱い想いを感じました。
お二人の固い絆と熱い想いがあれば、全国大会での上位入賞のチャンスも十分にあると思います。全国大会での活躍を祈念しております。

島根大会代表　島根県立松江北高等学校　2年

小久江 竜駕

時の流れるのは早いもので全国大会から2週間が経ちましたが、全国大会で感じた興奮と驚きはまだ冷めず昨日のことのように感じます。私の住む島根県は言わずと知れた大田舎で、そこで日々を過ごす自分にとってはこの大会ではすごく多くのことを感じずにはいられませんでした。それでは時系列を追って私の今大会の感想を書こうと思います。

1日目
すごくワクワクして東京に着いた。空港に着いたそのままの足で憧れの世界のカワイイの発祥地竹下通りにいった。いかついお兄ちゃんに声かけられた。3回。東京怖い。。
着いたらご飯を食べてエコノミカードをやりました。カードゲームをやるのは本当にひさしぶりで楽しみにしていたが、いざやってみると本当に意味わかんないくらい強い人がいて楽しみより驚きが勝ってしまいました。強すぎ。いや本当に。

そのあとは、みんなで交渉ゲームをしました。これがまた想像を絶する面白さで、作戦とかみんなで考えて、私たちの班は１番になることが出来ました！

２日目

朝から筆記試験！しかも英語！しかも３０分！重っ。。何とかここを乗り越えて、次にお待ちかねのビジネスケースをしました。こうゆうような経験はなかったのでとっても楽しかったです。全然ゴールの見えなかったものが１つ１つみんなで協力して、段々と形になっていくのがとても感動的でした。そのあとは立食パーティー！！うますぎ。楽しすぎ。最高。

３日目

この日はついにに本番！頑張るぞー！みんなすごかった。今日で終わりかと思うとすっごく淋しかった。いろんな人と仲良くなれていろんな経験ができて楽しかった。

島根大会代表　島根県立松江北高等学校　２年

森脇 想太

１日目

エコノミカ大会では、様々な県の代表の人たちと対戦することができ、いろいろな人達と交流して仲良くなることができた。

２日目

「生命保険会社から、マーケティング戦略のコンサルティングの依頼を受け、事業拡大に向けた総合的な戦略を提案する」という課題のもと、４人組のいくつかのチームに分かれて、それぞれのチームごとにプレゼンテーションの作成を行なった。かなり課題の難易度が高く、内容も複雑なものであったが、４人組のメンバーみんなで色々なアイディアを出していき、話し合いを重ねながら自分たちのチームの考えを深めていくことができた。さらに、４人組のチームのメンバーの方々は、地方大会において熾烈な代表争いを勝ち抜いた方々であるだけに、提案するアイディアも高度なものや、自分が考えつきもしないようなものばかりであり、とても良い刺激も受けることができた。このプレゼンテーションは、正直かなり大変ではあったが、プレゼンが完成した時の達成感はとても大きかったし、チームのメンバーと仲を深めることもできたと思うので、とても貴重な経験となった。

３日目

いよいよエコノミクス甲子園本戦の日がやってきた。自分たちのチームは、第一ラウンドの早押しクイズでー80点というとんでも無い点数を叩き出してしまい、予選通過は絶望的となってしまった。また、敗者復活戦においても、３問目で３人全員見事に散ってしまった。３日目は常に自分の勉強不足を感じていた。この大会を通して、エコノミクス甲子園で勝つ、もっと言うと経済を深く学ぶには、自分のように直前の数ヶ月での詰め込み勉強では意味をなさないこと、また、早いうちから経済に興味を持ちながら主体的に学んでいくことが大切であるとつくづく痛感した。

岡山大会　12月17日(日)開催

中国銀行

優勝チーム　岡山柏陵高等学校
(2年ぶり6回目)
「骨粗鬆症訴訟勝訴」
堀井 あかる・服部 晏子

主催　中国銀行

参加校一覧
倉敷高等学校
岡山白陵高等学校、岡山県立倉敷鷲羽高等学校
岡山県立岡山南高等学校、
岡山県立岡山大安寺中等教育学校、
岡山県立岡山操山高等学校、
岡山県立岡山東商業高等学校、
明誠学院高等学校

申込みチーム数　23チーム(8校)

岡山大会代表　岡山白陵高等学校　1年

堀井 あかる

今、大会からの帰りの新幹線でこの大会報告書を書いているのですが、とても眠いです。自分で思っていた以上に頭を使っていたんだなと思います。こんなに疲れていても、大会を振り返ってまず思うのはとても楽しかったなということです。
中でも予想以上に楽しかったのは2日目に行われたビジネスケースです。大会に来るまではビジネスケースが最も不安だなと感じていたのですが、いざグループになってみるとメンバーの子達が皆話しやすくて安心しました。他校との協力プレイという、普段だと中々得られない機会を頂けて嬉しかったです。
ここからは3日目の話をしようと思います。
まず、1次予選が始まる前に、舞台袖で同じラウンドに出るチーム達のリラックス度合いに驚きました。これから戦い合うチーム同士でも和んだ会話をしているのを見て、全く緊張せずに参加出来ました。クイズ自体は勉強の成果もあり分かるものが多かったです。あとは押すタイミングが重要だったと思います。
また、準決勝はかなり運の要素が強かったなという印象です。私たちと思考回路が一致するチームが多かったようで、2回も答えが無効になってしまいました。ですが、運要素が強いからこそ負けた時も悔しさを感じず清々しく負けることが出来たなと思います。
決勝戦は観戦するのみでしたが、正解するだけでは勝てないルールになっていて見ているだけでも面白かったです。
次に、エコノミクス甲子園に出ようと思っている人に伝えたいことを書いておきます。それは、相方と勉強す

る分野を分けすぎない方がいいということです。第17回では四択クイズがペアで分かれて回答する方式だったようですが、今回は筆記テストがペアで分かれる方式でした。いきなり「ペアで相談は出来ません」と言われてもいいように基礎的な知識は２人とも知ってた方がいいのかなと思います。
最後になってしまいましたが、普段は触れることが少ない経済という分野を学ぶ機会を下さった大会関係者の皆さん、本当にありがとうございました。

岡山大会代表　岡山白陵高等学校　１年

服部 晏子

全国大会に出場しなければよかった。
全国大会が終了して岡山に戻ってからしばらくの間、私は口を開けばこれを言っていた気がする。校外の人と交流する機会がほとんどない時間を過ごしてきたため、他校の方々と話すことがすごく新鮮だった。世の中にはこんなにたくさんの素晴らしい人がいるんだと衝撃を受けると同時に、自分の日常生活のつまらなさに気づいてしまったのだ。知らなければ今の環境に満足して日々を過ごせていたのに。嘆いたところで変わらない現実に絶望していた。でも今はもうむりやり日常に脳を慣れさせたのでご心配なく。
しかし、もっとたくさんの人と話せば良かったという後悔はずっと残っている。前回大会の大会報告書の岡山代表の方の感想に、他の子に岡山土産のきびだんごをあげてお供にしたと書かれているのを見て、私もそうしようと思っていたが、私自身きびだんごがあまり好きではなかったので（岡山県ごめんなさい）、私はむらすずめというお菓子を差し入れ、桃太郎役は相方が担当、、、するはずだった。差し入れを準備しようとかばんからむらすずめを取り出す私の隣で相方が永遠にきびだんごを出さないのだ。きびだんごが消えていた。きびだんごを入れた袋をゴミ袋だと勘違いしてどこかで捨てた説が有力だが真相はわからない。結局私たちは、同じ部屋だった静岡の子と、うなぎパイとむらすずめを貿易し、桃太郎にはなれずにおわった。うなぎパイはおいしかった。
その後のエコノミカ大会でも後悔しているのは、勝敗よりも対戦相手とたくさん話すことに重点を置けばよかったということ。どれだけ良い手を打っても勝敗はほとんど運で決まるということに気付くのが遅かった。あと一歩で勝ちだと思っていてもリスクヘッジ連発されたり、自分が優勢な状況からあっという間に逆転されて勝利されたり、全く先が読めない展開の対戦が続いた。五人と対戦ができ、エコノミカ大会が最も人と雑談する機会が多かった。私のような人見知りに他の人と話すきっかけを与えてくれるとても良い機会だった。
また、交渉ゲームでは、チームメンバーが話しやすい人ばかりで、この時間が、はじめに書いた感想に大きく影響したと言っても過言ではない。みんな動き回って他のチームと交渉する中、私だけ机にへばりついて一度も交渉に行かなかったのが他のメンバーの方に申し訳なかったし、みんなの交渉が上手すぎて脱帽するのみだった。
二日目も、ビジネスケースで同じチームの女の子と色々話せたり、前夜祭で銀行の方や同じテーブルの子たちと写真を撮ったり、各都道府県のお土産抽選会で、入浴剤と風呂桶が当たったりと良いことばかりで、もうこれまでの人生の不運は全てこのためだったのではと思えてきたほど幸せな空間だった。
そして三日目。自分の緊張感のなさに驚いていたが、舞台裏で周りも全然緊張した様子はなく、それぞれ思うままに舞台裏の時間を過ごしていて面白かった。客席でもリラックスして相方と問題の答えやベストな戦略を話し合ったり、前の席の子と話したりして、ぶっちゃけ配信されていない部分の方が記憶に残っている。
ここまで私の感想は大会の内容より人との交流についてばかりだが、それは私がほとんど活躍せず相方の足を引っ張りまくった気しかしないため、思い出したくないからである。人との交流以外の感想といえば、防寒具を必要以上に持っていくべきだったと後悔していることである。部屋に暖房がなく、ヒートテック＋もこもこパジャマ＋もこもこ靴下で寝ても、寒さでアラームが鳴る前に起きて睡眠不足になってしまった。まあ、防寒具の問題というより、私の寝相が悪く掛け布団が布団から落ちかけていたせいではあるけれど。
最後に、私の感想文をここまで読んでくれた方、この大会を支えてくださった皆さん、参加者の皆さん、そして相方に感謝の気持ちを伝えて終わりたい。 本当に、ありがとうございました。

広島大会　11月12日(日)開催

もみじ銀行

優勝チーム　修道高等学校
(9年ぶり3回目)
「多様性は免罪符」
フィゲロアビクトル龍馬・中村獅良

主催　もみじ銀行

参加校一覧
修道高等学校、広島大学附属福山高等学校、
広島大学附属高等学校、広島学院高等学校、
広島市立基町高等学校、広島市立広島商業高等学校、
広島県立広島叡智学園高等学校
広島県立広島商業高等学校、
広島県立広島観音高等学校、広島県立広島高等学校、
広島翔洋高等学校、ＡＩＣＪ高等学校

申込みチーム数　35チーム(12校)

運営スタッフ感想
広島大会にエントリーをしてくれた高校生の皆さん、ありがとうございました。早々に募集を締切り、リアル開催に参加できなかった高校生皆さん、申し訳ありませんでした。当日参加してくれた３２チーム６４名の高校生の皆さん、お疲れ様でした。私たち行員も４年ぶりの開催で大変なこともありましたが、皆さんの楽しんでくれている様子を見て疲れも吹っ飛びました。
優勝した『多様性は免罪符』チームのフィゲロア ビクトル龍馬君、中村獅良君おめでとうございます。広島大会代表として、全国大会優勝を目指して頑張ってください。全国大会では、各大会の代表との交流もしっかり楽しんでください。
高校では、金融教育が義務化され、金融リテラシーの重要性はより高まっています。皆さんの学んだ知識を試す場として、金融経済について楽しく学べるエコノミクス甲子園を、もみじ銀行は、今後も開催して参ります。
広島県内の高校生の皆さん、また来年、もみじ銀行会場で会いましょう。

広島大会代表　修道高等学校　2年

フィゲロア ビクトル龍馬

私は全国からきた高校生と過ごした３日間は一生忘れることができないと思います。
まず初日は緊張がある中、各県代表の方との顔合わせを行い、その後エコノミカ大会を楽しみました。全敗したので、来年こそはエコノミカにて勝ちたいと思っております。
２日目は筆記試験とビジネスケースについて、販売戦略を立て、プレゼンテーションをするラウンドがありました。
私は英語ラウンドで参加したのですが、筆記試験も英語での受験であったので、個人的には専門用語を知らなければ解くことが難しい問題をありましたが、６割ほど回答することができました。
私はグループのメンバーの方とすぐに打ち解けて、すごく良い雰囲気でビジネスケースのアイデアの考案、そしてプレゼンテーションの準備を出来たことが繋がり、ビジネスケース１位を取ることができました。
そしてメインイベントの全国大会の３日目は私の相方とともに早押しクイズや問題などに挑みました。
第二ラウンドで敗退し、その悔しさがあったのですが、敗者復活戦で絶対に下剋上をしてやるという強い意気込みを持って観戦しておりました。
敗者復活戦では、途中に全員不正解という予想外の展開があり、近似値問題を行ったのですが、近似値問題で大きく予想を外れてしまい、決勝への道を逃してしまいました。
この試合の中で「もしこのクイズでこの選択肢を選ん

でいれば…」という問題があったので、断腸の思いでこのエコノミクス甲子園を終わることになりました。
私はこの経験から来年も絶対に地方大会で優勝し、またこのオリンピックセンターという地に返ってくる事を相方と誓い、来年こそは優勝を掴み取りたいと思っております。
今年の IEO に出場し、そして来年は相方と世界という舞台に立てるように精進してまいります。

広島大会代表　修道高等学校　2年

中村 獅良

エコノミクス甲子園全国大会に出場させていただき誠にありがとうございました。
この 3 日間は自分が今まで経験した事の無いことばかりでとても刺激になりました。
まず 1 日目は全国から集まったメンバーとエコノミカ大会や交渉ゲームなどで親睦を深めました。皆んな快く話をしてくれてこれから始まる大会がより楽しみになったことを良く覚えています。
2 日目は朝から筆記ラウンドがありとても緊張していました。何とか終わるとそのままビジネスケースが始まりました。保険会社のコンサルをするという内容を見てすぐには理解ができず困惑しましたがチームで力を合わせて良い発表ができたと思います。その夜のパーティーでは 1 日を共にしたビジネスケースのチームのメンバーとゆっくり話したりとても有意義な時間が過ごせました。その夜は明日の本戦に備えて色々な単語を詰め込んで寝ました。
3 日目は朝から相方と問題の予想をしたりクイズを出し合ったりして楽しみな気持ちもありつつ緊張していました。第 1 ラウンドでは少し焦ってしまい 70 点のところで押してしまいました。もう少し攻めても良かったのかなと思います。第 2 ラウンドも駆け引きが関係する形式で 2 個目のヒントでは答えようなど決めていてもいざ出題されると焦ってしまい思うような結果が出せませんでした。敗者復活戦ではラストの 4 チームまで残りましたが惜しくも近似値問題で 2 位となってしまい敗れました。
色々と悔しさの残る 3 日目でしたが多くの事を学ぶことができたと思います。
出来ることなら来年も参加して次こそ優勝したいです！

山口大会　12月17日(日)開催

山口銀行

優勝チーム　慶進高等学校
(2年ぶり2回目)
「古傷が痛む日々」
山中 駿・福岡 綾乃

主催　山口銀行

参加校一覧
下関市立下関商業高等学校、山口県立下関西高等学校、山口県立大津緑洋高等学校、山口県立宇部商業高等学校、山口県立山口高等学校、慶進高等学校、早鞆高等学校

申込みチーム数　13チーム(7校)

運営スタッフ感想
山口大会は今年で12回目を迎え、7校13チームにご参加いただきました。
ご参加いただいた高校生の皆さん、ありがとうございました！
学校生活等の中では、あまり馴染みのない金融や経済に関するクイズに、皆さんが真剣に回答される姿を見て、金融の世界に関わるものとして大変嬉しく思いました。
優勝された慶進高等学校の「古傷が痛む日々」チームのお二人、おめでとうございます！
参加された皆さんはぜひ来年度もチャレンジいただきたいと存じます。
当行では今後も金融経済に興味を持っていただけるような金融教育を行って参ります。
最後になりましたが、山口大会開催にあたりご支援賜りました認定NPO法人金融知力普及協会の皆様、ご後援を賜りました皆さまに心より感謝申し上げます。

山口大会代表　慶進高等学校　2年

山中 駿

昨年の地方大会ではあと一歩で全国を逃してしまい、一年越しのリベンジを果たして出場した第18回エコノミクス甲子園全国大会。振り返ってみると、日常生活の中では得ることのできない刺激や発見に溢れた3日間でした。
1日目は朝から飛行機で東京へ移動し、会場入りしました。地方大会がオンライン開催だったため、全国大会に出場するという実感がいまいち湧かないまま迎えた大会でしたが、会場の広さや大会を運営されているスタッフの方々の多さを目の当たりにして初めて、全国大会という大きな舞台に立っていることを実感し、とても緊張しました。また、他県の代表の方と仲良くなれるか不安はありましたが、レクリエーションやエコノミカ大会などで交流を深めるうちに、親睦を深めることができました。
2日目は午前中に筆記競技、午後からは他県の代表と組んだ班でプレゼンを行うビジネスケースが行われました。ビジネスケースは、生命保険会社のコンサルタントとしてビジネスプランの提案を行うという実践的なテーマで、初対面のメンバーと共にプレゼンを作るのはとても大変でした。しかし一緒に食事を取ったり、共通の課題に取り組んだりするうちに仲良くなり、なんとかプレゼンをすることができました。
そして迎えた最終日の本戦。予選順位は27位と微妙なスタートでしたが、「ここから巻き返すぞ」という意気込みでした。
1stラウンドは普通の早押しクイズではなく、高得点帯まで待っての早押し。CAOのときの戦略など、考えることがたくさんある中で、2人の答えが一致した問題を落ち着いて正解することができました。
2ndラウンドは、5択のスリーヒントクイズ。前の組での問題傾向から問題の難易度が高いと感じたので、ファーストヒントで解答することで、誤答での失点を最小に抑えて逃げ切るという戦略をとり、なんとか3rdラウンドに進出できました。

3rd ラウンドは、クイズに正解して被らないように国を選んでいくルールでした。最終的にどのランキングが選ばれるかがわからない中、他チームに日本とアメリカを取られてしまってとても焦りましたが、なんとか 2 着で決勝ラウンド進出を決めることができました。
最後の決勝ラウンドは、ボードクイズを解きつつヒットアンドブロー形式のゲームを行うという、単純なクイズ力だけでは勝てない戦い。クイズはチームメイトに任せ、私は数字の推理に徹するという分担を行い、なんとか 12 問のクイズの間脱落することなく残ることができました。最終的には数字の大きさで 3 位となりましたが、チームワークを活かし最後までステージ上に立てたことが何よりも嬉しかったです。あと少しで手が届きそうだったニューヨークへの切符。優勝できなかったのはとても悔しいですが、全国優勝の夢は後輩に託したいと思います。
最後になりますが、大会を主催してくださった金融知力普及協会さんや、大学生スタッフの方々、対戦してくださった全国の高校生のみなさん、ずっと支えてくださった山口銀行の方、そして共に戦ってくれたチームメイトへ。最高の思い出を作ることができて、心から感謝しています。本当にありがとうございました。

山口大会代表　慶進高等学校　1 年

福岡 綾乃

私がエコノミクス甲子園に出場しようと決めたのは、中学 3 年生の 12 月でした。
もともと経済に興味はなかったものの、「無料で東京行きたい！！！！」など数々の田舎アホ JK 特有のくだらなすぎる理由がモチベーションとなり、気付けば経済についてもっと学びたいと思うようになっていました。
全国大会の 3 日間で、よりその思いが強くなり、将来の目標をも見つけることができたのでエコノミクス甲子園には本当に感謝してもしきれません。
エコノミクス甲子園に出場するか悩んでる中高生の皆さんに心から伝えます！エコ甲は神です！！人生変わります！！！！！マジで！！！！！！！ (大声)
1 日目のエコノミカ大会。7 回戦い 3 勝 4 敗。勝てるとしたらここだろうと思っていただけに悔しい。エコノミカのブースターパック欲しかったです。その後行われた「交渉ゲーム」はとにかく頭が追いつかず棒立ち。チーム全体としては 1 位となり、図書カードを頂きました。罪悪感。
2 日目の筆記・プレゼンラウンドでは 3 日間の中でも特に 1 番全国の高校生のレベルの高さに圧倒された日でした。筆記は主に経済理論中心で、マンキューを 1 文字たりとも読んでいない私は撃沈でした。プレゼンラウンドはテーマから何を言っているか全く分からなかったというのが本音です、プレゼンラウンドで同じ班だった高校生の皆さんに助けられなんとか無事に終えることができました。
3 日目、迎えたクイズ本戦。予選順位は 27 位と予想よりは良かったものの全体の半分以下。少しだけ不安になりましたが「予選順位は所詮予選順位」だと割り切れた分緊張せずにクイズに臨むことができました。
第 2 ラウンド、自分が「公正取引委員会」だと思って出した札が「経済産業省」の札だったということを回答確定した後気づき絶望。しかしその間違えて選んだ経済産業省がまさかの正解、10P 追加で一気に逆転することができました。振り返るとこの " 奇跡の勘違い " がなければ最後まで勝ち進むことはきっとなかったと思います。相方も「公正取引委員会」が答えだと思っていたらしいのですが私の回答を信じて止めずにいてくれたみたいです。感謝…！
その後第 3 ラウンドは先輩の完璧な国取り戦略により勝ち抜け、決勝ラウンドまで進めることができました。決勝の舞台から見た景色は間違いなく、私の今まで生きてきた人生で 1 番感動モノでした。楽しみという感情が大きく不思議と緊張はしなかったです。
12 問限定だった決勝は最後まで決着がつかず、事前に設定した数字により 3 位に終わりました。
全国 3 位。私には不相応な結果だと思います。「運と相方による3位」と言った方が正しいかもしれません。堂々と胸を張ることができない分、まだまだ私には対策すべき点があったと感じています。
決勝まで勝ち進めたのは今でもほぼ運要素（もちろん相方のゲーム戦略あってこそですが！）でしたが優勝を逃した理由は明確、「日々の生活をアンテナを張って過ごしていなかった」ことだと思います。
フリーミアムも著作権 70 年も学校で扱っており、路線価方式は FP 対策で飛ばしていたページに書かれてあり、電車の吊り広告に「e-Tax」とでかでかと書かれてたりと大会が終わってから気づくものが多かったです。きっとまだまだ見つけることが出来てない用語もあると思います。これからまた 1 年間、しっかりとアンテナを張りつつ経済理論の勉強も頑張りたいです。
今回のエコ甲を通して「知識があるだけではダメだ」、ということを学びました。第 3 ラウンドも決勝ラウンドも、全て相方の戦略ゆえに 3 位までのぼりつめることができました。私だけだったら、たとえ正解できたとしてもそのチャンスをうまく活用できず敗退してしまっていたと思います。プレゼンラウンドにおいても、アイディアをたくさん出したりグループをまとめてくださった高校生に凄く刺激を受け、私もこんな風になりたいという目標になりました。
来年も必ず決勝の舞台に戻り、そして次こそは 1 番大きなトロフィーを頂きたいです。
最後になりましたが、大会を主催してくださった金融知力普及協会の方々を始め大学生スタッフさんや銀行員さん、スポンサーの皆さん、共に 3 日間闘った高校生の皆さん、本当にありがとうございました

徳島大会　11月25日(土)開催

阿波銀行

優勝チーム　徳島県立富岡東高等学校
(初出場)
「アリアドネの糸」
三好 陽満・中西 稜

主催　阿波銀行

参加校一覧
徳島市立高等学校、徳島県立城ノ内中等教育学校、
徳島県立城南高等学校、徳島県立城東高等学校、
徳島県立富岡東高等学校

申込みチーム数　12チーム(5校)

運営スタッフ感想
優勝した「アリアドネの糸」チームのお二人、おめでとうございました。
優勝を逃したチームのみなさんも笑顔いっぱい晴れ晴れとした表情で、楽しかったとのお声をいただき、非常にうれしく思っております。
今大会が盛会のうちに終わりましたのも、金融知力普及協会のみなさまをはじめ教育委員会や学校関係者のみなさまの多大なご尽力のおかげです。ありがとうございました。

徳島大会代表　徳島県立富岡東高等学校　2年

三好 陽満

僕がこのエコノミクス甲子園の3日間で培ったのは仲間との友情です。今大会では多くの時間を自県だけでなく他県を含む同じ高校生の仲間たちと過ごし、協力し合いながら戦いました。
1日目は交渉ゲームという、周りのチームと自分のチームが持っている材料と交換してその集めた材料で生産品を作りポイントを集めていくゲームをしました。このゲームでは自分のチームの仲間たち役割分担をすること、他のチームの人たちとコミュニケーションをとってうまく材料を獲得することが大切でそのどちらでも周りの人たちとの協力が必要不可欠でした。誰もプレイしたことがない全く新しいゲームだったので、どのようにゲームを進めていくのかを考え、相談することも白熱してとても楽しかったです。
2日目はプレゼンラウンドで5人のメンバーと一緒にスライドを作り、発表しました。一日を通してどのような発表にするか相談し、協力して発表を作り上げました。食事などの時間も共にし、たくさん会話し、仲を深めることができました。
3日目は大会本番でした。心強い相方と共に全力で頑張りました。結果は第三ラウンドで敗退となりましたが、3日間を通して同じ部屋で仲良くなれたチームが決勝に残り、全力で応援しました。全力で頑張る仲間を全力で応援するのはとても楽しかったです。
この3日間を通し、たくさん協力し、たくさんの出会いがあり、たくさんの仲間を作ることができました。とても良い経験ができました。

全国大会感想 Final tournament report

徳島大会代表　徳島県立富岡東高等学校　２年

中西 稜

タダで東京に行けたらいいな。エントリーした時はそれくらいの意気込みでした。
地方大会では直前の対策が見事にハマり、なんと優勝。家への帰り道、本当に勝っちゃったよと二人で焦りながら喜んでいたのを覚えています。
一日目には経済を主題としたゲームを行いました。制限時間が設けられていたためお互い気を遣う暇もなく、初対面にも関わらず楽しく交流することができました。
二日目にはビジネスケースに取り組みました。非常に難しいお題に苦しめられましたが、チームで団結し、最高の発表会になったと思います。
二日目の夜、疲弊しきった体でベッドに横になったとき、既に満足感はピークに達していると思っていました。
翌日会場に入ると、その壮大さに圧倒されました。大会が開会した時、最も驚いたのは、他のチームの方々が敵には見えなかったということです。それは皆も同じだったと思います。会場の全員が一体となって大会を作り上げている、そんな感じでした。惜しくも決勝に進めなかったのはもちろんとても悔しかったですが、大好きなクイズで戦えたこと、そして全力を出し切れたことは紛いもない幸福でした。
振り返ってみればピークだと思っていた満足感は、むしろ倍以上にまで跳ね上がりました。東京に行けてよかった、そんな薄っぺらい感想では足りないほどの濃密な経験でした。
最後に、これほどの素晴らしい思い出を作っていただいた大会の関係者の皆様に心からの感謝を申し上げます。

香川大会

12月10日(日)開催

いい出会い ふくらむ未来
百十四銀行

優勝チーム 香川県立高松高等学校
(4年ぶり11回目)
「チームまもるん」
小松 遼悟・高橋 悠介

主催 百十四銀行

参加校一覧
香川県立高松商業高等学校、香川県立高松東高等学校、香川県立高松桜井高等学校、香川県立高松西高等学校、香川県立高松高等学校、香川県立高瀬高等学校、香川誠陵高等学校

申込みチーム数 14チーム(7校)

運営スタッフ感想
香川大会は6校13チームの高校生に参加いただきました。
生徒さんの同級生による応援団のほか、先生方や保護者の方々も多数観戦に来られ、大いに盛りあがりました。
特に決勝ラウンドは、6チームが全て2年連続出場の猛者ばかりで最後までどうなるか分からない白熱の戦いでした。そのような中、予選6位の高松高等学校「チームまもるん」が下剋上を果たし、見事その栄冠を手にしました。
「チームまもるん」のお二人、優勝おめでとうございます！スタッフ一同、全国大会でのご活躍を期待しております！
今後も多くの高校生に参加いただけるように、楽しい大会運営につとめたいと思います。

香川大会代表 香川県立高松高等学校 2年

小松 遼悟

エコノミクス甲子園での体験は私にとって、とても新鮮で衝撃的なものでした。1日目のオリエンテーションから始まり、最終日の本番まで、スタッフの方々が考えてくださった楽しいイベントや、前夜祭を通して他の参加者である高校生たちや、金融機関の方々などともコミュニケーションを図ることができとても貴重な体験をすることができました。その中でも私の印象に特に残っているのは、2日目のビジネスケースです。その日は朝に筆記ラウンドがあり、その後すぐに事前に知らされていたグループに別れ、そのグループで協力してプレゼンテーションを作り上げましたが、時間も迫る中でグループのメンバーと協力しながら、プレゼンを完成させることはとても難しく、力を合わせて締切の直前までスライド作成、推敲、添削を繰り返しなんとか完成させました。初対面のメンバーたちと、議論

を交わしながら完成まで持っていき発表することはとても大変でしたが、それを成し遂げた時には何ものにも代え難い達成感と喜びを感じました。最後になりましたが、エコノミクス甲子園を支えてくださったスタッフ、金融機関の方々、どの企画も本当に楽しく、斬新で、一生の思い出となるようなものでした。本当にお疲れ様でした。そして、ありがとうございました！！

香川大会代表　香川県立高松高等学校　２年

高橋 悠介

今回のエコノミクス甲子園で印象に残っていることは、プレゼン制作です。最初、プリントが配布されたときに、状況などがすぐに理解できなくて、何をすればよいか分かりませんでした。しかし、メンバーとのコミュニケーションを通して、論理的に思考し、細かく分析することができました。メンバーとは、最初でこそ少し緊張したけれども、終盤に近づく頃には、すっかり打ち解けることができました。限られた時間のなかで、やり遂げるのは難しかったけれども、メンバーと助け合いながらできたので、完成までもっていけたと思います。将来、同じような状況と遭遇したときには、仲間とのコミュニケーションや助け合いなどを大切にして行動していきたいです。
今回は、普段あまり体験できないようなことができて、本当によかったです。特に、スタッフの方々はあれほど凝った問題を制作なさるのは、素晴らしいと思いました。金融知力もそうですが、他のことも含めて、本当に勉強になりました。

愛媛大会　12月10日(日)開催

伊予銀行

優勝チーム　愛媛大学附属高等学校
(初出場)
「13plus」
山内 暁道・安藤 大智

主催　伊予銀行

参加校一覧
愛光高等学校、愛媛大学附属高等学校、
愛媛県立今治東中等教育学校、
愛媛県立南宇和高等学校、愛媛県立川之石高等学校、
愛媛県立松山中央高等学校、
愛媛県立松山商業高等学校、愛媛県立松山東高等学校、
愛媛県立松山西中等教育学校、
新居浜工業高等専門学校

申込みチーム数　23チーム(10校)

運営スタッフ感想
今年も無事に大会を終えることができ、安心しております。盛り上げてくれた愛媛県内の高校生の皆さまに感謝しています。
参加した高校生たちが真剣に金融や経済に向き合っている姿を見て、とても感銘を受けました。高校生たちの金融・経済に対する興味・関心・知識が年々高まっているように感じています。来年以降も引き続き多くの高校生に楽しく参加いただけるように、高校生により身近な方法を模索しつつ、さらに「エコノミクス甲子園」を広められるよう邁進してまいります。
本大会を主催してくださった金融知力普及協会の皆さま、第18回エコノミクス甲子園に参加してくれた愛媛県内の高校生の皆さま、本当にありがとうございました。

愛媛大会代表　愛媛大学附属高等学校　2年

山内 暁道

以前の私はそれほど金融にも経済にも興味はなく、教科書に載っている程度のことしか知りませんでした。高校一年の春、学校の先生に勧められて興味を持ち、エコノミクス甲子園への出場を決めました。参加者全員に配布される事前学習用教材はどれもわかりやすく、財政から保険や投資、さらにはNISAなど近年注目されているものまで多岐にわたり、これからの生活に役立つものばかりでした。初めて出場した地方大会は予選敗退。これまで以上に学習を積み挑んだ今年の地方大会は予選6位通過からの逆転優勝。嬉しさから涙が零れました。本校からの全国大会出場は初であり、ずっと指導してくださった先生の長年の念願でもありました。いつもはあまりリアクションを示さない先生が優勝の瞬間立ち上がったときは驚きました。

全国大会感想 *Final tournament report*

そうして迎えた全国大会。エコノミクス大会ならではのユニークなルールの中で頭をフル回転させながら楽しむことができました。特に、ビジネスケースラウンドはこれまで考えたこともないような課題にメンバー全員、頭を抱えましたが、何とかみんなで協力してプレゼンテーションを作り上げ、達成感を共有でき、思い出に残っています。この全国大会の３日間で、全国各地にたくさんの仲間ができました。また、エコノミクス甲子園をきっかけに金融・経済さらには社会に興味が芽生え、見方が変わってきました。エコノミクス甲子園のおかげです。この大会に携わり、サポートしてくださったすべての皆様、ありがとうございました。

愛媛大会代表　愛媛大学附属高等学校　２年

安藤 大智

私は、もともと社会科が好きで、高校に入ってから、エコノミクス甲子園のことを先生に勧められて、先生やほかの友達とともに勉強してきました。去年は惜しくも県大会で敗退したけれど、それからさらに一年、後輩も含めて勉強をさらにして、高校としても初となる県大会優勝・全国大会出場を果たしました。

１日目、全国から集まる高校生との対面に緊張したが、エコノミカや交渉ゲームなどの面白くて楽しいオリエンテーションですぐに打ち解けることができた、とても楽しい出会いの夜でした。

２日目、日中はほとんどビジネスケースで、六人で、なかなかに難しいテーマではあったけど、知恵だけでなくアイデアを出して一つにまとめていくのは、大変だったけど、その分とても楽しかったです。また、前夜祭では、さらにほかの都道府県の人と話ができ、県を超えた交流ができて、非常に楽しかったです。

最終日３日目、どの問題も、やはりレベルが高く、自分の勉強不足を感じることもあったし、悔しかったけど、全体を通して楽しかったです。

また、この三日間、同じ部屋だった三重の人とも、とても仲良くなれて、またプライベートでも会いたいなと思うくらいです。

何事も楽しむことがモットーの私は、いろんな経験ができ、いろんな人とつながれた本大会は、とても楽しかったし、感謝でしかありません。エコノミクス甲子園に継続して参加して本当に良かったと思っていますし、高校生活の一番大きな思い出の一つになることと思います。今度は後輩が優勝できるように、もっと、自分も勉強し、後輩の教育をしていきたいです。

本当にありがとうございました。

福岡大会　12月17日(日)開催

北九州銀行

優勝チーム　福岡県立東筑高等学校
(2年連続2回目)
「緋翠」
中田 涼雅・上野 美羽

主催　北九州銀行

参加校一覧
上智福岡高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校、福岡県立宗像高等学校、福岡県立小倉南高等学校、福岡県立戸畑高等学校、福岡県立新宮高等学校、福岡県立春日高等学校、福岡県立東筑高等学校、福岡県立福岡高等学校、福岡県立筑紫丘高等学校

申込みチーム数　22チーム(10校)

運営スタッフ感想
出題されたクイズの中には、一瞬、スタッフ自身も考えさせられるような問題 も出題されましたが、きちんと正答されている方が多く、高校生の皆さまがこの大会に向けて金融経済について積極的に学び、理解を深めていることがよく 分かりました 。
金融経済の知識は、将来にわたって不可欠な知識なので、今後も関心を持って学んでいただきたいと思います。

福岡大会代表　福岡県立東筑高等学校　3年

中田 涼雅

もう一度全国大会に出たいと考えているときに、新入生として部活に入ってきた上野さんを見て、全国に行けると思って誘った。推薦で合格出来なければ、前期を蹴ってでもエコノミクス甲子園に出場するという気持ちでエントリーした。予選前、全国大会前はプレッシャーを去年以上に感じていたが、励ましあって一緒に勉強した。上野さんの頑張りなしに2年連続出場は叶わなかったと思う。
1日目は、和やかな雰囲気の中、色んな人と交流し、とても楽しめた。2日目は、ペーパーやビジネスケースにとても苦戦した。初めてのことばかりで何もできなかったが、貴重な経験となった。前夜祭では、OBの方と話したり、抽選会で盛り上がったりと良い時間を過ごせた。
そして最終日。事前順位が去年より上がっていて素直に嬉しかった。ついに始まった本戦では、第1ラウンドはとてもうまくいった。答えに100%自信があるわけじゃなかったが、上野さんが「後悔のないように…」と後押ししてくれて正解できた。第2ラウンドは後悔の残る結果となった。最終問題を当てていればと今でも後悔している。たった一つの選択が大きく未来を変えてしまうことを経験した。敗者復活も混乱してしまってあっけなく終わってしまった。上野さんと決勝まで行って最後までクイズがしたかった。後悔の残る大会になったが、3年生でエコ甲の全国大会に出場できたことが幸せだと感じた。そして、全国大会は本当に楽しかった。

これからも多くの高校生はぜひともエコノミクス甲子園に参加してほしいです。絶対に良い経験になります。3年生で全国大会に出場出来たのは、周りの友達や先生方、家族の応援・支えがあったからで、何よりもチームメイトとしてずっと頑張ってくれた上野さんのおかげです。改めてありがとうございました。そして、大会の計画から運営に携わった全ての方に感謝します。エコ甲があったからこそ、最高の高校生活になりました。

福岡大会代表　福岡県立東筑高等学校　1年

上野 美羽

まずは、第18回エコノミクス甲子園の開催にあたりご尽力いただいたスタッフ・関係者の皆様、貴重な経験が出来る機会を提供してくださり心より感謝申し上げます。また、移動に付き添ってくださった北九州銀行の方、たくさんのエールを送ってくれた東筑高校クイズ研究会の皆さん、先生方、友達、家族のみんな。本当にありがとうございました。多くの感謝を胸に、私は今大会を振り返る。

1日目のエコノミカ大会と交渉ゲーム。自分の思うようにいかず苦戦したが、活動を通して多くの参加者の方と交流出来た。初対面の方でも金融経済の話題を中心に自然と会話することができ、充実した時間だった。

2日目の筆記ラウンドとビジネスケース。率直にどちらも難しかった。その中でも自分に出来ることを模索し、ベストを尽くした。前夜祭では、参加者の方以外にも全国各地の方々と交流することが出来た。コミュニケーション能力をもっと高めておくべきだったと痛感した瞬間でもあった。

そして3日目の本戦。事前順位に個人的にあまり納得がいっていなかったので、1Rに100点を獲得出来た時は嬉しかった。安心したのも束の間で、惜しくも上位12チームに入ることが出来ず迎えた2R。持っている知識を発揮出来ず、また自力で絞った2択を選びきれず、呆気なく終わってしまった。3R後に行われた敗者復活戦では、思考回路が止まり瞬殺だった。これで私たちのエコノミクス甲子園は幕を閉じた。

大会を振り返り、私の心に最も大きく残るのは無念だ。これまでに対策したことの多くは3Rや決勝の問題として出題され、自分たちの出番で勉強の成果を最大限に発揮することはできなかった。悔しい。この一言に尽きる大会だった。しかし、この大会を通して得たものがある。学ぶことの楽しさと仲間の大切さだ。私は経済の知識がゼロの状態からエコ甲に向けての勉強を開始した。知らない言葉や難しい仕組みが次々に出てきて負けそうになることもあったが、相方の存在が自分のモチベーションになった。1人ではなかったからここまで頑張ることが出来たと思う。勉強をしていくうちに、徐々に知識が増えていくのがわかった。日常生活の中で知っている言葉を見つけると嬉しくなった。自分の知らない世界を学ぶことは、知識を身につけると同時に楽しさを生み出すことを改めて感じた。私はこれからも金融経済の勉強を続ける。来年もこの舞台に立てるように。そして、今回のリベンジを果たせるように。

最後に、半年間共に戦ってくれた先輩へ。エコ甲のペアに私を誘ってくれたこと本当に感謝しています。互いに高め合った半年間は最高の思い出となりました。本当にありがとうございました！

佐賀大会　12月17日(日)開催

このまちで、あなたと
佐賀銀行

優勝チーム　弘学館高等学校
(2年ぶり4回目)
「蟷螂のまさかり」
溝口 資仁・志岐 旺飛

主催　佐賀銀行

参加校一覧
佐賀県立佐賀西高等学校、弘学館高等学校

申込みチーム数　5チーム(2校)

運営スタッフ感想
昨年の鳥栖高校（総合4位）以上の成績を期待します。

佐賀大会代表　弘学館高等学校　1年

溝口 資仁

まず、今回の大会の開催に関わってくださった皆様に感謝申し上げます。
僕は学校の部活動の一環として経済の学習を始めました。最初は学習に苦戦していましたが、インターネット上の事前学習教材を読み込んだり、顧問の先生による指導のもとで少しずつ自分の知識の幅を広げることができました。大会が近づき、志岐君に声をかけたところ、快く引き受けてくれて、チームを組み、2人での学習も開始しました。2人ともこの大会に向けて誰よりも本気で努力し、佐賀予選を通過できたときには喜びと共にこれまでの努力が全て報われたという安心感で

いっぱいでした。その後も弱い体と鋼の執着を持ち合わせた僕は全国大会に向けてたびたび体調を壊しながらも気が狂うほど勉強し、その過程で自分の金融に関する知識は飛躍的に向上したと思っています。自分の限界に挑むことができた貴重な経験でした。

そして全国大会では、全国各地の沢山の刺激的な友人と出会い、特に同じ部屋だった東京代表の２人からは大きな影響を受けました。おそらく彼らは僕と違う次元に住んでいました。ビジネスケースラウンドではチームメンバーの凄まじい知識や想像力に度肝を抜かれました。筆記ラウンドではどのような問題が出るのか全く知らず、対策不十分で大打撃を受けてしまいました。これが結果にも (多分) 大きな影響を与えてしまい、非常に後悔しています。

そして迎えた本番当日､第１ラウンドではボタンを押し、正解できたことに対する喜びと相方の異常な喜びに対する戸惑いで、色々と印象に残りました。第２ラウンドでは、得意だと思っていた分野の問題で案外細かい知識を知らず、高得点獲得が叶わなかったことに対して、非常に悔しい思いをしました。

結果は満足いかない結果になってしまったものの、僕はエコノミクス甲子園の全国大会に出場することで、大きく変わったと思っています。まず、ニュースをよく理解できるようになりました。これまでは、ニュースになっている出来事を知っておしまいでした。しかし、勉強していくうちに、出来事の背景やその波及効果などについて考えたりするようになりました。次に、知的好奇心がさらに深まりました。知識は思考との架け橋のようなものです。近年､思考力を重視するあまり、知識が軽視されている現状があるように感じます。しかし、知識のもとで思考は働きます。この大会はその大事さをよく教えてくれました。最後に、経済学に興味を持つきっかけを与えてくれました。全国大会出場者に配布された「マンキュー経済学」はこれまで複雑だと考えていた経済を驚くほど単純化していて、読んでいて非常に面白かったです。

今回この大会を素晴らしいものにしてくださった全ての方々、僕らを応援してくださった家族や学校の友人、先生方、そして共に出場してくれた志岐君に改めて感謝申し上げます。

佐賀大会代表　弘学館高等学校　１年

志岐 旺飛

この度は第 18 回エコノミクス甲子園全国大会に出場させていただき誠にありがとうございました。２ラウンド目で敗退という結果になってしまい、自分の実力不足を改めて実感しました。しかし、この大会で出会った県代表の選手たちの姿を見て、学んだことや気付いたことがたくさんあります。それは幼い頃からずっと努力し続けて手に入れた学力、誰にでも優しく接する人間性、ユーモア… 自分が持っていないものを彼らはたくさん持っていました。私はきっとこの大会で彼らに出会っていなければこれまで通りの努力しかしない人間だったと思います。でも私は彼らと出会い、いつか彼らのようになりたい、追い越したいと強く思いました。きっと、想像を絶する努力の末全国大会に出場し、あれだけの知識を身につけた彼らに追いつくには文字通り命懸けで努力するしかないと思います。でもこの大会で彼らの姿を間近で見て、彼らからエールをもらった今､「やってやらあ！」という気合いで溢れています。心身ともに強くなって、もし来年また全国大会に出場出来たなら次は優勝を勝ち取りたいです！この度は本当にありがとうございました！！

長崎大会　12月17日(日)開催

十八親和銀行

優勝チーム　長崎県立佐世保北高等学校
(10年ぶり2回目)
「いばすでか」
田代 豊・大久保 優樹

主催　十八親和銀行

参加校一覧
長崎南山高等学校、長崎市立長崎商業高等学校、
長崎県立佐世保北高等学校、
長崎県立壱岐商業高等学校、青雲高等学校

申込みチーム数　6チーム(5校)

運営スタッフ感想
長崎県内だけでなく、オンライン開催の他県の参加者とももオンラインとは言え、つながることができ、参加した高校生にとってはとても貴重な経験となったと思います。

長崎大会代表　長崎県立佐世保北高等学校　2年

田代 豊

1日目
始めて出会った人たちとの関わりの中で世界の広さを改めて知りました。宿泊の部屋が同じだったメンバーからその地域の話を聞いたことは、それまで考えもしなかったことを考えるきっかけになりました。

2日目
ビジネスケースでは様々な人と関わり、それぞれの人がアイデンティティをもっているということを認識すると同時に、普段の自分を客観的に見直すことができました。筆記ラウンドとビジネスケースを通して、経済・金融の知識だけでなく一般教養や情報処理能力がまだまだ不十分だということを痛感しました。私には突出した能力も、周りに誇れるような実績や経験もないので、これからそれら掴めるように、目標を立ててひたむきに努力しようと強く思いました。

3日目
いよいよ本番を迎えました。私はこの日を通して、自分の信条のようなものが大きく変わったのを感じました。これまでの私は、何かに愚直に取り組むことを避けてきたかもしれません。全力で取り組んだものが実を結ばなかったときに、言葉では言い表せない気持ちを味わうことになるからです。しかしこの日、これまで全力で勉強して優勝を掴んだ相方や、決勝で敗れて涙を流していた戦友を見て、心が揺さぶられました。彼らを心から尊敬するほかなく、自分もそうありたい(全力で何かに打ち込んで、勝ったときには全力で喜び、負けた時には悔しい思いが溢れてくるような人でありた

い）と思いました。
今回はこのような素晴らしい大会を開催していただきありがとうございました。多くの方が関わり、まさに全力で準備されてきたのだと思います。何事にも替えられないこの経験を一生忘れません。本当にありがとうございました。

長崎大会代表　長崎県立佐世保北高等学校　２年

大久保 優樹

今回、全国大会に初めて出場した中で優勝を果たすことができました。優勝したことは大変大きな喜びとなりましたし、国際経済オリンピックに出場できるようになったことはとてもワクワクしています。また、大会の期間に全国から集まった代表たちと交流できる、貴重な機会となりました。大会を運営してくださったスタッフのみなさん、応援してくださったみなさんのおかげで本当に楽しい思い出を作ることができました。本当にありがとうございました。 大会の内容についてもお話ししたいと思います。１日目にはエコノミカ大会や交渉ゲームが行われました。交渉ゲームは相手の行動を予測する必要があり、ほかのチームとの協力もできるなど戦略を立てる必要がありましたが、チームのメンバーと協力しながらなんとか進めることができました。また、宿泊する部屋が同じ人ともすぐに打ち解け、仲良く過ごすことができたため、大会期間中和やかに過ごすことができました。 ２日目の午前筆記ラウンドでは、主に経済理論について問われました。私は英語コースを選択したのですが英語で表現してある経済学の専門用語が難しく、苦戦したのを覚えています。また、ディスカッションでは保険会社のビジネスアイデアについて話し合いました。みんなが自分では思いつかないアイデアやまとめ方を提案していて、発想の豊かさに驚かされながらも、意見を交換しながら案をまとめることができました。ディスカッションの順位が全体で２位だと知ったときは本当にうれしかったです。また、その後に行われた前夜祭では各地方の代表のみなさんと交流を深めることができるいい機会になりました。 そして本戦が行われた３日目はリラックスして準備を進めることができました。第１ラウンドで相方が100点のところでボタンを押すなど、調子よく進むことができました。第２ラウンドで逆転して上位への進出を決めるなど、はらはらした展開が何度もありましたが、決勝へ進み、運によるところも大きかったですが、決勝でも勝利することができました。 全国大会を通じて、全国から集まった様々な経歴を持つ人と交流を持つことができたことは大変貴重な経験になりました。同時に、自分が生活している生活圏がいかに狭いものであり、全国にはより多様で才能ある人がいることを実感する機会にもなりました。また、学校では出会えない、経済の話を一緒にできる高校生がいたこともとてもうれしかったです。さらに、経済金融の現場で働く方々のお話を聞く中で自分たちが学んだ知識が実際に現場で生かされていることを実感することにもつながりました。 貴重な経験をさせていただいたことスタッフの皆さん、銀行の方々、応援してくれたみんな、そして相方に感謝申し上げさせていただこうと思います。本当にありがとうございました。

大分大会　12月17日(日)開催

SBI GROUP SBI損保

優勝チーム　大分県立中津南高等学校
(初出場)
「イントーン」
椎葉 敦士・野依 桂

主催　SBI損害保険

参加校一覧
大分東明高等学校、大分県立中津南高等学校、
大分県立大分上野丘高等学校、
大分県立大分舞鶴高等学校、大分県立宇佐高等学校、
大分県立豊府高等学校、岩田高等学校

申込みチーム数　10チーム(7校)

運営スタッフ感想
弊社では第17回が初のオフラインでの開催であり、今回が初のオンラインでの開催となりました。初のオンライン合同大会となることで、学生の皆さんが楽しんでいただけるのかを心配いたしましたが、司会のスタッフの方のZoomを活用した参加チームへの振りや進行の巧みさで非常に盛り上がった状況で大会は終了しました。まずは運営スタッフの方々に御礼をお伝えしたいと思います。また、学生の皆さんがご自身の部屋や教室、カラオケボックスなどさまざまな環境からアクセスし、大会を楽しみながら予習の成果を発揮している様子が確認できたことは、主催企業としてとても嬉しかったです。
今年は県内のどの地域に通う学生でも参加しやすいようにとオンラインでの開催といたしましたが、今後は、オンライン・オフラインの両大会の良い部分を比べながら、学校関係者や学生の皆さまのご意見などもうかがいつつ検討していきたいと思います。

大分大会代表　大分県立中津南高等学校　3年

椎葉 敦士

1日目
みんな初対面、共通点は金融経済に興味があるだけ、そのような人達で始まったエコノミカ大会、感想は「楽しい」ただそれだけだ。挨拶して、自己紹介をして、勝ち負けなんて関係なく親睦を深める事ができた。その後の交渉ラウンドでは、交換を優位に進める事ができ、優勝する事ができた。即席でできたチームで役割分担して、一つの事を競う。なかなか出来ない経験をする事ができた。
2日目
筆記ラウンドではあっという間に時間が過ぎてしまった。経済用語だけで無く、計算方法や、基礎的数学力が無いと太刀打ちできない問題だと感じた。その後プレゼンでは、「初めまして」の声が飛び交いながらも、長年一緒にいるかのような団結力で、一つのプレゼンを作り上げる事ができた。ただ発表が5分という短い時間の中で、最後まで発表をできなかった事が心残りだ。1日筆記とプレゼンでとても疲れた。部屋に戻ってからは相部屋になった岡崎高校の2人と夜遅くまで話たり、一緒に勉強したりして、より深い絆ができた。
3日目
いよいよ、本番。私は予選順位が低かったので、最後まで押さず、CAOで解答して、100ポイントを目指そうと作戦を立てた。予定通り、最後まで待って解答できた事は今まで経済を勉強してきた事が肯定された気がしてとても嬉しかった。
第2ラウンドは3つ目のヒントまで聞けば全部わかっ

た。12 ポイント以下のチームが勝ち進み、私は敗退してしまったので、結果論ではあるが、戦術を後悔し、その後 2 日間はショックを受けていた。
その後は観客席から見ていたが、3 年生なので、私に来年のエコ甲がない事がとても悔しく、寂しく感じた。第 3、決勝ラウンド共に解る問題が多くあり、本当に上位ラウンドに進出出来なかった事が悔しかった。問題が進む毎に悔しさが倍増した。
最後に、エコノミクス甲子園の運営に関わる全ての方々、この様な経験をさせて頂き、ありがとうございました。私も今後の運営にお力になれたら嬉しいです。

大分大会代表　大分県立中津南高等学校　3 年

野依 桂

1 日目のエコノミカでみんなの顔を見た時全員賢そうな顔をしていてとても緊張しました。でも実際に対戦をしたらみんなとても面白くてやり方も優しく教えてくれて楽しかったです。その後にやったオリセン建設ゲームではチーム 4 人で協力してアイテムをゲットしていくのはとても面白かったです。
2 日目のビジネスケースではそれぞれが得意な事を担当して保険会社に事業提案を行いました。その時に驚いた事は自分より年下の子達がありえないぐらいのスピードでプレゼン資料を作ったり斬新なアイデアを提案していた事です。その時にやっぱり各県の優秀な人達が集まってるなと感じ刺激を受けました。発表では自分達のプレゼンに絶対の自信があったため優勝できなくてとても悔しかったです。夜の立食パーティーでは信じられないくらいの豪華な料理をたくさん食べれて幸せでした。その時に今まで話してなかった人達と話す事ができて楽しかったです。プレゼント抽選会では当たる事はなかったですが、同じ机の子が当たるとみんなで騒いで最高でした。
3 日目の大会では負けましたが練習の成果を発揮できてよかったです。最初は自分達は 3 年生で周りと絡みづらかったけど 3 日間一緒に生活していく中で友情が芽生え大会が終わった後に写真を撮ったりインスタを交換したり強くハグをしました。こんなにも楽しくなるとは思ってませんでした。来年はスタッフとしてこの大会に参加したいです。ありがとうございました。

宮崎大会　12月17日(日)開催

輝き ふれあい
宮崎太陽銀行
明日の夢 人から人へ
宮崎銀行

優勝チーム　宮崎第一高等学校
(2年連続6回目)
「あんかけガールズ」
岩﨑 湖子・脇屋敷 あげは

主催　宮崎太陽銀行・宮崎銀行

参加校一覧
宮崎県立妻高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、
宮崎県立都城商業高等学校、
宮崎県立都城工業高等学校、宮崎第一高等学校

申込みチーム数　11チーム(5校)

運営スタッフ感想
オンライン合同形式による開催となりました。コロナ禍の収束を受け、久しぶりのリアル開催も検討しましたが、交通の便等、宮崎の土地柄を踏まえ、遠方の高校生の参加も可能なオンライン開催を引き続き選択することといたしました。
高校生たちの熱戦ぶりを直接目にすることができないのは寂しいですが、全国大会でも頑張っていただきたいと思います。

宮崎大会代表　宮崎第一高等学校　2年

岩﨑 湖子

エコ甲を振り返った一番の感想は、めっちゃ楽しかったということです。大会前から金融･経済について学び、身近な社会の仕組みの一片を知り、相方と共に楽しく勉強する事ができました。しかし、学校の勉強と並行するのは厳しいところもあり、納得のいく状態で大会に臨んだとは言えませんでした。1日目はエコノミカとレクリエーションが行われ、これから協力、または対戦する相手とコミュニケーションをとりました。ここで初対面の人達の中でリーダーシップを発揮してチームをまとめる人を見て、尊敬すると共に自分に足りない能力だなと思いました。2日目のビジネスケースは、今大会で1番苦戦するものとなりました。まず、アジェンダが保険に関するものということで、勉強内容を相方と分担していた私は保険についての予備知識が少なく、その応用の仕方もわからなかったので、あまりグループに貢献できませんでした。しかし、お互いに協力しあい、最終的には良いプレゼンができたのではないかと思います。大会本番とも言える3日目は、今までとは違う雰囲気の中、緊張と不安を抱きながら臨みました。第一ラウンドでは運が味方せず、他チームが高得点を取っていく中、まさかの0点を取ってしまい、お通夜モードで自分の席に戻りました。気持ちを切り替えて挑んだ第二ラウンドでは相方と立てた作戦がうまくいき、今まで勉強してきたことを活かして勝ち進むことができました。自分の努力が報われた気がしてとても嬉しかったです。第三ラウンドではクイズに正解しても欲しい企業が被り最後まで一つもゲットでき

ず、悔しくも敗退してしまいました。敗者復活ラウンドではエコ甲初の試みとして銀行員の方と一緒に出ることができ、話し合いながら２択クイズに答えていきました。作戦を立てて最後まで残ることはできたものの、近似値クイズで負けてしまいました。
私がエコ甲で得られたものは経済知識はもちろんのこと、宮崎では得られない多くの経験、そして人との出会いです。特にエコ甲にはいい意味で変だけどすごい人がたくさんいたように思います。この大会は本当に多くの刺激をもらう三日間となりました。
私はこれが最初で最後のエコ甲出場となりましたが、無事に大学生になることができたらスタッフとして運営に携わりたいと思います。
そして最後に、、、相方のあげはちゃん、お疲れ！本当にありがとう！

宮崎大会代表　宮崎第一高等学校　２年

脇屋敷 あげは

私達は今回が初めての参加でした。最初は右も左もわからない状態で、前回大会で全国に出場した先輩方の後を追おうと決心したものの、終わりの見えない勉強に心が折れそうでした。地方予選を突破できた時の驚きは今でも覚えています。正直東京へ無料で行けることへの喜びが全くなかったと言えば嘘になりますが、今までの勉強が報われたことが本当に嬉しかったです。そこからは学校生活の方でもやることが満載だったこともあり、本番まであっという間でした。早朝に東京入りし、観光で疲れ果てたままエコノミカ大会に参加しました。エコノミカは順位には関係しないため全くと言っていいほど手をつけていませんでしたが、隣に座った人達の雰囲気がガチ勢で恐縮してしまいました。しかし蓋を開けてみると意外と初心者が多くて、和気あいあいと試合が出来ました。２日目のビジネスケースは、とにかく難しくて大変だったというのが第一の印象です。初対面の人達との話し合いなうえ、アジェンダも保険商品についてだったため、すごく苦戦しました。時間がタイトだったことも大変さに拍車をかけていたように思います。ですが、大変だったと同時にすごく意義のある時間を過ごせました。いよいよ本番の３日目。第１ラウンドで無得点の大失態を犯しました。運が味方せず、今までやってきたことを上手く発揮できず絶望感に苛まれました。ですが、第２ラウンドでは勉強した知識、戦略が活き、見事第３ラウンドまで出場することができました。ことのときの安堵感はこの上ないものでした。第３ラウンドでは残念なことに敗退してしまいました。さらに敗者復活戦でも最初から出場して最後の最後まで残っていたのですが、負けてしまいました。私たちは総出場時間で言ったらかなり長い方だったと思うので、かねてからの目標だった「爪痕をのこす」という点ではよくやれたのではないでしょうか。こんな大変で楽しくて学びの多い体験は今までも、そしてこれからもきっと無いでしょう。本当に素敵な体験をさせていただきました。大会関係者の皆様、支えてくれた親、先生方、戦ってくれたライバルたち、そして共に頂点を目指した相方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました！

沖縄大会

12月9日(土)開催

沖縄銀行

優勝チーム　昭和薬科大学附属高等学校
(3年ぶり12回目)
「墾田永年私財法」
宮里 舞・赤嶺 遥都

主催　沖縄銀行

参加校一覧
昭和薬科大学附属高等学校、沖縄カトリック高等学校、沖縄県立名護商工高等学校、沖縄県立向陽高等学校、沖縄県立知念高等学校、沖縄県立豊見城高等学校、沖縄県立那覇商業高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校、沖縄県立那覇西高等学校、沖縄県立開邦高等学校、興南高等学校

申込みチーム数　37チーム(11校)

運営スタッフ感想
沖縄大会は4年ぶりの集合大会となり、オンライン大会では味わえない高校生たちの熱い生の意気込みを肌で感じることができました。チームメイトと協力して問題に取り組む様子や、得点に一喜一憂する様子、また、他のチームのことも一生懸命応援する姿が印象的でした。
大会実施に当たっては、準備や当日の運営など大変なことも少なくありませんでしたが、参加してくれた学生たちにとって、この経験が彼らの未来の豊かな宝物になることを願って、これからもより良い地方大会となるよう取り組んでいきたいと思いました。

沖縄大会代表　昭和薬科大学附属高等学校　1年

宮里 舞

2023年12月9日に行われた地方大会が始まった時のことを、私は今でも鮮明に覚えています。直前には、学校行事で行う出し物の練習や、前日の世界遺産検定などもあり、満足に勉強できていませんでした。そのため、その時はまさか優勝して全国大会へ出場できるとは夢にも思っていませんでした。相方のお陰もあり無事優勝できた後もあまり実感は無く、こんな私でいいのだろうかと何度も思いました。正直東京など強豪校の多い激戦区だったら絶対に優勝はできなかったと思います。
そうして不安を抱えたまま迎えた全国大会では、やはり自分の圧倒的な知識量、勉強量の不足を痛感しました。運良くペーパーは12位で通過することができ、準決勝にも出場できましたがそこで敗退となってしまい

ました。最初は悔しい気持ちもありましたが、ホールの席から見た決勝は問題もルールも難しく、自分では太刀打ちできなかったことは明白でした。
しかし決勝のワクワクする展開に始まってすぐ夢中になり、応援したり、各チームの知識量に圧倒されたりしているうちに、あっという間に結果は決まり、長くて短かった３日間にわたる大会は終わってしまいました。
私がこの大会に参加して良かったことは、自分からは遠いものだと思っていた経済や金融に興味を持つきっかけになったことはもちろんですが、なによりも「全国には同年代でこんなにすごい方々がいるんだ」ということを、肌で感じることができたことです。私はクイズ研究会に所属していますが、沖縄に住んでいることもあり、これまで他の都道府県の方々と交流する機会はありませんでした。今回この大会で初めて、同じ空間で顔を合わせて交流することができ、とても楽しく、刺激になりました。
最後になりますが、このエコノミクス甲子園を開催してくださった金融知力普及協会をはじめとした関係者の方々、たくさんのボランティアの方々、そして私たちのチームをサポートしてくださった沖縄銀行の方々、本当にありがとうございました。また来年、この全国の舞台に立てるよう精進していきます。

沖縄大会代表　昭和薬科大学附属高等学校　１年

赤嶺 遥都

クイズ研究会の用具箱に広告とともに「高校生全員参加」の張り紙があって参加したこの大会でしたが、自分の金融知識を試し、また新たに学ぶ機会としていい経験になりました。準決勝敗退は悔やまれましたが、この大会を機にもっと経済や金融や保険について学び、投資などに手を出してみるのもいいと思いました。県外の同年代の人とローカルな話題をしたりビジネスケースで話し合ったりするうちに友達もできました。来年もまた参加してみようと思います。

ネット大会 12月16日(土)開催

NEOBANK
住信SBIネット銀行

優勝チーム　ラ・サール高等学校
(7年連続13回目)
「ドイモイ」
大門 颯・清見 聡一

主催　住信SBIネット銀行

参加校一覧
セントヨゼフ女子学園高等学校、
ノートルダム清心高等学校、ラ・サール高等学校、
上智福岡高等学校、中央大学附属高等学校、
京都府立洛北高等学校、兵庫県立北摂三田高等学校、
千葉県立船橋高等学校、埼玉県立浦和商業高等学校、
大分県立豊府高等学校、大阪女学院高等学校、
大阪星光学院高等学校、奈良県立青翔高等学校、
山口県立防府商工高等学校、山形県立山形東高等学校、
山形県立東桜学館高等学校、岩手県立大東高等学校、
市原中央高等学校、帝京大学可児高等学校、
帯広大谷高等学校、広島商船高等専門学校、
広島市立基町高等学校、広島市立広島商業高等学校、
広島文教大学附属高等学校、
広島県立広島叡智学園高等学校、広島翔洋高等学校、
愛媛大学附属高等学校、早稲田大学本庄高等学院、
昭和薬科大学附属高等学校、
東京農業大学第一高等学校、東京都立戸山高等学校、
東邦大学付属東邦高等学校、桜蔭高等学校、
沖縄県立浦添高等学校、沖縄県立那覇商業高等学校、
沖縄県立那覇国際高等学校、沖縄県立開邦高等学校、
浅野高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、
滝高等学校、甲斐清和高等学校、石川県立鹿西高等学校、
福井県立勝山高等学校、福井県立若狭高等学校、
福岡県立小倉南高等学校、福岡県立戸畑高等学校、
福島県立会津高等学校、群馬県立高崎女子高等学校、
開成高等学校、静岡県立浜松北高等学校、
静岡県立浜松湖南高等学校、N高等学校

申込みチーム数　77チーム(52校)

運営スタッフ感想
参加者の高校生は高いレベルの経済知識を持っており、様々な経済問題に対して的確な分析や解答を行っており、レベルの高さに圧倒されました。

インターネット大会代表　ラ・サール高等学校　1年

大門 颯

僕がエコノミクス甲子園に出た理由は自分が科目としての社会がとても好きで、エコノミクス甲子園が自分の実力を確かめるとともに、知識を深める良い機会になると思ったからです。地方大会までに配られた教材、自分たちで用意した教材を相方と手分けして勉強したので、インターネット大会ではほとんどが相方の学習範囲から出る、という珍事もありました。そのときは相方に対する申し訳無さと自分が全国に出てもいいのだろうかという罪悪感に近いものを抱いてしまいましたが、今となってはいい思い出です。
僕はエコノミクス甲子園に出たことで今まで全く関わりのなかった他地域の同年代の人と交流を持てたことが何より一番良かったと思います。特に個人的に楽しかったのは2日目に行われたグループでのプレゼンテーションでした。そこでは全く見ず知らずの5人で共同で作業をするという人生初の経験をすることができました。そこでは機材関係のトラブルなどもありましたが、仲間と協力して乗り越えたことで達成感はひとしおでした。僕はもともと人と関わるのが好きで、将来的にはそういう職に就きたいとも考えているので、今回経験したことを将来にも活かしていきたいと思います。当日はそんなに意識していませんでしたが、そういう意味では、クイズ大会に向けた金融知識はもちろん、すべてが将来的に役に立つ、必要になる要素だったのだなぁと思います。
クイズ本戦は予選で負けてしまい、悔しい思いはしたけれど、返って絆は深まったように感じます。相方と

は「また来年もリベンジしよう」と話しています。もし来年リベンジしてまた全国まで行けたら、そのときは今年感じたことを活かして、また今年うまくいかなかったところを直して望みたいと思います。

インターネット大会代表　ラ・サール高等学校　１年

清見 聡一

大会後に感想として最初に浮かんできた言葉は"悔しい"でした。
僕達は今年度から鹿児島大会がなくなったのを受けてインターネット大会代表として全国大会に出場させていただきました。
同地方大会ではしっかりした早押しや他チームとの駆け引きといったものが全くなかったこともあって非クイズ研究会の私たちも優勝し、全国大会に行くことができました。
しかし、全国大会と地方大会の求められるレベルの圧倒的な違い、他チームとの駆け引きやボタンを押す技術、何より僕の積極性の圧倒的な欠如により、事前順位１位のアドバンテージもまともに活かせず、２ラウンド目で敗北してしまったことは、なによりボタンを任してくれたチームメイトに申し訳なく、やりきれない気持ちで溢れていたのですが、第３ラウンド、決勝ラウンドを見ているとわかるものが半分くらいしかなく、やはり僕達の不足している知識が多すぎ、この程度の自分では負けるのも仕方のないことだと改めて痛感しました。
ですが同時に著作権のような誰もわからなかった問題や、英語で出題された問題がわかったこと、そして何よりクイズよりも深い金融知力を求めるプレゼンテーションと筆記テストのチーム合計１位、といったことが決して自分たちの今までやってきた努力は無駄ではないのだと思わせてくれました。
特にプレゼンでほぼ僕の案がチームの皆に全面採用されたことは、採点者の方々に納得してもらえるかとても緊張しましたが同時にとても嬉しかったです。
また、オリエンテーションの交渉ゲーム、エコノミカ大会、２日目のプレゼン、そして他校の人と同じ部屋で過ごすという貴重な諸々の経験によって、いつもあまり関わりのない同世代のトップを走るような優秀な人たちと話し合え、友達になり、自分を成長させるきっかけをくれたことも本当に有り難かったです。
私達に成長の機会と新しい交友関係をくれたエコノミクス甲子園と、開催してくれた金融知力普及協会とボランティアのスタッフの皆様、そして何より協賛した銀行の皆様には感謝しかありません。
冗長な駄文となってしまいましたが、つまり言いたいことは"来年も絶対全国大会に出て、優勝したい"です。
なので他の高校生にはエコノミクス甲子園は来年からおすすめすることにします。
願わくはエコノミクス甲子園がずっと続きますように、そして鹿児島大会が復活しますように。

1日目

エコノミカ大会

大会初日の夕食後には、「三井住友 DS アセットマネジメント杯エコノミカ大会」が開催されました。今年はエコノミクス甲子園の大会成績とは関係しない独立企画として行われました。エコノミカ大会は個人戦で、高校生は他チームの相手と対戦します。各所で白熱した対戦が見られていました。また対戦の合間では、お互いの地元の話題などで盛り上がる様子も見られました。大会が始まるまでは、集合したばかりでよそよそしい雰囲気だった高校生たちも、大会が終わる頃にはチームの垣根を越えた交流が生まれたようでした。表彰式では、上位入賞者および抽選で選ばれた参加者に対して、エコノミカブースターパックやエコノミカのキャラクターである預金ちゃんの QUO カードが贈呈されました。三井住友 DS アセットマネジメント株式会社サステナビリティ推進室長の丸山勝己様には、ご挨拶と高校生へのエールをいただきました。また、対戦にも参加していただくなど、大会進行に関わっても多大なるご支援をいただきました。末筆にはなりますが、ここに感謝の意を表します。

2日目

筆記クイズ

大会 2 日目の朝 8 時半からは、筆記クイズが行われました。高校生はペアのそれぞれで日本語版と英語版の 2 つから選択し、制限時間 30 分間という厳しい条件の中、一人で問題に取り組みました。ただ知っているというだけでは解けないような、マクロ・ミクロ経済学の深い理解を問う問題も多く、高校生にとっては難しい内容となっていましたが、その中でも、100 点満点中 80 点近くを叩き出す高校生もいました。

ビジネスケース

2 日目のメインイベントは、「ビジネスケース」でした。このラウンドは、IEO(国際経済オリンピック) の「Business Case Task」を模したラウンドであり、高校生は提示されたテーマに対して 5 人程度のグループに分かれてリサーチやディスカッションを行い、夕方の発表会でプレゼンテーションを行いました。
プレゼンテーションのテーマは、「保険会社のマーケティング戦略」であり、高校生はコンサルティングファームになりきり、架空の保険会社のマーケティング戦略を立てました。与えられた情報から、どの商品を中心的にどのようなマーケティングを展開することが良いのかを考え、グループごとに発表を行いました。
難しいテーマでしたが、発表会では与えられた情報を引用するだけでなく、独自に分析を行うグループもあり、高校生離れしたハイレベルなプレゼンテーションが繰り広げられました。

前夜祭

ビジネスケースが終わると、前夜祭として立食パーティーが行われました。前夜祭には高校生に加え、地方大会主催金融機関の方々やご来賓の方々も参加され、年齢の垣根を越えた交流が会場内のあちこちで行われました。また、地方大会主催金融機関の方々やご来賓の方々には全国の物産を持ち寄っていただき、前夜祭ではその物産の抽選会も行われました。会場は豪華な品々を前に大いに盛り上がり、高校生は束の間の休息を楽しみました。

3日目

第 1 ラウンド 「QUIZ PRICE MAKER」

このラウンドでは、全 44 チームが 11 チームずつの 4 セットに分かれて早押しクイズに参加しました。しかしこのラウンド、早押しとは言っても、単に早く押せばよいというわけではありません。というのは、問題の出題から時間が経てば経つほど、ボタンを押して正解したときの得点が大きくなるからです。出題終了後、10、20 と数え上げられて、最大で 100 に達するカウントの数字が、正解時の加点幅及び不正解時の減点幅にそのまま対応します。すなわち、カウントが 10 のときに押して正解した場合と 100 のときに押して正解した場合とでは、得点に 90 ポイントもの差があるのです。ただしその一方で、それぞれの問題の解答権を得られるのは、最も早くボタンを押した 1 チームだけ。さらに各チームはこのラウンドで一度しか解答できません。ですので、限られたチャンスの中でできるだけ大きい得点を獲得するべく、お互いのボタンを押すタイミングを読み合うことが求められます。このチキンレースこそがこのラウンドの醍醐味といえるでしょう。難易度の高い出題も多い中、高得点を掴み取るチームが数多く見られ、出場者のレベルの高さが垣間見えました。
このラウンドの得点と前日に行われたラウンドの得点とを合計し、その上位 12 チームが、一足先に準決勝ラウンドへの進出を決めました。

準決勝ラウンド進出チーム
筑波大駒場、横浜 SF、富山中部、洛南、札幌南、暁、大手前、岡崎、岐阜、岡山白陵、昭和薬科、並木中等

第 2 ラウンド 「QUIZ THREE HINTS」

このラウンドでは、準決勝ラウンド進出を賭け、まだ勝ち上がれていない全 32 チームが 8 チームずつの 4 セットに分かれて 5 択クイズに挑戦しました。このクイズの特殊な点は、一般的な「問題文」が存在しないこと。その代わりにまず解答のジャンルが、続いて正解を絞り込むための手がかりが 3 段階に分けて順に発表されます。少しずつ明かされていく情報を基に、参加者は 5 つの候補の中から正しいものを選び出します。手がかりが発表されていく間、好きなタイミングで解答をロックすることはできますが、解答した時点での情報が少なければ少ないほど、すなわち、解答のタイミングが早ければ早いほど得点は大き

くなります。ですので、確実に正解できるようになるまでヒントを待つか、それとも高得点を狙って攻めたタイミングで解答をするか、参加者は選択しなければなりません。一瞬の判断が運命を分ける、緊張感に満ちたラウンドとなりました。
熱い勝負の結果、それぞれのセットの得点上位 2 チーム、計 8 チームが準決勝ラウンドに滑り込みました。

準決勝ラウンド進出チーム
県立千葉、佐世保北、慶進、灘、県立福島、富岡東、宮崎第一、高崎

準決勝ラウンド 「QUIZ DRAFT PICK」

準決勝にあたるこのラウンドでは、第 1 ラウンドと第 2 ラウンドからそれぞれ勝ち上がってきた計 20 チームが、10 チームずつの 2 セットに分かれてボードクイズに参加しました。まず問題に正解したチームは、1 セット目では国の、2 セット目では企業の選択肢それぞれ 30 個の中から 1 つを指定して獲得できます。そして全問終了後、各チームはランキングを選ぶ投票に参加します。ここではそれぞれのセットの初めに示される、国や企業にまつわる 3 つのランキングに 1 チームにつき 1 票を投じ、多数決で 1 つのランキングを選びます。そしてそのランキングにおいて、各問題で手に入れた国や企業がそれぞれ何位に入っているかに応じて得点が加算されます。上位に入っているものほど加算される得点は大きいのですが、どのランキングが選ばれるか、それぞれの国が何ポイントになるかは最後まで分かりませんので、参加者は周囲の動向を見つつ最善の行動を模索する必要があります。さらに、他の正解チームと希望が被れば正解しても獲得は無しになるというルールも相まって、参加者は頭をフル回転させて勝負に臨むことになりました。
1 セット目からは佐世保北高校と慶進高校が、2 セット目からは岡崎高校と富山中部高校がそれぞれ勝ち抜け、見事に決勝進出を決めました。

決勝ラウンド進出チーム
佐世保北、慶進、県立千葉、岡崎

敗者復活ラウンド 「QUIZ SURVIVAL」

このラウンドは敗者復活をかけたラウンドでした。ここまでのラウンドで敗退した 40 チームが一斉に参加し、勝ち抜けたわずか 1 チームのみが決勝ラウンドへの切符をつかむことになります。このクイズは舞台を丸ごと使った 2 択クイズ。選択肢 A と選択肢 B に二分された舞台で、正解だと思う方に移動することで解答します。高校生 2 人、地方大会主催金融機関担当者様 1 人の 1 チーム計 3 人構成で、途中高校生の 2 人については二手に分かれて解答することもできます。事前順位が下位のチームから入場し、不正解の選択肢の側にいる人は即退場、正解すれば次の問題へと進めます。問題は全 10 問。最後まで勝ち残ったチームの勝ち抜けとなります。チームが複数残った場合は、残っているメンバーの人数が最も多いチームの中で近似値クイズを行います。下位チームでも 2 択クイズに正解し続ければ決勝へと進出できる、逆転性も大きいルールでした。

2 択という特性上、1 つの問題で多くのチームが脱落する場面も見られました。7 問目で、これまで勝ち残ってきた 8 チームが不正解となり、サドンデスの近似値クイズに挑みました。最も近い値を解答した富山中部高校が、狭き門を突破して決勝進出を果たしました。

敗者復活チーム
富山中部

決勝ラウンド　「QUIZ DISCLOSURE」

第 18 回大会のラストを飾ったこのラウンドでは、激戦を勝ち抜いてきた 5 チームがボードクイズで競いました。ラウンド開始前に、参加チームはそれぞれ 3 桁の数を自由に設定します。これは当てられてはいけない秘密の数字であり、クイズを介してお互いの数字を探り合うというのがこの決勝戦の概要です。それぞれの問題に正解したチームは、不正解であったチームの中から 1 チームを指名し、その設定した数字を予想して、予想に対するフィードバックを求めることができます。指名を受けた側のチームは、その予想について、数も位も一致している「ジャスト」の個数と、数が一致していて位のみ誤っている「シフト」の個数とを開示しなければいけません。このプロセスを繰り返すことで得た情報を基にして、予想の精度を少しずつ上げていくのです。そして 3 桁の数を完全に言い当てられたチームは、なんとその時点で失格になってしまいます。この極限の緊張感の中、知識と論理的思考力とを結集した、非常にハイレベルな頭脳戦が繰り広げられました。

目が離せないスリルたっぷりの勝負の結果、富山中部高校と岡崎高校は惜しくも途中で脱落し、全問終了まで残った 3 チームについては、設定した数の大小による判定が行われました。言い当てられるリスクを考えつつも最も攻めた数を設定した佐世保北高校が見事に優勝を決め、2 位には県立千葉高校、3 位には慶進高校がそれぞれ続きました。

最終成績

優勝　長崎代表　佐世保北

準優勝　千葉代表　県立千葉

3 位　山口代表　慶進

4 位　愛知代表　岡崎

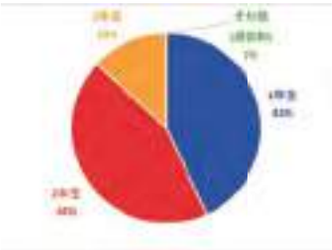
5 位　富山大会　富山中部

筆記クイズ 1 位　鳥取代表　鳥取西　吉田泰希

参加者アンケート

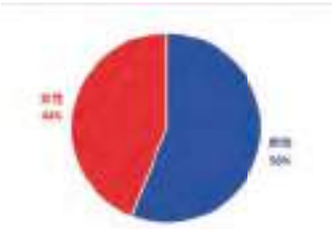
各地方大会に参加した高校生に大会参加後アンケートに回答してもらいました

Q1 学年を教えてください



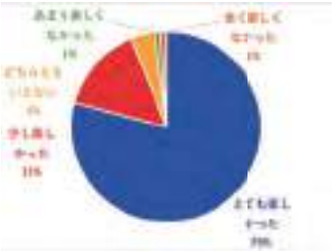
１年生・２年生が大半を占めました。

Q2 性別を教えて下さい



地方大会には、男性でなく女性の高校生も同程度参加してくれました。

Q3 大会に参加して楽しかったですか？

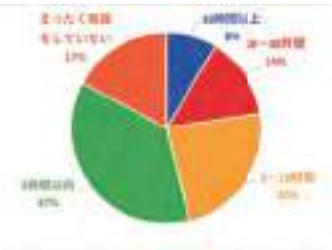


９割以上の参加者が「とても楽しかった」「楽しかった」と回答してくれました。

Q4 問題のレベルはどう感じましたか？

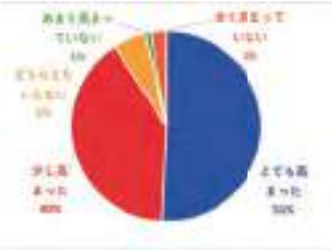
多くの学生が難しいと感じたようです。参加者のほとんどは事前学習教材で学習してから大会に挑んでくれていました。

Q5 大会に備えてどれぐらい勉強、対策しましたか？



約半数の人が５時間以上勉強したようです。中には３０時間以上勉強した人もいました。

Q6 エコ甲に参加して「投資」への理解は高まりましたか？

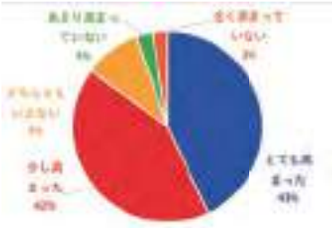


９割以上の人が理解が高まったと感じたようです。

Q7 エコ甲に参加して「保険」への理解は高まりましたか？

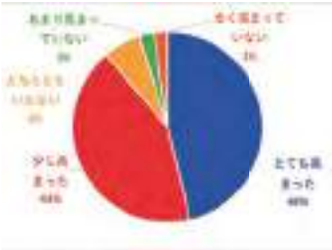
約９割の人が高まったと感じているようです。

Q8 エコ甲に参加して「年金」への理解は高まりましたか？



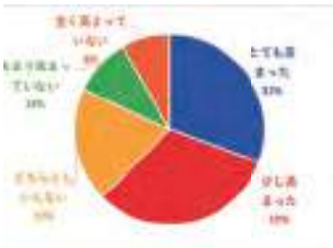
８割以上の人が高まったと感じているようです。

Q9 エコ甲に参加して「税金」への理解は高まりましたか？



約９割の人が高まったと感じているようです。

Q10 エコ甲に参加して「iDeCo」への理解は高まりましたか？



約３分の２の人が高まったと感じているようです。

Q11 エコ甲に参加して「NISA」への理解は高まりましたか？

約４分の３の人が高まったと感じているようです。

Q12 自分の 10 年後は経済的に明るいと思いますか？

明るいと考えている人が多いようです。

メディア掲載実績 Media

■地方大会

大会名	新聞	TV	その他メディア
北海道	日本金融通信社	札幌テレビ、北海道文化放送	
青森	東奥日報		
秋田	秋田魁新報		
山形	山形新聞 日本金融通信社	山形テレビ YBC 山形放送	YBC ラジオ
福島	福島民友新聞 福島民報	福島テレビ	
茨城	茨城新聞		
栃木	下野新聞 読売新聞	とちぎテレビ	
埼玉	埼玉新聞 読売新聞		
千葉	千葉日報		
新潟		UX 新潟テレビ 21	FM-NIIGATA ラジオ
富山	北日本新聞 富山新聞 富山経済新聞		
石川	北國新聞 日本金融通信社	テレビ金沢	北日本新聞 webun プラス
福井	福井新聞 中日新聞		編集工房
岐阜	岐阜新聞	東海テレビ 岐阜放送 テレビ愛知	
静岡	静岡新聞 中日新聞		
三重	伊勢新聞 読売新聞	三重テレビ放送 中京テレビ放送 津ケーブルテレビ	
滋賀	中日新聞 読売新聞		
京都	京都新聞		ICT 教育ニュース
大阪	日経新聞 産経新聞		
和歌山	朝日新聞 わかやま新報 毎日新聞 紀伊民放		
島根	日本海新聞 島根日日新聞		

大会名	新聞	TV	その他メディア
広島	Yahoo! ニュース	中国放送 TBS NEWS	経済レポート 月刊春秋
山口	山口新聞		日刊新周南
徳島	徳島新聞		
香川	朝日新聞	西日本放送、瀬戸内海放送	
愛媛	愛媛新聞	愛媛 CATV	
福岡	毎日新聞		
長崎	日本経済新聞		
大分	Yahoo! ニュース TBS ニュース	大分放送	
宮崎	宮崎日日新聞		
沖縄		沖縄テレビ 琉球朝日放送	

■全国大会

新聞	日本金融通信社 (ニッキン)
新聞	北日本新聞
新聞	徳島新聞
新聞	新日本保険新聞
新聞	福井新聞
Web	東奥日報
Web	高校生新聞オンライン
Web	テレビ東京「テレ東ＢＩＺ」
TV	テレビ朝日「ナニコレ珍百景」

事前学習教材 Textbook

エコノミクス甲子園では協会で作成したテキストに加えて、各企業・団体様から寄贈していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。
事前学習教材の内容からクイズが多数出題されるので、生徒達も大会前にしっかりと勉強してくれており、単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。（順不同）

■ 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 （作成：金融知力普及協会）	■ もっと知りたい税のこと（令和５年７月） （作成・寄贈：財務省） 財務省 Web サイト https://www.mof.go.jp/
■ 今日から始められるかんたん不動産投資 初めてのＪリート （作成・寄贈：不動産証券化協会） 不動産証券化協会 Web サイト https://www.ares.or.jp/	■ 基礎から学べる金融ガイド （作成・寄贈：金融庁） 金融庁 Web サイト https://www.fsa.go.jp/
■ マナブとメグミのお金のキホン BOOK （作成・寄贈：全国銀行協会） 全国銀行協会 Web サイト https://www.zenginkyo.or.jp/	■ 10 代から学ぶパーソナルファイナンス （作成・寄贈：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会） 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/
■ 明るい未来へ TRY ！ ～ リスクと備え ～ （作成・寄贈：日本損害保険協会） 日本損害保険協会 Web サイト http://www.sonpo.or.jp/	■ 進学にかかるお金と奨学金の話 （作成・寄贈：日本ファイナンシャル・プランナーズ協会） 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 Web サイト https://www.jafp.or.jp/
■ これであなたもひとり立ち （作成・寄贈：金融広報中央委員会） 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/	■ わかりやすい投資信託ガイド　2023 年版 （作成・寄贈：投資信託協会） 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/
■ 大学生のための人生とお金の知恵 （作成・寄贈：金融広報中央委員会） 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/	■ わかりやすいリートガイド　2023 年版 （作成・寄贈：投資信託協会） 投資信託協会 Web サイト https://www.toushin.or.jp/
■ 18 歳までに学ぶ　契約の知恵 （作成・寄贈：金融広報中央委員会） 金融広報中央委員会 Web サイト https://www.shiruporuto.jp/public/	■ 前払式支払手段　知っておきたい法律のはなし （作成・寄贈：日本資金決済業協会） 日本資金決済業協会 Web サイト https://www.s-kessai.jp/
■ 株式会社制度と証券市場のしくみ （作成・寄贈：日本証券業協会） 日本証券業協会 Web サイト http://www.jsda.or.jp/	■ ほけんのキホン （作成・寄贈：生命保険文化センター） 生命保険文化センター Web サイト https://www.jili.or.jp/
■ 持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 （作成・寄贈：環境省） 環境省 Web サイト https://www.env.go.jp/	■ 少額短期保険ガイドブック 2023 （作成・寄贈：日本少額短期保険協会） 日本少額短期保険協会 Web サイト https://www.shougakutanki.jp
■ 社会への扉 （作成・寄贈：消費者庁） 消費者庁 Web サイト https://www.caa.go.jp	■ 飛び立て！未来 FP 技能士 （作成・寄贈：金融財政事情研究会） 金融財政事情研究会 Web サイト https://www.kinzai.or.jp/
■ 暗号通貨やブロックチェーンの基礎を学べる漫画 （作成・寄贈：日本クリプトコイン協会） 日本クリプトコイン協会 Web サイト https://japancryptocoin.org/	■ これからの日本のために財政を考える （作成・寄贈：財務省） 財務省 Web サイト https://www.mof.go.jp/
■ はじめの一歩 テクニカル分析ハンドブック （作成・寄贈：日本テクニカルアナリスト協会） 日本テクニカルアナリスト協会 Web サイト https://www.ntaa.or.jp/	

協賛社紹介 Sponsors

エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、
各社様のご支援により成り立っています。
感謝の思いを込め、ここにご協賛をいただいた企業をご紹介いたします。

プラチナスポンサー

Manulife
マニュライフ生命

ゴールドスポンサー

Wiennomori Corporation

ブロンズスポンサー

東京短資株式会社

Russell Investments
ラッセル・インベストメント株式会社

TAC

FIVESTAR
ファイブスター投信投資顧問

GB

一休.com

EQOBOG
エコ甲学生ボランティア OBOG 会

Special Thanks

後援・協賛・協力の各社様はじめ、お力をお貸しいただいた皆様（肩書は当時）

マニュライフ生命保険株式会社
取締役代表執行役社長 兼 CEO
ブノワ・メスレ 様

マニュライフ生命保険株式会社
常務執行役員 CDO
外池 宏之 様

株式会社ウィーンの森
代表取締役
金田 明 様

東京短資株式会社 取締役 兼
東短リサーチ株式会社
代表取締役社長
加藤 出 様

株式会社一休
執行役員 宿泊事業本部長
巻幡 隆之介 様

ラッセル・インベストメント株式会社
運用部ディレクター
シニア ポートフォリオマネージャー
箱崎 真紀子 様

TAC 株式会社
ファイナンス講座企画部
アナリストグループ長
孫入 潔 様

ファイブスター投信投資顧問
株式会社
取締役運用部長
大木 将充 様

株式会社グッドバンカー
代表取締役社長
筑紫 みずえ 様

元ニッキン
取締役 取材局 副局長
吉田 憲三 様

国際経済オリンピック 理事会
事務局長
Alexandr Zhitkovskiy 様

マニュライフ生命保険株式会社
常務執行役員 CPO
Kurt Zhang 様

株式会社 URPLAN
代表取締役
辻 隆征 様

三井住友 DS アセットマネジメント
株式会社
サスティナビリティ推進室長
丸山 勝己 様

認定 NPO 法人
金融知力普及協会 理事
今井 澂

認定 NPO 法人
金融知力普及協会 理事長
金子 昌資

認定 NPO 法人
金融知力普及協会 副理事長
野中 ともよ

Special Thanks

金融知力普及協会をお支えいただいている各社

SMBC 日興証券株式会社　サンメッセ株式会社
公益社団法人日本証券アナリスト協会
特定非営利活動法人日本テクニカルアナリスト協会
日本証券業協会　マニュライフ生命保険株式会社
三井住友 DS アセットマネジメント株式会社　三井不動産株式会社

問題監修

荻野 昭一 先生（北海道大学 名誉教授）

金融知力普及協会 ボランティアスタッフ

宮崎飛羽	中西康太郎	中村胡々乃	安陪玲音	尾﨑巧基	山田怜旺
栗栖知史	柏谷脩太	横田茉穂	濱田美和	蟻川大智	山田奈々
小谷祐太	山本丈太朗	中村悠実	岡しづか	赤井遥	横山智紀
大熊琉介	今泉開	大久保杏咲	川本青汰	坪田実那美	下條航大
山根大空	太尾田誠人	下窪元貴	嶋村悠	小嶋美早紀	森愛美
鈴木望	新里いろは	花岡愛梨	後藤篤了	松岡知優	中村徹舟
兼武航太郎	下久晃	吉馴京太朗	関優介	磯部元政	杉原諒
市川未来	香椎朝日	伊佐知駿	菅原充希	白戸玲寿	橋本信朗
腰塚茉莉子	堀内智尋	森田昌未	臼井大貴	梅木康多	村上将紀
向阪茅優	日置健斗	大澤志織	城正人	谷尚俊	井関友洋
矢持李璃花	小暮龍樹	齊藤彩波	入山七海	田島祐也	鈴木悠希
田代雅	舟山祥太	原崇史	國﨑優佑	濱元貴大	山本桐也
大房慧士	安居憲次郎	井上博裕	山口朔矢	脇田直樹	
安里晃生	矢追悠良	後藤一矢	奥田剛崇	西川陽之	
岡本孟士	大久保響	佐藤俊亮	田村元希	松田直晃	

アドバイザー

ユークレイル・エイト　藤田 雄亮 様

司会

京極 雅美 様

スタッフ挨拶 Staff Salutation

第 18 回大会
スタッフリーダー
安居 憲次郎

第 18 回エコノミクス甲子園の学生スタッフリーダーを務めました安居憲次郎と申します。
この度、大会の成功に向けて尽力してくださったすべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。
今年度、エコノミクス甲子園は大きな転換期を迎えました。今年度より、国際経済オリンピック（IEO）の日本代表選考機関となり、7 月にはギリシャへ 5 名の代表を派遣しました。高校生に金融知力を広める使命に加え、日本の代表を選抜し、世界の舞台に送り出す重大な責任を担うこととなり、2 日目の大会プログラムには大幅な変更を加えることとなりました。この改革は進行中であり、継続的な改善が求められますが、エコノミクス甲子園のさらなる発展への基盤は固まりつつあると確信しています。
3 日目のクイズ本戦においては、高校生や観客に感動と興奮をお届けできるよう、大会内容の研鑽に務めました。エコノミクス甲子園の伝統を継いだ、エンターテイメント性の高いルールや演出と、クイズの面白さが融合した大会をお届けできたのではないでしょうか。
私は、高校生が興奮し、感動できるような良い体験を届けることが、エコノミクス甲子園の金融知力を普及する使命を果たすことに繋がるという信念を持ってリーダーを務めてきました。クイズを通して主体的に楽しく金融知力を学べる環境の醸成に、今後も尽力していきます。
第 19 回大会へ、そして、第 20 回大会へと、更なる進化を遂げるエコノミクス甲子園にご期待ください。

第 18 回大会
サブリーダー
中村 悠実

第 18 回エコノミクス甲子園でサブリーダーを務めました、中村悠実です。
まず、本大会の開催にあたりましてご協力くださいましたすべての皆様にお礼申し上げます。
さて、本大会は昨年度と同様に東京にて対面形式で行うことができただけでなく、国際経済オリンピック（IEO）の選考大会に選ばれてから、最初に行われた大会でもありました。そのような大会の運営に携わり、多くの高校生が情熱をかけて取り組み、情動が高まる瞬間に立ち会えたこと、非常に嬉しく思います。
高校生の皆さんにとって本大会はどのようなものだったでしょうか。得られたものはあったでしょうか。楽しい経験だけでなく、悔しい経験もしたでしょう。金融知力はもちろんですが、様々な経験や人との出会いが皆さんのこれからの人生の糧になってくれること、5 年後 10 年後に振り返ったときに参加してよかったと思える大会であったことを願っています。そして、大学や専門学校に進学した際に、今度はスタッフとして大会を支えていただければ嬉しいです。
これからも 19 回、20 回…と長く、さらに良い大会へと進化させていけるようにスタッフ一同、精進いたします。引き続きお力添えのほど、よろしくお願いいたします。

第 18 回大会
サブリーダー
大久保 杏咲

第 18 回エコノミクス甲子園でサブリーダーを務めさせていただきました、大久保杏咲と申します。
本大会は 4 年ぶりに前夜祭も行われ対面開催が完全復活したうえ、世界への切符、IEO の選考も兼ねるという、大きくステップアップした大会となりました。私は第 17 回大会の報告書に、本大会を参加した高校生の成長の一助となり、思い出の 1 ページを彩る大会にすると書き、そのような大会にできるよう、尽力してまいりました。スタッフとして、高校生の皆さんの、難題に協力して取り組み、1 問 1 問に真剣に向き合い、感情を揺り動かす姿を見ることができて大変感慨深くなりました。
第 19 回大会からは、ついに高校生の年齢を超えていくことになります。第 20 回大会という大きな節目も見えてまいりました。これからも、エコノミクス甲子園は高校生に「金融知力」という、人生で役立つ知識を身につけ、活用してもらうために、ステップアップを続けていきます。スタッフ一同、全力で力を注いで参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

スタッフ挨拶 Staff Salutation

第 19 回大会
スタッフリーダー
今泉 開

この度第 19 回エコノミクス甲子園の学生代表に就任いたします、今泉　開と申します。
私は第 17 回エコノミクス甲子園に神奈川代表として出場いたしました。相方であるサブリーダーの柏谷と共に長い時間をかけて研鑽を積み臨んだ全国大会。大会の臨場感や精悍な学生スタッフ方の姿に圧倒されました。当時高校 3 年生だったこともありすぐに学生スタッフとして携われることを喜んだ記憶は鮮明に残っています。
エコノミクス甲子園に参加するきっかけは人によって様々です。私は切磋琢磨できるライバルと出会うこと、専門分野である統計学との親和性が高かったことが主な理由でした。一方で、「高校の担任に勧められたから」「東京に行って他の高校生と会いたいから」等の理由で参加を決意する方もいます。
しかし、「成長したい」という自発的・能動的意欲が全参加者に通底している思いの一つであることは間違いありません。
若者の経済理解と成長・育成に貢献するというエコノミクス甲子園の理念通り、私は運営代表として高校生の可能性を最大限に引き出すための大会作りに全力を注ぎたいと考えております。
それでは高校生の皆様、第 19 回エコノミクス甲子園でお会いできるのを楽しみにしております。

第 19 回大会
サブリーダー
柏谷 脩太

第 19 回エコノミクス甲子園でサブリーダーを務めます、柏谷脩太です。
私は第 17 回大会に神奈川代表として出場しました。当時は相方に誘われて参加しただけでしたが結果としてエコノミクス甲子園、そして IEO は自分の人生に少なからず影響を与えてくれました。
「結果がすべて、勝たなきゃ意味がない」、スポーツを始め多くの勝負事で言われることですが、この大会に限っていえばこれは間違いなく嘘でしょう。エコノミクス甲子園に出て、優勝するために皆さんが勉強し、積み上げた金融知力は必ず将来役に立つでしょう。既に役立っている人も多いかもしれません。金融経済に関心を持ってもらい、その知識・見識を深めてもらうことが本大会の目的です。ニュースが前よりちょっとだけわかるようになった、株を始めるきっかけになった、形は人それぞれですがエコノミクス甲子園が皆さんにとって最高の思い出になるのはもちろん、今後の人生の支えとなるような大会になるよう、スタッフ一同尽力いたします。

第 19 回大会
サブリーダー
中西 康太郎

この度、第 19 回エコノミクス甲子園学生スタッフサブリーダーを務めさせていただくことになりました、中西康太郎と申します。
私は第 17 回エコノミクス甲子園全国大会に和歌山代表として出場しました。私がこの大会に出場したきっかけは学校に貼ってあったエコノミクス甲子園のポスターを見たことでした。政治経済に興味がありそれが進路とも重なっていた私にとって、学びたいものをより深く先に学ぶことができる絶好の機会で、またそれが将来必ず役に立つであろうと思い参加を決意しました。全国大会では全国の強豪校のチームと時には楽しく時には真剣に多種多様なタイプのクイズを通じて交流することができ、とても良い思い出となりました。
コロナ禍の対面開催で自分が得たあの経験を、これからもより多くの高校生に体験してもらいたい。また一人でも多くの高校生に金融知力を体得する機会を提供したい。このような思いから、エコノミクス甲子園の運営に携わり最高の大会を作り上げたいと思いました。
素晴らしい大会にすることをここに決意しますので、どうか皆様よろしくお願いします。

第 19 回大会
サブリーダー
小谷 祐太

この度、第 19 回エコノミクス甲子園のサブリーダーを務めます、小谷祐太と申します。
私は第 15 回埼玉代表として全国大会に出場しました。当時の私は高校 1 年生でしたが、友人とともにクイズを楽しむ中で、金融経済の世界にのめり込んでいったことを覚えています。
エコノミクス甲子園は、毎年多様なルールと問題を携えて、ド派手な演出とともに全国規模で展開される大会です。このような催しを過去に出場した先輩方が運営していることを知り、スタッフに興味が惹かれました。出場した第 15 回大会から 3 年の時を経て迎えた第 18 回大会は想像以上のもので、続く第 19 回への期待を抱きました。
19 回目を迎える大会を支えてきたのは、人同士の繋がりに他ならないと思います。出場者同士の繋がり、スタッフ同士の繋がり、出場者とスタッフの繋がり、一つ一つが大切にされてきたからこそ、今のように全国の人々が切磋琢磨しあう大会になったのだと思います。第 19 回大会では、よりいっそう豊かに交歓できるような環境を築けるよう尽力してまいります。高校生の皆さん、地方大会や全国大会でお会いできる日を楽しみにしています！

エコノミクス甲子園　過去開催実績

開催回数	地方大会開催年	全国大会開催日	参加校数	参加チーム数	優勝校
第 1 回	2006	2007 年 2 月 18 日	25	33	ラ・サール高等学校
第 2 回	2007	2008 年 1 月 13 日	90	237	開成高等学校
第 3 回	2008	2009 年 1 月 25 日	154	425	東大寺学園高等学校
第 4 回	2009	2010 年 1 月 10 日	201	535	ラ・サール高等学校
第 5 回	2010	2011 年 2 月 12 日	237	600	灘高等学校
第 6 回	2011	2012 年 1 月 22 日	244	647	東大寺学園高等学校
第 7 回	2012	2013 年 2 月 17 日	335	860	東海高等学校
第 8 回	2013	2014 年 2 月 2 日	378	1,023	千葉県立千葉高等学校
第 9 回	2014	2015 年 2 月 15 日	401	1,134	宮崎県立宮崎西高等学校
第 10 回	2015	2016 年 2 月 28 日	410	1,121	新潟県立新潟高等学校
第 11 回	2016	2017 年 2 月 5 日	448	1,171	金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校
第 12 回	2017	2018 年 2 月 18 日	517	1,297	長崎県立長崎西高等学校
第 13 回	2018	2019 年 2 月 17 日	473	1,250	福井県立藤島高等学校
第 14 回	2019	2020 年 2 月 9 日	479	1,207	大阪府立北野高等学校
第 15 回	2020	2021 年 2 月 14 日	388	880	千葉県立千葉高等学校
第 16 回	2021	2022 年 2 月 27 日	316	686	栄東高等学校
第 17 回	2022	2023 年 2 月 26 日	354	805	市立札幌開成中等教育学校
第 18 回	2023	2024 年 2 月 25 日	366	787	長崎県立佐世保北高等学校

エコノミクス甲子園全国大会　都道府県別出場校一覧（第１回～第10回）

回数	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	第９回	第10回
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
北海道			旭川東	旭川東	札幌西	旭川東	旭川東	札幌旭丘	札幌南	札幌南
青　森								青森	青森	青森
岩　手				水沢	盛岡第三					
宮　城				仙台第一	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台二華	仙台二華
秋　田			秋田商業	秋田商業	秋田中央	横手	秋田	秋田商業	秋田西	秋田
山　形							山形東	山形南	山形東	山形東
福　島		県立福島【東北】	県立福島【東京】			会津学鳳【関東】	県立福島	県立福島	福島高専	白河
茨　城							竹園	土浦第一	水戸第一	土浦第一
栃　木							宇都宮【ネット】	矢板東	宇都宮	宇都宮
群　馬							富岡	前橋	高崎女子	前橋
埼　玉			浦和	浦和	早稲田本庄	早稲田本庄	栄東	春日部	栄東	栄東
千　葉	県立船橋【東京】			渋谷幕張	渋谷幕張	市川	渋谷幕張	県立千葉	渋谷幕張	柏
東　京	開成	開成	開成	開成			立川	立川	渋谷	早稲田
神奈川			聖光学院	聖光学院	横須賀	逗子開成	聖光学院	聖光学院	横須賀	慶應義塾
新　潟								国際情報	新潟明訓	新潟
富　山			片山学園	高岡商業	片山学園	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡
石　川		金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金沢泉丘	金大附属	金大附属
福　井			高志	高志	福井高専	福井高専	藤島	藤島	藤島	高志
山　梨					甲府南【関東】	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南
長　野								長野	諏訪清陵	松本深志
岐　阜					岐阜	岐阜	岐阜	岐阜東	岐阜	岐阜
静　岡						島田商業	三島	浜松西	静岡雙葉	静岡
愛　知	南山女子【大阪】	滝	名大附属	名大附属	名大附属	旭丘	東海	東海	滝	滝
三　重						津	三重	川越	川越	宇治山田商業
滋　賀										水口東

【　　】内は所在地以外の県で実施された予選（第１回）・地方大会名。第２回のラ・サールは２チーム出場

エコノミクス甲子園全国大会　都道府県別出場校一覧（第１回～第10回）

回数	第１回	第２回	第３回	第４回	第５回	第６回	第７回	第８回	第９回	第10回
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016
京　都									洛北【ネット】	
大　阪	星光学院						清風南海	星光学院	開明	金蘭千里 星光学院 【10回記念】
兵　庫		灘【関西】		灘【関西】	灘【関西】	灘【関西】		関西学院【ネット】		灘
奈　良			東大寺【大阪】	東大寺	奈良学園	東大寺	智辯奈良Ｃ	智辯奈良Ｃ	智辯奈良Ｃ	東大寺
和歌山										
鳥　取								鳥取西	鳥取西	湯梨浜
島　根							松江北	浜田	松江商業	隠岐
岡　山		岡山白陵	岡山朝日	岡山朝日	岡山白陵		岡山城東	岡山白陵	倉敷精思	倉敷精思
広　島						広大福山【中国】	修道	広島学院	修道	広島学院 近大東広島 【ネット】
山　口							宇部	宇部	宇部	下関西
徳　島					城東	城ノ内	城ノ内	徳島市立	徳島市立	城東
香　川		観音寺第一	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	高松	高松	高松
愛　媛			愛光	愛光	松山東	松山西	松山西	松山西	松山西	愛光
高　知								高知学芸	高知小津	土佐
福　岡			西南学院				修猷館	修猷館	筑紫丘	大牟田
佐　賀				致遠館【九州】	致遠館【九州】					致遠館
長　崎					長崎北	長崎南山	長崎商業	佐世保北	精道三川台	精道三川台
熊　本						熊本【九州】				
大　分										
宮　崎							宮崎西	宮崎第一	宮崎西	宮崎第一
鹿児島	ラ・サール【福岡】	ラ・サール【九州・熊本】		ラ・サール	ラ・サール 鶴丸 【敗者復活】	ラ・サール	ラ・サール	鶴丸	鶴丸	国分中央
沖　縄		昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	那覇国際	那覇国際	昭和薬科	昭和薬科
海　外										
出場校数	5	10	16	20	24	25	34	40	40	44

【　　】内は所在地以外の県で実施された予選（第１回）・地方大会名。第２回のラ・サールは２チーム出場

エコノミクス甲子園の歩み History

エコノミクス甲子園全国大会　都道府県別出場校一覧（第11回～第18回）

回数	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	
開催年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	
北海道	札幌南	札幌南	札幌南	北見北斗	札幌南	旭川東	札幌開成	札幌南	3年ぶり7回目
青　森	弘前	青森	弘前	弘前	青森	青森	青森	青森	4年連続8回目
岩　手	盛岡中央	盛岡第三	一関第一	岩泉					
宮　城	仙台第一	古川黎明	仙台第二	聖ウルスラ		仙台二華【ネット】	仙台二華	仙台二華	3年連続5回目
秋　田	秋田	由利	秋田商業	秋田	秋田	秋田	秋田	秋田	5年連続8回目
山　形	鶴岡南	山形南	山形南	寒河江			山形東	山形東	2年連続5回目
福　島	県立福島	県立福島	県立福島	県立福島		白河	県立福島	県立福島	2年連続10回目
茨　城	並木中等	土浦第一	並木中等竹園【ネット】	江戸川取手	並木中等	並木中等	並木中等	並木中等	4年連続6回目
栃　木	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	栃木	矢板東	白鷗大足利	初出場
群　馬	ぐんま国際アカデミー	四ツ葉学園	中央中等	中央中等	中央中等	中央中等	中央中等	高崎	初出場
埼　玉	浦和	栄東	県立川越	栄東	栄東	栄東	栄東	栄東	5年連続9回目
千　葉	東葛飾	渋谷幕張	渋谷幕張	渋谷幕張	県立千葉	市川	昭和秀英	県立千葉	3年ぶり3回目
東　京	お茶の水女子大附属	早稲田	早稲田	都立武蔵	開成【ネット】		筑波大駒場	筑波大駒場	2年連続2回目
神奈川	聖光学院	栄光学園	湘南	慶應SFC	浅野	洗足	慶應義塾	横浜SF	初出場
新　潟	新潟	新潟明訓	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	6年連続8回目
富　山	富山	富山	富山中部	富山	富山	高岡	高岡	富山中部	5年ぶり2回目
石　川	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金大附属	金沢大附	金沢大附	10年連続16回目
福　井	羽水	藤島	藤島	高志	高志	藤島	藤島	藤島	3年連続8回目
山　梨	甲陵	甲府南	甲府南	甲府南	駿台甲府	駿台甲府	駿台甲府	駿台甲府	4年連続4回目
長　野	松本深志	松本深志	松本深志	上田	松本秀峰	松本深志	松本深志	松本深志	3年連続7回目
岐　阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	恵那	鶯谷	岐阜	3年ぶり11回目
静　岡	知徳＊	知徳＊	御殿場南	浜松学芸	浜松学芸	浜松学芸	沼津東	浜松学芸	2年ぶり4回目
愛　知	滝	東海	旭丘	東海	東海	名大附属	岡崎	岡崎	2年連続2回目
三　重	四日市商業	伊勢	桜丘	暁	暁	高田	高田	暁	3年ぶり3回目
滋　賀	膳所	県立守山	水口東	県立守山			県立守山	県立守山	2年連続4回目

＊静岡「知徳」は前校名「三島」

エコノミクス甲子園全国大会　都道府県別出場校一覧（第11回～第18回）

回数	第11回	第12回	第13回	第14回	第15回	第16回	第17回	第18回	
開催年	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	
京　都	洛北	洛南	洛北	洛北	洛北【ネット】	洛南	洛北	洛南	2年ぶり3回目
大　阪	星光学院	星光学院	星光学院	北野			星光学院	大手前	初出場
兵　庫	灘 甲陽学院【ネット】	神戸女学院	灘	神戸女学院		灘【ネット】	灘 北摂三田【ネット】	灘	3年連続10回目
奈　良	東大寺	東大寺	東大寺	青翔		東大寺	西大和	西大和	2年連続2回目
和歌山		智辯和歌山	智辯和歌山	近大和歌山			智辯和歌山	智辯和歌山	2年連続4回目
鳥　取	青翔開智	湯梨浜	青翔開智	鳥取西			米子東	鳥取西	4年ぶり4回目
島　根	情報科学	松江商業 横田【ネット】	松江高専	松江高専			矢上	松江北	11年ぶり2回目
岡　山	倉敷天城	倉敷精思	倉敷天城	倉敷天城	岡山白陵	岡山白陵	岡山南	岡山白陵	2年ぶり6回目
広　島	広大福山	安田女子	広島学院	広島学院	広島	広島	広島	修道	9年ぶり3回目
山　口	下関西	大島商船	山口	宇部高専	山口	慶進	岩国	慶進	2年ぶり2回目
徳　島	徳島市立	徳島市立	城東	城東	城東	城東	徳島中央	富岡東	初出場
香　川	観音寺第一	高松	高松	高松	丸亀	高松西	高松西	高松	4年ぶり11回目
愛　媛	愛光	今治西	松山東雲	今治西	松山東	松山西	新居浜高専	愛媛大附	初出場
高　知	高知学芸	高知学芸	土佐塾	土佐					
福　岡	修猷館	福工大城東	福岡	久留米大附	宗像	小倉商業	東筑	東筑	2年連続2回目
佐　賀	致遠館	弘学館	弘学館	早稲田佐賀	佐賀西	弘学館	鳥栖	弘学館	2年ぶり4回目
長　崎	長崎西	長崎西	精道三川台	青雲			対馬	佐世保北	10年ぶり2回目
熊　本	八代								
大　分	安心院					大分東明【ネット】	上野丘	中津南	初出場
宮　崎	宮崎第一	宮崎大宮	宮崎第一	日向学院	宮崎西	宮崎西	宮崎第一	宮崎第一	2年連続6回目
鹿児島	鶴丸	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール	ラ・サール【ネット】	7年連続13回目
沖　縄	昭和薬科	球陽	昭和薬科	昭和薬科 N高【ネット】	昭和薬科	沖縄尚学	開邦	昭和薬科	3年ぶり12回目
海　外	甘泉【中国】	台湾師大附【台湾】							
出場校数	48	47	46	46	32	36	45	44	

歷代全体写真 Pictures

■第 1 回

■第 2 回

■第 3 回

■第 4 回

■第 5 回

■第 6 回

■第 7 回

■第 8 回

■第 9 回

■第 10 回

歷代全体写真 Pictures

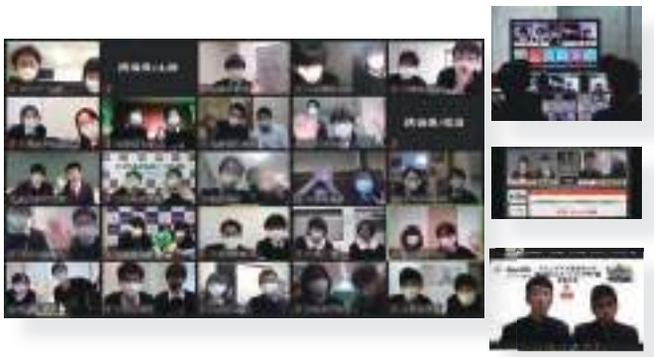
■第 11 回

■第 12 回

■第 13 回

■第 14 回

■第 15 回



■第 16 回

■第 17 回

■第 18 回

エコノミクス甲子園

後援

文部科学省　環境省　金融庁

消費者庁　金融広報中央委員会　IFC 国際金融公社 世界銀行グループ 市場を拓き、機会を創る

協賛

Manulife マニュライフ生命

Wiennomori Corporation

東京短資株式会社

Russell Investments ラッセル・インベストメント株式会社

TAC

ファイブスター投信投資顧問

GB

一休.com

ECOBOG エコ甲子園ボランティア OBOG 会